

地域へ、全国へ、そして  
未来へつなげる熊本県の防災教育

# 学校防災教育 指導の手引



## はじめに

県内各地に未曾有の被害をもたらしました平成 28 年熊本地震からまもなく 2 年が過ぎようとしています。熊本地震の爪痕は大きく、現在も「創造的復興(Build Back Better)」を合言葉に県民皆で力を合わせて復旧・復興に向けて取り組んでいるところです。

震度 7 が 2 回の激震や長期間にわたり継続する強い余震等、平成 28 年 4 月 14 日以降に発生した一連の地震は、死者 246 人、重軽傷者 2,718 人、住居全壊 8,649 棟（平成 29 年 10 月 13 日現在）等、県内各地に甚大な被害を与えました。

想定を超える大規模地震の中、児童生徒等は周囲の状況を自ら判断し、命を守る行動を自らでとる必要がありました。また、学校においては、児童生徒等の安否確認や避難所協力、施設設備の安全確保など、今まで経験したことのない様々な対応に戸惑いながらも、教職員による誠心誠意の対応や各地から、多くの方々の御支援のおかげで、平成 28 年 5 月 11 日までに全ての学校を再開することができました。

このような経験を通して、過去の災害の経験を語り継ぎ、日頃から防災意識を高めておくことの大切さや地域と顔の見える関係をつくっておくことが、災害発生時の「共助」につながるなど貴重な学びを得ることができました。

また、各地からの御支援や、主体的にボランティア活動に取り組む児童生徒等の姿は、我々に前を向く力を与えてくれたことも忘れてはなりません。

今回、このような貴重な学びを地域へ、全国へ、そして未来へつなげ、「自助」、「共助」のために主体的に行動できる児童生徒等を育成することを目的に本手引を作成しました。

防災教育の充実を図るためには、家庭、地域及び関係機関との連携を図りながら、地域の特性や児童生徒等の実態に応じて、各教科等横断的な視点を持ち、内容のつながりを整理しながら計画的に進めていくことが重要です。

そこで、本手引に示している内容を学校安全計画に位置付け、組織的かつ計画的に活用していただくことを期待しています。

終わりに、本手引の作成に当たり、御尽力いただきました作成委員をはじめ関係各位に対しまして深く感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

熊本県教育委員会

# 目 次

「学校防災教育指導の手引」の活用に当たって	1
1 平成 28 年（2016 年）熊本地震を語り継ぐ	3
2 自然災害を学ぶ	
（1）地震・津波災害を学ぶ	7
（2）風水害を学ぶ	11
（3）火山災害を学ぶ	16
（4）過去に熊本県で発生した主な自然災害を学ぶ	20
3 いつでも、どこでも、将来も、自分の命を守り抜く【自助】	
【幼稚園・小学校低学年展開例】	
（1）カードで学ぼう	22
【小学校 1 年～3 学年展開例】	
（1）地震災害から身を守る	24
（2）津波災害から身を守る	28
（3）風水害から身を守る	32
（4）火山災害から身を守る	37
【小学校 4 年～6 学年展開例】	
（1）非常持ち出し袋を作ろう	41
（2）防災マップを見てみよう	45
（3）我が家の防災対策をしよう	48
【中学校・高等学校展開例】	
（1）地震・津波災害に備える	53
（2）風水害に備える	57
（3）火山災害に備える	61
4 助けあい、励ましあい、志高く【共助】	
【小学校 1 年～3 学年展開例】	
（1）避難所生活で大切なこと	64
【小学校 4 年～6 学年展開例】	
（1）避難所生活で私たちができること	68
【中学校・高等学校展開例】	
（1）安全なまちづくりへの参加	72
（2）避難所ケース学習	76
（3）避難所運営ラーニング	80
5 実践的避難訓練計画例	
（1）緊急地震速報を活用した避難訓練計画例	88
（2）引き渡し訓練計画例	90
（3）登下校時の避難訓練計画例	91
（4）地域と連携した避難訓練計画例	93

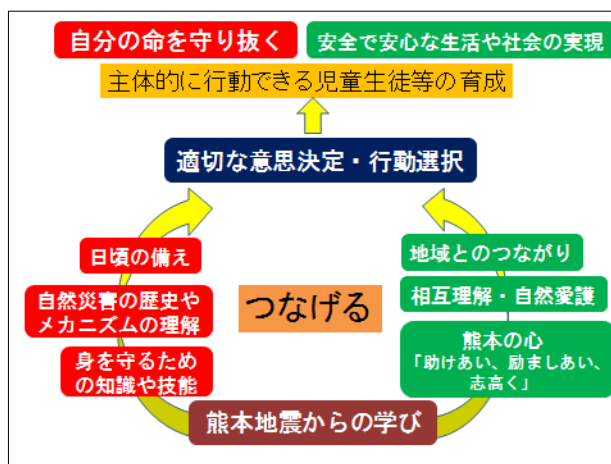
# 「学校防災教育指導の手引」の活用にあたって

## 児童生徒等に身に付けさせたい力

平成 28 年熊本地震では、過去の大規模地震の経験が語り継がれておらず、地震への危機意識が薄れていたという課題があった一方、命の尊さや助け合うこと、支え合うことの大切さ、地域とのつながりの重要性など貴重な学びを得ることができました。

この経験を生かし、本手引では児童生徒等が自然災害や地域への理解を深め、今後も想定される様々な自然災害に対し、「自助」「共助」のために主体的に行動する態度を育成することを目指しています。

【イメージ図】



## 本手引の構成内容

本手引は、以下のような内容で構成しています。幼稚園児及び特別支援学校、特別支援学級の児童生徒については、実態に応じ内容を選択して活用してください。

### 1 平成 28 年（2016 年）熊本地震を語り継ぐ

平成 28 年熊本地震の概要や児童生徒のボランティア活動、学校再開の様子等を示しています。授業の導入や短学活（SHR）等で活用してください。

### 2 自然災害を学ぶ

自然災害（地震・津波、風水害、火山災害）の歴史やメカニズム等についてまとめています。授業の導入や短学活（SHR）等で活用してください。

### 3 いつでも、どこでも、将来も、自分の命を守り抜く【自助】

日頃から身の周りの危険な環境を改善するなどの備えを行うとともに、自然災害発生時に、命を守り抜くために主体的に行動する態度を育成することを目的とした指導展開例を「小学校 1 年～3 年」「小学校 4 年～6 年」「中学校・高等学校」の発達段階に応じて作成しています。

### 4 助けあい、励ましあい、志高く【共助】

自他の生命を尊重し、互いに力を合わせて助け合う「共助」の心を育成することを目的とした指導展開例を「小学校 1 年～3 年」「小学校 4 年～6 年」「中学校・高等学校」の発達段階に応じて作成しています。

### 5 実践的避難訓練計画例

災害対応能力を育成するための避難訓練計画例を掲載しています。各学校の実態に応じた実践的な避難訓練計画の作成に活用してください。

## 授業の実施に当たって

本手引は以下のことに配慮して作成しました。授業を実施する際の参考にしてください。

- ◆学級活動・ホームルーム活動を中心に指導展開例を作成していますが、他の教科や学校行事等と関連させながら、学習が深められるよう「カリキュラム・マネジメントの視点」を示しています。
- ◆授業展開例では、児童生徒等に「これだけは身に付けさせたいこと」を指導ポイント（◎）として示しています。
- ◆児童生徒等の実態に応じて授業の「導入」と「まとめ」に以下のような「心のケア」を行う必要があります。

### 心のケア実践例

→各指導展開例に「心のケアを受ける」と表示しています。

【導入】では次のようなことを伝えます。

- これから自然災害について学習するが、災害について理解し、正しく対処する方法を学ぶことは安心につながる。
- ドキドキすることがあっても、それは自然なことだから安心してよいこと。ただし、我慢できなくなったら、遠慮なく先生に知らせること。
- 「災害」や「地震」という言葉自体は安全であるため、安心して授業を受けてほしいこと。

【まとめ】では次のようなことを行います。

- 授業の終末にリラクゼーション【くまモンとヨーガ、セルフハグ法、リラックス呼吸法等】を実施し、心身のリラックスを図る。

（参考：熊本県立教育センターHP 防災教育・心のサポート授業）

- 「1時間よく頑張ったね」などねぎらいの言葉をかける。

- ◆発達段階に応じて、災害発生時には以下のような心理が働き、避難行動等に影響を与えることがあることについて理解させておくことが重要です。

### 正常性バイアス

異常事態に遭遇したとき、「こんなはずはない」と思ったり、危険が予測される状況でも「自分は大丈夫だろう」と思って、自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう心理的特性を「正常性バイアス」といいます。人は危険を感じると強いストレスを感じます。

しかし、強いストレスはできるだけ避けたいので、無意識のうちに危険を見て見ぬふりをしてしまいます。

### 多数派同調バイアス

「逃げるほど大変な事態なら、周りの人がきつと大騒ぎするはずだ。でも、みんな静かだから大丈夫だろう」と、大勢の人がいるととりあえず周りに合わせようとする心理的特性を「多数派同調バイアス」と言います。緊急時、人は一人でいると自分で判断して行動を起こします。

しかし、周りに人がいると「みんなでいるから」という安心感で、緊急行動が遅れる傾向にあります。また、自分だけが他の人と違う行動を取りにくくなり、お互いが無意識に牽制しあい、他者の動きに左右されてしまいます。それは、結果として逃げるタイミングを失ったり、せっかく逃げたのに引き返したりすることにもなりかねません。みんながいるから大丈夫なのではなく、みんなでいるから危険にさらされる場合もあります。

- ◆本手引では「共助」をテーマにした指導展開例を掲載しており、熊本地震でボランティア活動等を行った児童生徒等の姿を多く扱っています。しかし、様々な理由で、ボランティア活動ができなかった児童生徒等もいたことにも配慮する必要があります。

# 平成 28 年(2016 年)熊本地震を語り継ぐ

## 1 地震の震源及び規模等について

地震発生時刻	平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分	平成 28 年 4 月 16 日 1 時 25 分
震央地名	熊本県熊本地方	熊本県熊本地方
発生場所 (緯度経度)	北緯 32 度 44.5 分、東経 130 度 48.5 分	北緯 32 度 45.3 分、東経 130 度 45.8 分
発生場所 (深さ)	深さ 11 km	深さ 12 km
規模 (マグニチュード)	6.5	7.3
最大震度	7 (熊本県益城町)	7 (熊本県益城町、西原村)
発震機構	北北西—南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型 【日奈久断層帯】	南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型 【布田川断層帯】
推計震度分布図 凡 例		
	震度 7 震度 6 強 震度 6 弱 震度 5 強 震度 5 弱 震度 4	

## 2 熊本地震の特徴及び被害状況について

### (1) 熊本地震の特徴

- **同一地域において震度 7 が短期間 (28 時間内) に 2 度発生 (観測史上初)**
- **頻発する余震 (発災から 15 日間の余震回数 2,959 回)**

	震度 6 弱以上	発災から 15 日間の余震回数	被災市町村人口 (震度 6 弱以上)	※最大避難者数
熊本地震	7 回 うち震度 7 が 2 回	2,959 回	約 148 万人 (県人口の約 83%)	約 18.4 万人 (県人口の 10.3%)
阪神・淡路大震災	1 回	230 回	約 232 万人 (同 42%)	約 31.7 万人 (同 5.7%)
新潟県中越地震	5 回	680 回	約 38 万人 (同 16%)	約 10.3 万人 (同 4.2%)

※ 避難者数は、指定避難所内の人数であり、避難所以外の車中泊等の人数は含まれない。

【提供：熊本県危機管理防災課】

【平成 28 年 4 月 14 日以降に発生した震度 6 弱以上の地震及び地震発生回数】(平成 29 年 3 月 31 日現在)

発生時刻	震央地名	マグニチュード	最大震度
4 月 14 日 21 時 26 分	熊本県熊本地方	6.5	7
4 月 14 日 22 時 07 分	熊本県熊本地方	5.8	6 弱
4 月 15 日 00 時 03 分	熊本県熊本地方	6.4	6 強
4 月 16 日 01 時 25 分	熊本県熊本地方	7.3	7
4 月 16 日 01 時 45 分	熊本県熊本地方	5.9	6 弱
4 月 16 日 03 時 55 分	熊本県阿蘇地方	5.8	6 強
4 月 16 日 09 時 48 分	熊本県熊本地方	5.4	6 弱

震度	発生回数	震度	発生回数
7	2 回	4	117 回
6 強	2 回	3	409 回
6 弱	3 回	2	1,164 回
5 強	5 回	1	2,571 回
5 弱	12 回		

震度 1 以上を観測する地震が 4,285 回発生

【提供：熊本地方気象台】

(2) 人的・物的被害状況 (平成 29 年 10 月 13 日現在)

人的被害		住宅被害	
※死者	246 人	全壊	8,649 棟
重軽傷者	2,718 人	半壊	34,235 棟
		一部損壊	153,898 棟

※死者内訳

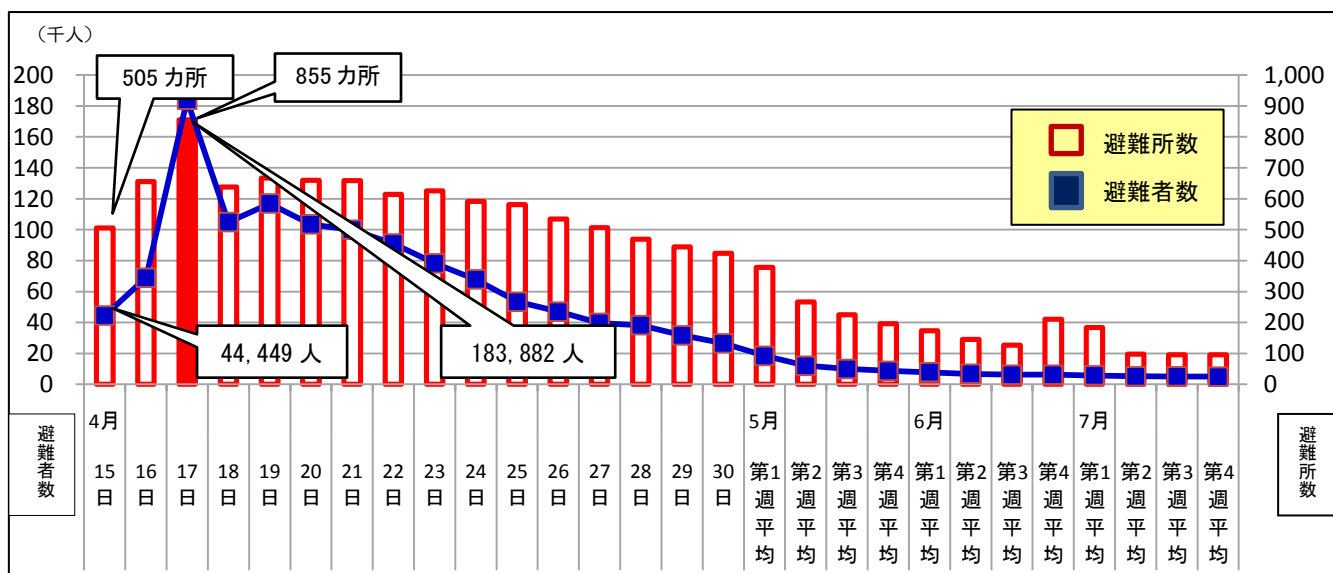
- ①警察が検視により確認している死者数 50 人
- ②市町村において災害が原因で死亡したと認められたもの 191 人
- ③6月19日から6月25日に発生した豪雨による被害のうち熊本地震との関連が認められた死者数 5 人

【提供：熊本県危機管理防災課】



(3) 避難所と避難者数の推移

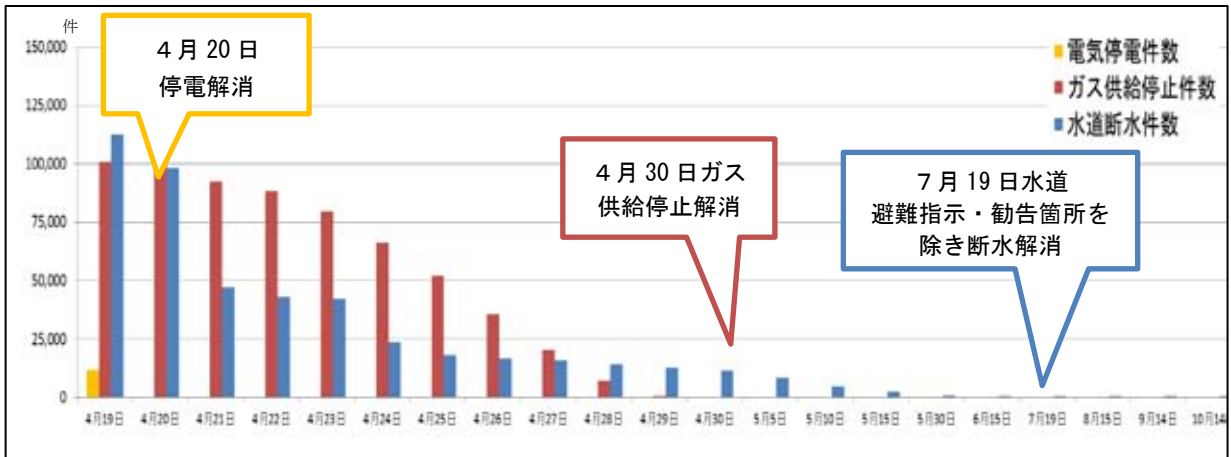
【提供 熊本地震デジタルアーカイブ(熊本県)】



※平成 28 年 11 月 18 日をもって全ての避難所が閉鎖

【提供：熊本県危機管理防災課】

#### (4) ライフラインの被災状況と復旧状況



【提供：熊本県危機管理防災課】

### 3 避難所となった学校について

熊本地震では多くの学校が被災し、ピーク時には344校の施設が避難所となり、最大2,000人超を受け入れた学校もありました。また、主たる避難所となる体育館の内装材落下などにより、避難者が他の避難所やグラウンドなどに駐車した車中への移動を余儀なくされたケースもありました。

校種	全校数	避難所開設	開設割合	最大避難者数
公立小学校	365校	224校	61%	79,793人
公立中学校※	162校	92校	57%	37,352人
公立高等学校	56校	24校	43%	12,642人
公立特別支援学校	18校	4校	22%	963人
合計	601校	344校	57%	130,750人

※県立宇土中、玉名高附属中、八代中は、高校と一体でカウントするため件数からは除く。

【熊本地震の対応に関する検証報告（熊本県教育委員会）より】



避難所となった学校のグラウンド



避難所での配給



体育館に身を寄せる避難者

### 4 支援について

#### (1) 今、自分たちができることを

避難所などでは、自らも避難所生活を送りながらも「困っている人たちやお世話になっている人たちのために、自分たちができることを」という思いで、物資の搬入や食事の後片付け、手作り新聞の発行など、多くの子どもたちがボランティア活動に取り組みました。



避難所での肩もみ  
ボランティア（山西小学校）



中学生による支援物資配給の  
ボランティア（嘉島中学校）



支援物資配給の  
ボランティア（県立第二高校）



## (2) 世界各国、全国からの支援

先の見えない不安な日々。各地からの温かい支援が、私たちに前を向く力を与えてくれました。



励ましのメッセージ (広安小学校)



ネパールの子どもたちからメッセージ  
「ともに乗り越えよう」



兵庫県震災・学校支援チーム  
EARTHによる支援(南阿蘇中学校)

## 5 学校再開について

平成 28 年 4 月 18 日以降、学校の被災状況に応じて学校の再開を行っていきました。県立学校では、5 月 10 日、市町村立学校では 5 月 11 日までに全ての学校が再開しました。

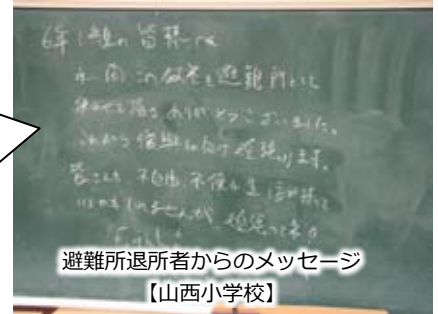
最長休校日数は、県立学校が 14 日 (宇土中・高校)、市町村立学校が 14 日 (西原村立山西小学校、河原小学校、西原中学校) でした。



避難所退所者から黑板絵の  
プレゼント【広安西小学校】

「今までありがとうございました。勉強がんばってネ！」

「6年1組の皆様へ  
永い間、この教室を避難所として使わせて頂き、ありがとうございました。これから復興に向け頑張ります。皆さんも、不自由、不便な生活が待っているかもしれませんが、頑張ってください！Fight!!」



避難所退所者からのメッセージ  
【山西小学校】



学校再開を喜び合う  
子どもたち【山西小学校】



久しぶりの登校  
【南阿蘇中学校】



学校再開を喜び合う子どもたち  
【南阿蘇中学校】



ユニセフ寄贈テントでの授業  
【県立第二高校】



多目的ホールを仕切って長机での授業  
【益城中央小学校 (木山中学校)】

# 自然災害を学ぶ



# 地震・津波災害を学ぶ

## 1 地震のしくみについて

### 内陸型地震

海のプレートの動きなどによって、陸のプレート内に力が加わり、地震が発生します。これまで繰り返し地震を起こし、今後も地震を起こすと考えられる断層を「活断層」といいます。



### 平成 28 年(2016 年)熊本地震



布田川断層(堂園地区)  
益城町の「堂園池」に隣接する畑地に180m にわたり露出した断層。約 2.2m の横ずれが生じました。

### 海溝型地震

海のプレートが陸のプレートの下へ沈み込む時に、陸のプレートの先のほうも下に引きずりこまれます。この陸のプレートがその力に耐えきれず、元にもどろうとする時に地震が発生します。この地震は巨大地震となることがあり、津波をとともなうこともあります。

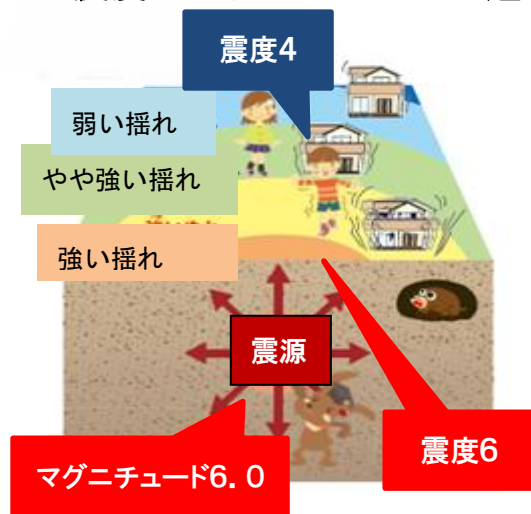


### 平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震 《東日本大震災》



「防災ハンドブック（熊本県）」を参考に作成

## 2 震度とマグニチュードの違いについて



震度とは、地震が起こった時に、ある地点での地面の揺れの強さを表したものです。これに対してマグニチュードは地震そのものの大きさ（地震のエネルギー）を表します。

例えば、マグニチュード 6.0 の地震が起こった時でも、震源からの距離や地質の違いによって震度の大きさが変わってきます。

マグニチュードが 1 大きくなると、地震のエネルギーは約 32 倍になります。



【地震調査研究推進本部「地震をみてみよう」を加工して作成】

マグニチュード  
6.0

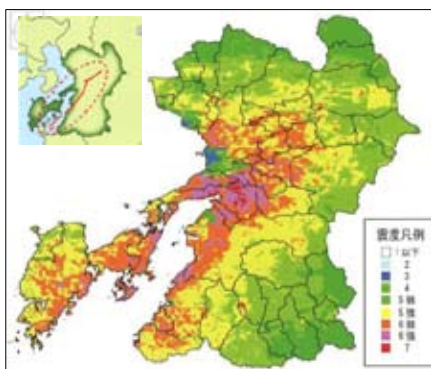
マグニチュード  
7.0

マグニチュード  
8.0

### 3 断層帯による想定震度分布図

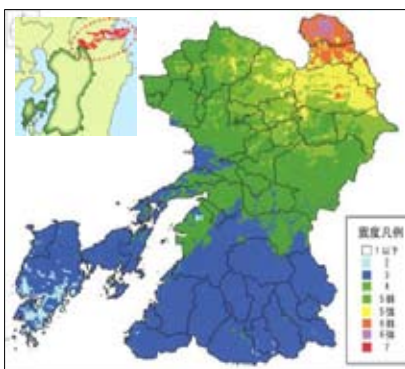
【布田川・日奈久断層帯】

(M7.9を想定)



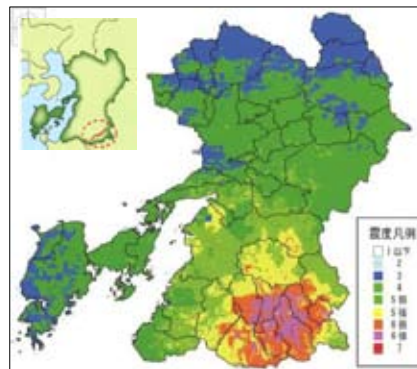
【別府・万年山断層帯】

(M7.3を想定)



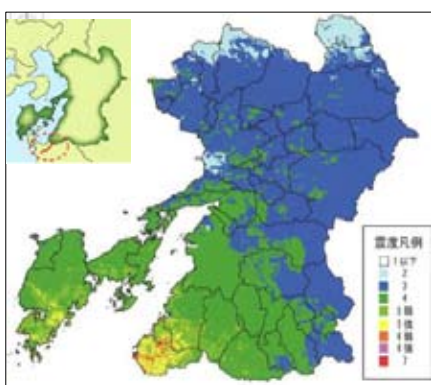
【人吉盆地南縁断層】

(M7.1を想定)



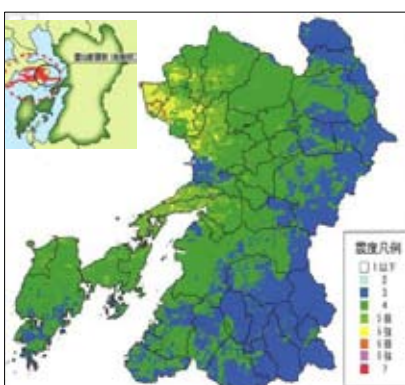
【出水断層帯】

(M7.0を想定)



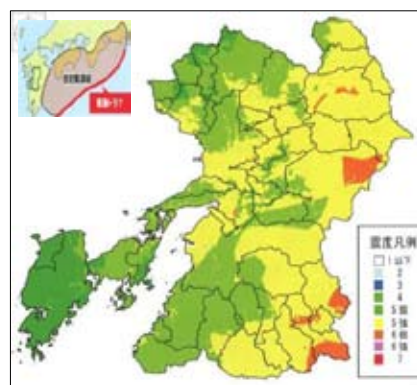
【雲仙断層群 (南東部)】

(M7.1を想定)



【南海トラフ (最大値)】

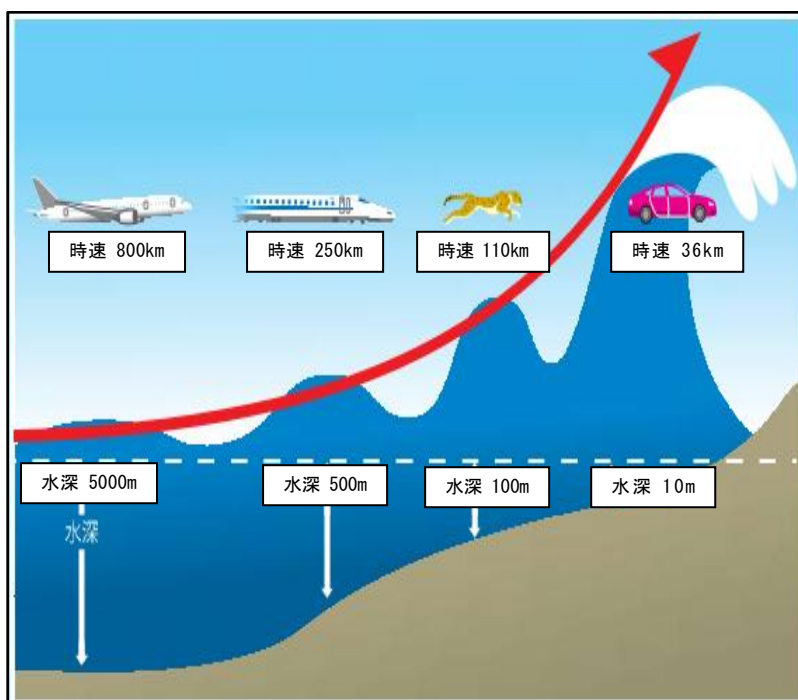
(M9.0を想定)



【提供：みんなで防災 ガイドブック (熊本県)】

### 4 津波の特徴について

- (1) 津波の速さは海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機並みの速さで伝わります。海岸付近でも100mを約10秒の速さで進みます。
- (2) 津波の高さは海岸や海底の地形などに影響され、想定以上の高さになることもあります。
- (3) 津波は1回だけでなく何回も繰り返し襲ってきます。また、最初の波が一番大きいとは限らず、後で来襲する津波の方が高くなることもあります。
- (4) 地震の揺れが小さくても津波が来る場合もあります。



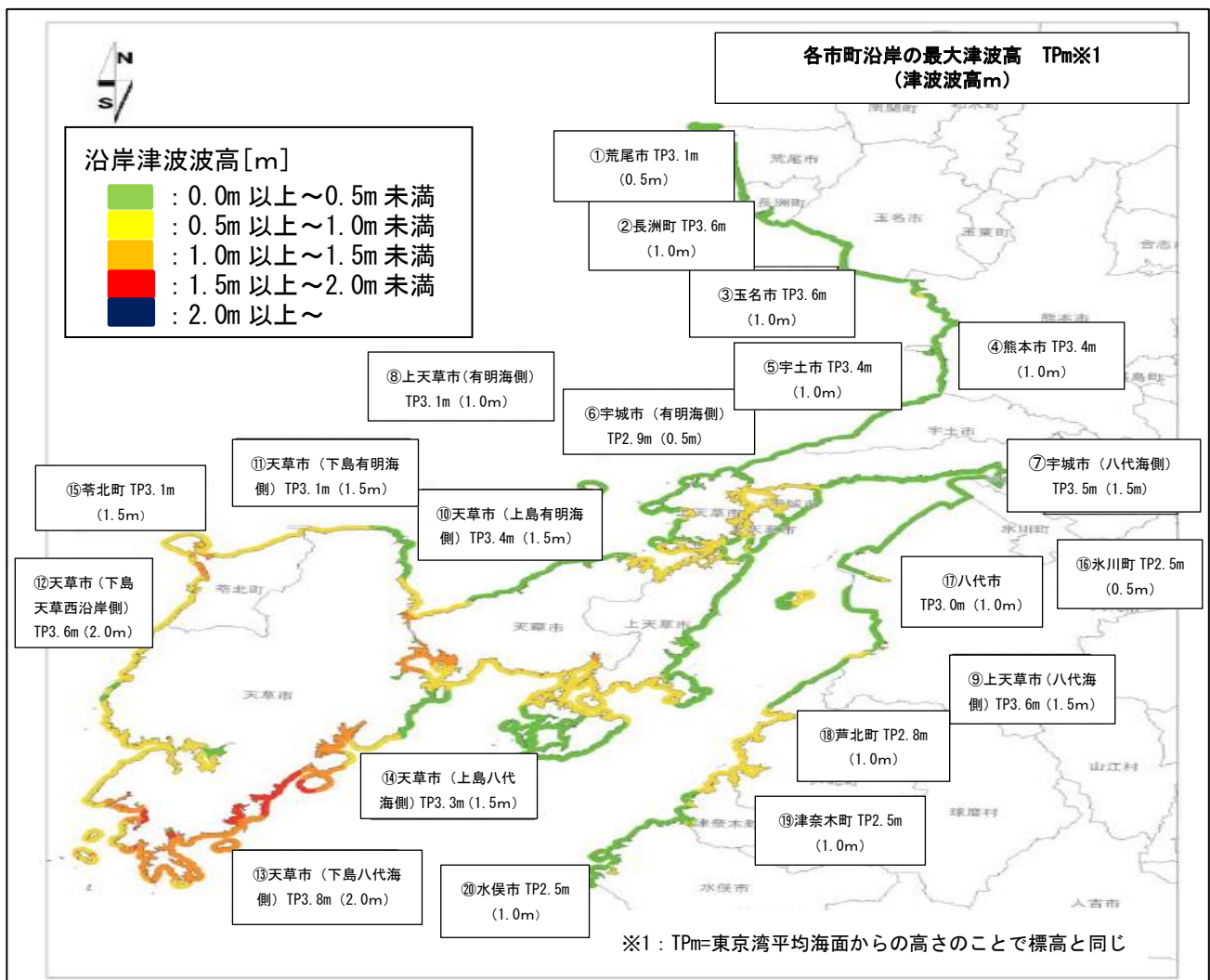
【提供：気象庁】

## 5 津波に関する警報等について

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と とるべき行動
		数値での発表	巨大地震の 場合の発表	
大津波 警報	予想される津波の高さが 高いところで3mを超え る場合。	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による 流れに巻き込まれます。 ただちに海岸や川沿いから離れ、高台や 避難ビルなど安全な場所へ避難してくださ い。
		10m (5m<予想高さ≤10m)		
		5m (3m<予想高さ≤5m)		
津波 警報	予想される津波の高さが 高いところで1mを超え、 3m以下の場合。	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水 被害が発生します。人は津波による流れに 巻き込まれます。ただちに海岸や川沿いから 離れ、高台や避難ビルなど安全な場所に 避難してください。
津波 注意報	予想される津波の高さが 高いところで0.2m以上、 1m以下の場合であつて、 津波による災害のおそれ がある場合。	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	表記しない	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、 また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆 します。ただちに海から上がって、海岸から 離れてください。

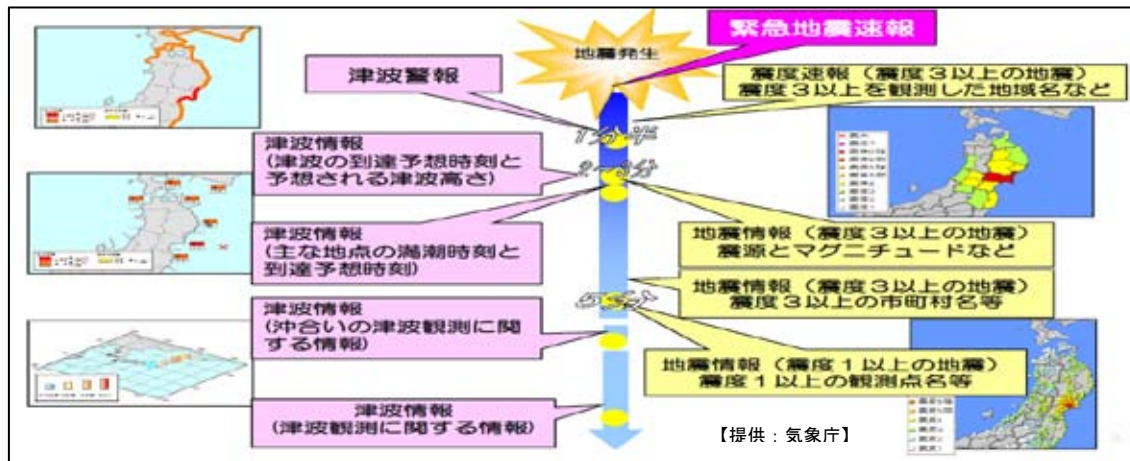
【提供：気象庁】

## 6 津波高の分布について



【提供：みんなで防災 ガイドブック (熊本県)】

## 7 緊急地震速報、津波警報、地震情報の発表について



## 8 日本で起こった主な地震（平成以降）

発生日月日	震央地名・地震名	規模	主な被害
1993年1月15日 (平成5年)	釧路沖・平成5年(1993年)釧路沖地震	M7.5	死者2人、住家全壊12棟
1993年7月12日 (平成5年)	北海道南西沖・平成5年(1993年)北海道南西沖地震	M7.8	死者・行方不明者230人 津波の遡上高30.5m
1994年10月4日 (平成6年)	北海道東方沖・平成6(1994年)北海道東方沖地震	M8.2	死者11人 173cmの津波を観測
1994年12月28日 (平成6年)	三陸沖・平成6年(1994年)三陸はるか沖地震	M7.6	死者3人 住家全壊72棟
1995年1月17日 (平成7年)	大阪湾・平成7年(1995年)兵庫県南部地震<<阪神・淡路大震災>>	M7.3	死者・行方不明者6,437人 住家全壊10万4906棟
2000年10月6日 (平成12年)	鳥取県西部・平成12年(2000年)鳥取県西部地震	M7.3	負傷者182人 住家全壊435棟
2003年9月26日 (平成15年)	釧路沖【十勝沖】・平成15年(2003年)十勝沖地震	M8.0	死者・行方不明者2人 負傷者849人 255cmの津波を観測
2004年9月5日 (平成16年)	紀伊半島沖【三重県南東沖】	M7.1	負傷者6人 66cmの津波を観測
2004年9月5日 (平成16年)	東海道沖【三重県南東沖】	M7.4	負傷者36人 101cmの津波を観測
2004年10月23日 (平成16年)	新潟県中越地方・平成16年(2004年)新潟県中越地震	M6.8	死者68人 負傷者4,805人
2005年3月20日 (平成17年)	福岡県西方沖【福岡県北西沖】	M7.0	死者1人 負傷者1,204人
2007年3月25日 (平成19年)	能登半島沖・平成19年(2007年)能登半島地震	M6.9	死者1人 負傷者356人 22cmの津波を観測
2007年7月16日 (平成19年)	新潟県上中越沖・平成19年(2007年)新潟県中越沖地震	M6.8	死者15人 負傷者2,346人 100cmの津波を観測
2008年6月14日 (平成20年)	岩手県内陸南部・平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震	M7.2	死者・行方不明者23人
2010年2月27日 (平成22年)	沖縄本島近海	M7.2	負傷者2人 10cm津波を観測
2011年3月9日 (平成23年)	三陸沖	M7.3	負傷者2人 55cmの津波を観測
2011年3月11日 (平成23年)	三陸沖・平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震<<東日本大震災>>	M9.0	死者・行方不明者22,152人 9.3m以上の津波を観測
2011年4月11日 (平成23年)	福島県浜通り	M7.0	死者4人 負傷者10人
2016年4月14日 ～(平成28年)	熊本県熊本地方・平成28年(2016年)熊本地震	※ M7.3	死者246人 負傷者2,718人 (H29.10.13現在)
2016年11月22日 (平成28年)	福島県沖	M7.4	負傷者20人 144cmの津波を観測

※「平成28年(2016年)熊本地震」における最大規模の地震(4月16日1時25分熊本県熊本地方の地震)を記載している。

【提供：気象庁】

# 風水害を学ぶ

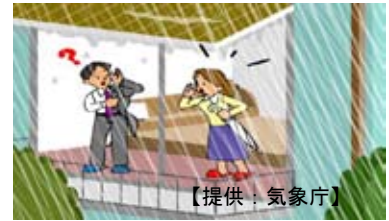
## 1 大雨について

### (1) 集中豪雨が発生しやすいとき

- 前線が停滞しているとき（特に梅雨期の終わりごろ）
- 台風が近づいているときや台風が上陸したとき
- 大気の状態が不安定で、次々と雷雲が発生しているとき

【線状降水帯とは】

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50～300km 程度、幅 20～50km 程度の強い降水をともなう雨域。



【提供：気象庁】

### 【白川の断面と 1953 年（昭和 28 年）の白川大水害時の水位】



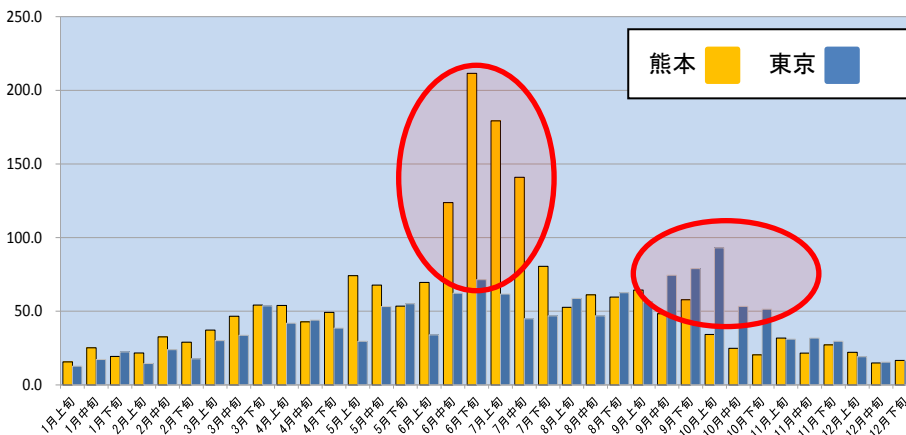
### 【白川大水害で浸水した深さ：熊本市下通アーケード】



白川大水害のような大きな洪水が起こると、下通アーケードはこのように水に浸ってしまう可能性があります。

### (2) 熊本県の雨の特徴

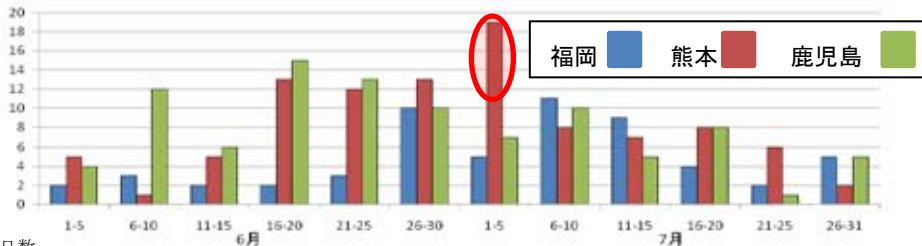
【提供：熊本国道河川事務所】



梅雨時期に雨がまとまって降る。  
旬別降水量の平年値では東京は梅雨より秋雨のほうが多い。

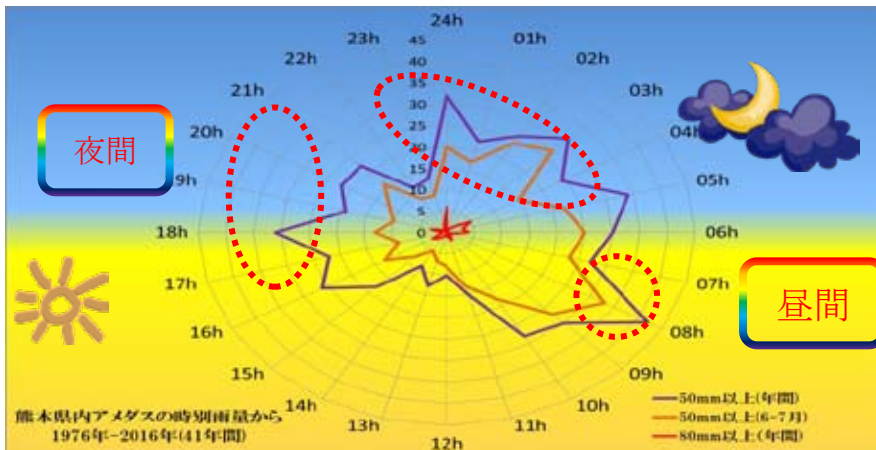
熊本と東京の旬別降水量の平年値

【提供：熊本地方気象台】



7月のはじめ頃大雨になりやすい傾向がある。

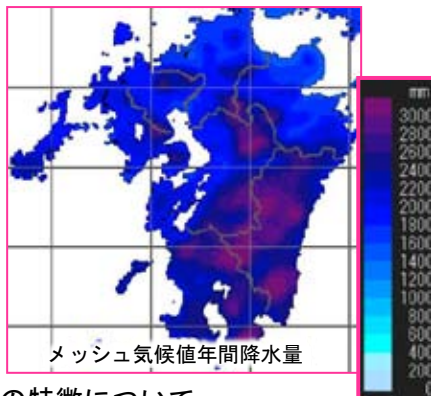
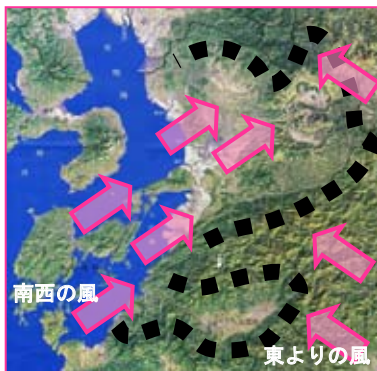
【提供：熊本地方気象台】  
熊本・福岡・鹿児島の半旬別（ほぼ5日毎）の日降水量100mm以上の日数（1951年～2010年）



寝ている時間帯に大雨が発生する傾向がある。

熊本県内の強雨の時刻別発生回数

【提供：熊本地方気象台】



○暖かく湿った南西風の場合、三方を山地に囲まれているため、雨が降りやすい。特に梅雨前線の南側で大雨になりやすい。  
○南東や東風の場合は、県境の山沿いで大雨になりやすい。

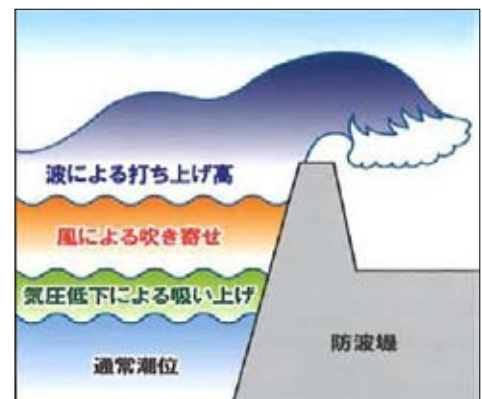
熊本県の雨の特徴について

【提供：熊本地方気象台】

## 2 高潮災害について

### 高潮災害発生メカニズム

○高潮は、台風や低気圧の接近に伴って、海面の高さが通常よりも著しく高くなる現象です。その現象は大きく、  
①気圧低下による吸い上げ、②風による吹き寄せ、③波による打ち上げ高、の3つの要因に分けられます。気圧が1ヘクトパスカル下がると、約1cmの割合で海面が吸い上げられます。また、強い風に見舞われると、海水が風下側に吹き寄せられ、同時に大きな波も発生します。



## 3 土砂災害について

### (1) 土砂災害発生メカニズム

○土砂災害は、大雨や融雪、地震、火山噴火等によって発生します。【提供：みんなで防災 ガイドブック（熊本県）】  
○梅雨や台風などの雨が多く降る時期は注意が必要です。  
○1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降水量になったら十分な注意が必要です。



## (2) 土砂災害の前兆現象

土石流	がけ崩れ	地すべり
<p>長雨や集中豪雨によって、石や土砂が水と一緒に一気に流れ出す現象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山鳴りがする。</li> <li>・急に川の流れが濁り、流木が混ざっている。</li> <li>・土臭いにおいがする。</li> <li>・雨が降り続けているのに川の水位が下がる。</li> </ul>	<p>長雨や集中豪雨によって、斜面が急に崩れ落ちる現象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がけから水が湧き出してくる。</li> <li>・がけに亀裂が入る。</li> <li>・がけから小石がばらばら落ちてくる。</li> <li>・がけから木の根が切れる等の異様な音がする。</li> <li>・家や擁壁、樹木や電柱が傾く。</li> </ul>	<p>地下水などが粘土のような滑りやすい地面にしみ込んで、その影響で地面が動き出す現象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沢や井戸の水が濁る。</li> <li>・地面にひび割れができる。</li> <li>・斜面から水が湧き出す。</li> <li>・家や擁壁に亀裂が入る。</li> <li>・家や擁壁、樹木や電柱が傾く。</li> </ul>

## 4 気象庁が発表する気象情報について

【提供：みんなで防災 ガイドブック（熊本県）】

### (1) 注意報・警報

- 注意報 災害が起こるおそれのあるときに発表されます。※16種類（大雨、洪水、強風等）
- 警報 重大な災害が起こるおそれがあるときに発表されます。※7種類（大雨、洪水、暴風高潮等）

### (2) 土砂災害警戒情報

- 大雨警報発表時にさらに土砂災害発生の危険度が高まった時、市町村長が発令する避難勧告等や住民の自主避難の参考になるよう、都道府県と気象庁が共同で発表するものです。

### (3) 記録的短時間大雨情報

- 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨が観測または解析されたときに発表されます。その基準は、1時間雨量歴代1位または2位の記録を参考に、熊本県では110mmとなっています。この情報は、大雨警報発表時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを知らせるために発表されるものです。

### (4) 特別警報

- 警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合、「特別警報」が発表されます。特別警報が発表された地域は、これまでに経験したことのないような重大な危険が差し迫った異常な状況であり、最大級の警戒が必要となります。

## 5 水位危険度レベルと自治体、住民に求める行動等



## 6 市町村が発令する避難情報について

大雨等による自然災害が発生し、人的被害の危険性が高まった時に、市町村が発令します。

	種類	発表時の状況
	避難指示 (緊急)	人的被害が発生する危険性が非常に高いと判断された段階
	避難勧告	通常の避難行動ができる者が避難行動を開始する段階で人的被害が発生する可能性が明らかに高まった段階
	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難行動に時間を要する者（要援護者等）が避難を開始する段階

## 7 日本で過去に起こった主な風水害

【提供：熊本県危機管理防災課】

西暦（和暦）	災害名等	主な被害
1934（昭和9）年9月21日	室戸台風	死者2,702人、行方不明者334人。
1945（昭和20）年 9月17日～9月18日	枕崎台風	終戦直後を襲った猛烈台風。死者2,473人、行方不明者1,283人。
1947（昭和22）年 9月14日～9月15日	カスリーン台風	利根川・荒川決壊で東京など関東平野が水浸。群馬・栃木両県で死者・行方不明者1,100人以上。
1948（昭和23）年 9月15日～9月17日	アイオン台風	岩手県では北上川やその支流が氾濫。死者・行方不明者700人を超える。
1951（昭和26）年 10月10日～10月15日	ルース台風	鹿児島県で強風・高潮害。山口県で土砂災害。死者572人、行方不明者371人。
1953（昭和28）年 6月23日～6月30日	梅雨前線	九州北部に大雨。死者748人、行方不明者265人。熊本県で死者・行方不明者が500人を超えた。
1953（昭和28）年 7月16日～7月25日	南紀豪雨	和歌山県で豪雨。有田川、日高川が氾濫。死者713人、行方不明者411人。
1954（昭和29）年 9月24日～9月27日	洞爺丸台風	日本海を発達しながら猛スピードで進む。青函連絡船「洞爺丸」遭難。死者1,361人、行方不明者400人。
1957（昭和32）年 7月25日～7月28日	諫早豪雨	長崎県瑞穂町西郷では24時間降水量1,000mmを超える記録的豪雨。死者586人、行方不明者136人。
1958（昭和33）年 9月26日～9月28日	狩野川台風	伊豆半島の狩野川が氾濫し大被害。首都圏でもがけ崩れや浸水の被害。死者888人、行方不明者381人。
1959（昭和34）年 9月15日～9月18日	宮古島台風	猛烈な風。宮古島で最大瞬間風速64.8m/s。死者47人、行方不明者52人。
1959（昭和34）年 9月26日～9月27日	伊勢湾台風	高潮による被害顕著。台風による死者・行方不明者最大。死者4,697人、行方不明者401人。
1961（昭和36）年 6月24日～7月5日	昭和36年梅雨前線豪雨	全国で大雨被害。長野県伊那谷で大きな被害。死者302人、行方不明者55人。
1961（昭和36）年 9月15日～9月17日	第2室戸台風	暴風と高潮による被害。室戸岬で最大瞬間風速84.5m/s以上。死者194人、行方不明者8人。
1964（昭和39）年 7月17日～7月20日	昭和39年7月山陰北陸豪雨	日降水量200mmを超える集中豪雨。出雲地方で大被害。死者114人、行方不明者18人。
1966（昭和41）年 9月4日～9月6日	第2宮古島台風	宮古島では長時間にわたり暴風。宮古島で最大瞬間風速85.3m/s。
1967（昭和42）年 7月8日～7月9日	昭和42年7月豪雨	佐世保、呉、神戸市で大きな被害、佐世保で1時間125mmの大雨。死者351人、行方不明者18人。
1967（昭和42）年 8月26日～8月29日	羽越豪雨	新潟県と山形県で大雨。死者83人、行方不明者55人。

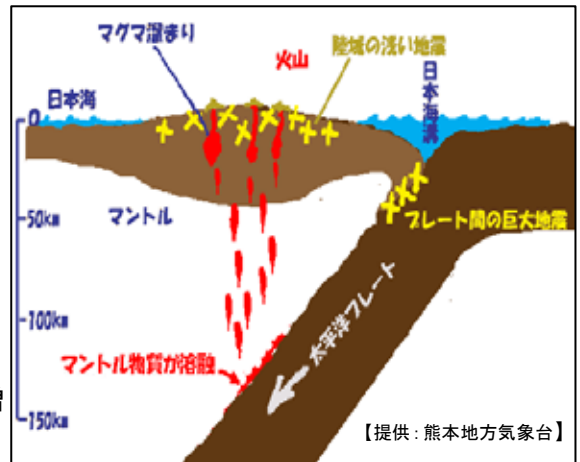
1968（昭和43）年 9月22日～9月27日	第3宮古島台風	宮古島で甚大な被害。宮古島で最大瞬間風速79.8m/s 死者11人。
1972（昭和47）年 7月3日～7月15日	昭和47年7月豪雨	全国で豪雨災害相次ぐ。熊本県姫戸町、高知県土佐 山田町で土砂災害により多数の死者。 死者421人、行方不明者26人。
1977（昭和52）年 9月8日～9月10日	沖永良部台風	沖永良部島で最低気圧907.3hPa。死者1人。
1982（昭和57）年 7月～8月	昭和57年7月豪雨と台風 第10号	長崎県を中心に記録的な大雨（長崎豪雨）、台風第 10号は東海地方に上陸。死者427人、行方不明者 12人。
1983（昭和58）年 7月20日～7月29日	昭和58年7月豪雨	島根県を中心に大雨。死者112人、行方不明者5人。
1990（平成2）年 9月11日～9月20日	前線、平成2年台風第19 号	台風が和歌山県に上陸し、本州縦断。死者42人、 行方不明者2人。
1991（平成3）年 9月12日～9月28日	前線、平成3年台風17、 18、19号	3個の台風が相次いで日本に上陸又は接近。 死者84人 行方不明者2人。
1993（平成5）年 7月31日～8月29日	梅雨前線、台風第7・11 号 平成5年（1993年） 8月豪雨（7/31～8/7）	九州南部を中心に甚大な被害。死者・行方不明者93 人。
1993（平成5）年 9月1日～9月5日	平成5年台風第13号	非常に強い勢力で九州南部に上陸。 死者・行方不明者48人。
2004（平成16）年 7月12日～7月14日	平成16年7月新潟・福島 豪雨	新潟県中越地方や福島県会津地方で記録的大雨。 死者16人、負傷者83人。
2004（平成16）年 7月17日～7月18日	平成16年7月福井豪雨	福井県や岐阜県で大雨。死者4人、行方不明者1人。
2004（平成16）年 9月4日～9月8日	平成16年台風第18号	沖縄地方から北海道地方にかけて、各地で猛烈な 風。死者43人・行方不明者3人。
2004（平成16）年 10月18日～10月21日	平成16年台風第23号 前線	広い範囲で大雨。土砂崩れや浸水等により甚大な被 害。死者95人、行方不明者3人。
2006（平成18）年 7月15日～7月24日	平成18年7月豪雨	長野県、鹿児島県を中心に九州、山陰、近畿、北陸 地方の広い範囲で大雨。死者28人、行方不明者2 人。
2008（平成20）年 8月26日～8月31日	平成20年8月末豪雨	愛知県を中心に東海・関東・中国および東北地方な どで記録的な大雨。死者2人。
2009（平成21）年 7月19日～7月26日	平成21年7月中国・九州 北部豪雨	九州北部・中国・四国地方などで大雨。死者36人。
2011（平成23）年 7月27日～7月30日	平成23年7月新潟・福島 豪雨	新潟県や福島県会津で記録的な大雨。 死者4人、行方不明者2人。
2011（平成23）年 8月30日～9月6日	平成23年台風第12号	紀伊半島を中心に記録的な大雨。死者82人、行方 不明者16人。
2012（平成24）年 7月11日～7月14日	平成24年7月九州北部豪 雨	九州北部を中心に大雨。 死者30人、行方不明者3人。
2013（平成25）年 10月14日～10月16日	台風第26号による暴 風・大雨（速報）	西日本から北日本の広い範囲で暴風・大雨。死者40 人、行方不明者3人。
2014（平成26）年 7月30日～8月11日	平成26年8月豪雨 （速報）	四国を中心に広い範囲で大雨。死者6人、負傷者92 人。
2014（平成26）年 8月15日～8月20日	平成26年8月豪雨 （速報）	西日本から東日本の広い範囲で大雨。死者85人、 負傷者75人。
2015（平成27）年 9月7日～9月11日	平成27年9月関東・東北 豪雨（速報）	関東、東北で記録的な大雨。死者14人、負傷者80 人。
2017（平成29）年 6月30日～7月10日	平成29年7月九州北部豪 雨（速報）	西日本から東日本を中心に大雨。5日から6日にか けて西日本で記録的な大雨。死者39人、行方不明 者4人。

【気象庁HPから抜粋】

# 火山災害を学ぶ

## 1 噴火のしくみについて

- (1) 火山噴火は陸や海のプレートや地下のマントルの動きと深く関わっています。
- (2) 地下深くにあるマントルは、高温の岩石でできていますが、その一部が溶けて「マグマ」となります。
- (3) このマグマ（溶けた岩石）は、マグマだまりに蓄えられるなど様々な作用を受けて地表に噴出します。マグマには、たくさんのガスが溶け込んでいて、そのガスの90%以上が水蒸気です。マグマに溶けていた水が水蒸気に変化するとき、体積は約1000倍に増えます。これが噴火のエネルギーを生み出します。



## 2 想定される火山災害の事象について



【提供：みんなで防災 ハンドブック（熊本県）】

### ① 噴石

噴石の中でも直径約50cm以上の大きな岩石等は風の影響を受けず、火口から弾道を描いて飛行します。飛行距離は、通常4km以内です。直径が10cm程度の噴石でも、10km以上も風に運ばれて落下することがあるので注意が必要です。

### ② 火砕流・火砕サージ

火砕流とは、火山灰や岩塊、火山ガスや空気が一体となって急速に山体を流下する現象をいい、その速度は時速数十kmから時速百km以上、温度は数百℃にも達することがあります。火砕サージは、火砕流の先端や周囲に発生する比較的溶岩片の少ない熱風状のものですが、その温度や速度は火砕流本体とほとんど変わりません。

### ③ 土石流

火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなり、数ミリ程度の雨でも発生することがあります。これらの土石流や泥流は、時速数十kmで斜面を流れ下ります。

### ④ 溶岩流

火口から流出したマグマが火山の斜面を流下するものです。マグマは通常900℃から1,200℃の温度なので、この範囲に山林や住居があれば焼失します。地形や溶岩の温度・組成にもよりますが、流下速度は比較的遅く基本的に人力による避難が可能です。

### ⑤ 火山ガス

火山地域ではマグマに溶けている水蒸気や二酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素など様々な成分が気体となって放出されます。ガスの成分によっては人体に悪影響を及ぼし、過去に死亡事故も発生しています。






### ⑥ 降灰

火山灰が目に入ったり、多量に吸い込んだりすると健康被害につながります。また、降り積もると重みで木造家屋に被害が出たり、農作物、電子機器、交通麻痺、航空機のエンジントラブルなど社会生活に深刻な影響を与えたりします。

### 3 火山活動に関する情報について

#### (1) 噴火警戒レベル

噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1からレベル5までの5段階に区分したものです。各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目でわかるキーワードを設定しています。

種類	名称	対象範囲	レベルと キーワード	説明		
				火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入 山者への 対応
特別 警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域 及び それより 火口側	 <b>レベル5</b> <b>避難</b>	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法を判断)。	
			 <b>レベル4</b> <b>避難準備</b>	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まってきている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。	
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺 警報	火口から 居住地域 近くまで	 <b>レベル3</b> <b>入山規制</b>	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常的生活(今後の火山活動の推移に注意。入山規制)。状況に応じて要配慮者の避難準備等。	登山禁止 入山規制 等、危険な 地域への 立入規制 等
		火口周辺	 <b>レベル2</b> <b>火口周辺規制</b>	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。		火口周辺 への立入 規制等
予報	噴火予報	火口内等	 <b>レベル1</b> <b>活火山であることを留意</b>	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	通常的生活。	特になし

#### (2) 臨時の解説情報【火山の状況に関する解説情報(臨時)】

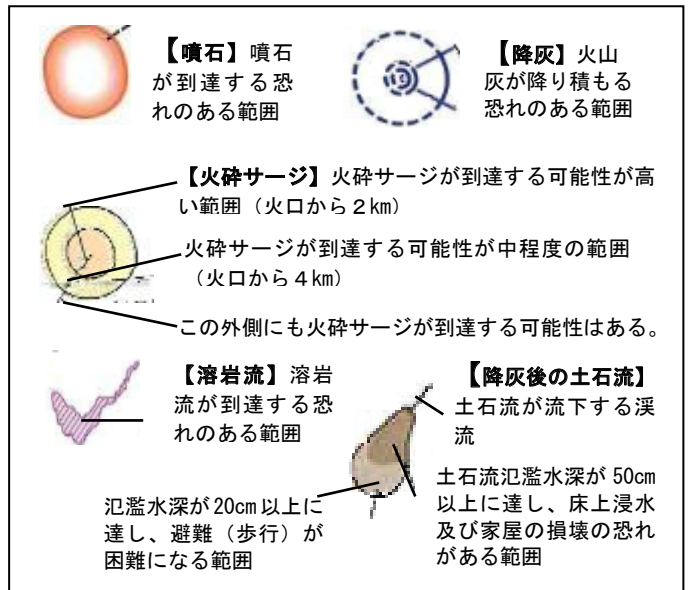
臨時の解説情報は、噴火警戒レベルの引上げの基準に至らない火山活動の変化を観測した場合であっても、まず、その事実を認識してもらうために、気象庁が「臨時」に発表する情報です。臨時の解説情報には、火山活動の変化の事実に加え、とるべき防災対応が明示されます。火山に登る前には、その火山に臨時の解説情報が発表されているかを確認しておきましょう。臨時の解説情報が発表されている場合には、火山活動が活発化していることを認識し、その後、気象庁が発表する情報に注意しておくことが必要です。

#### (3) 噴火速報

噴火速報は、噴火の発生事実を迅速に伝える情報で、登山者や住民に、火山が噴火したことを端的にいち早く伝え、身を守る行動を取ってもらうために気象庁から発表されます。噴火速報が発表された時は、直ちに身の安全を図る必要があります。迷っている時間はありません。

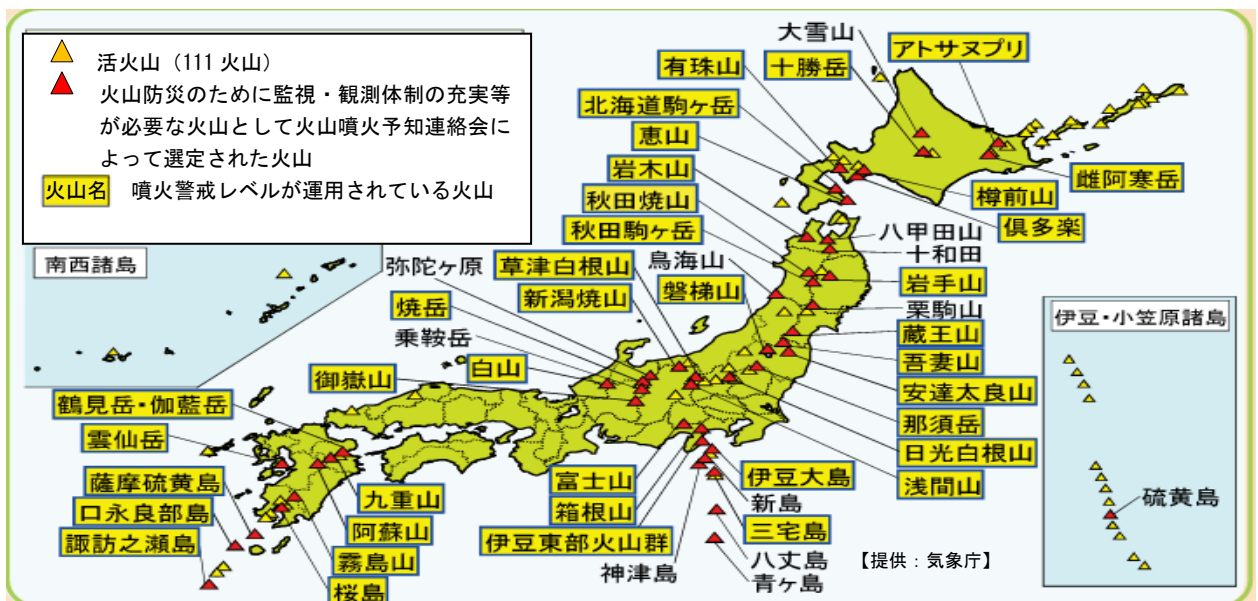
【提供：気象庁】

## 4 阿蘇山火山防災マップ



## 5 日本の活火山

【提供：熊本県土木部砂防課】



## 6 過去に日本で発生した主な火山災害

西暦（和暦）	火山名	犠牲者	備考
1721（享保6）年6月22日	浅間山	15人	噴石による。
1741（寛保元）年8月29日	渡島大島	1,467人	岩屑なだれ・津波による。
1764（明和元）年7月	恵山	多数	噴気による。
1779（安永8）年11月8日	桜島	150人余	噴石・溶岩流などによる。 「安永大噴火」
1781（天明元）年4月11日	桜島	8人 不明7人	高免沖の島で噴火、津波による。
1783（天明3）年8月5日	浅間山	1,151人	火砕流、土石なだれ、吾妻川・利根川の洪水による。
1785（天明5）年4月18日	青ヶ島	130~140人	当時327人の居住者のうち130~140人が死亡と推定され、残りは八丈島に避難。
1792（寛政4）年5月21日	雲仙岳	約15,000人	地震及び岩屑なだれによる。 「島原大変肥後迷惑」
1822（文政5）年3月23日	有珠山	103人	火砕流による。
1841（天保12）年5月23日	口永良部島	多数	噴火による、村落焼亡。
1856（安政3）年9月25日	北海道駒ヶ岳	19~27人	噴石、火砕流による。
1888（明治21）年7月15日	磐梯山	461人 (477人とも)	岩屑なだれにより村落埋没。
1900（明治33）年7月17日	安達太良山	72人	火口の硫黄採掘所全壊。
1902（明治35）年8月上旬	伊豆鳥島	125人	全島民死亡。
1914（大正3）年1月12日	桜島	58~59人	噴火・地震による。「大正大噴火」
1926（大正15）年5月24日	十勝岳	144人 (不明を含む)	融雪型火山泥流による。 「大正泥流」
1940（昭和15）年7月12日	三宅島	11人	火山弾・溶岩流などによる。
1952（昭和27）年9月24日	ペリネス列岩	31人	海底噴火（明神礁）、観測船第5海洋丸遭難により全員殉職。
1958（昭和33）年6月24日	阿蘇山	12人	噴石による。
1991（平成3）年6月3日	雲仙岳	43人 (不明を含む)	火砕流による。 「平成3年（1991年）雲仙岳噴火」
2014（平成26）年9月27日	御嶽山	63人 (不明を含む)	噴石等による。

【提供：気象庁】

# 過去に熊本県で発生した主な自然災害を学ぶ

災害種	西暦（和暦）	主な被害
 地震 津波	774（太平16）年 6月6日	天草郡、八代郡、葦北郡を中心にM7.0の地震発生。田地290町、民家流出470戸、死者1,520人 県内の津波波高：不明。
 地震	1619（元和5）年 5月1日	肥後八代を中心にM6.0の地震発生。麦島城はじめ公私の家屋が破壊した。
 地震	1625（寛永2）年 7月21日	熊本地方でM5～6の地震発生。熊本城の火薬庫爆発、天守付近の石壁の一部が崩れた。城中の石垣にも被害、死者約50人。
 （地震） 津波	1707（宝永4）年 10月28日 《宝永地震》	南海トラフ地震の影響で、九州東部から駿河湾沿岸域までが震度6強から震度6弱相当になったと推定（M8.6）。津波による大規模な被害も発生。被害は、全体で少なくとも死者2万人。県内の津波波高：0.5～1.0m（八代市）。
 地震	1723（享保8）年 12月19日	肥後・豊後・筑後を中心にM6.5の地震発生。肥後で倒家980戸、死者2人。飽田・山本・山鹿・玉名・菊池・合志各郡で強く、柳川辺でも強く感じた。
 地震	1769（明和6）年 8月29日	日向・豊後・肥後を中心にM7 3/4の地震が発生。延岡城・大分城で被害多く、寺社・町屋の破損が多かった。熊本領内でも被害が多く、宇和島で強く感じた。
 （地震） 津波	1792（寛政4）年 5月21日	前年10月から地震が発生していた。5月21日（旧暦4月1日）、大地震が2回発生し、雲仙岳の前山（眉山：天狗山）の東部がくずれ、崩土約0.34km <sup>2</sup> が島原海に入り津波が生じた。（M6.4）対岸の肥後でも被害が多く、津波による死者は全体で約15,000人、全壊12,000戸、「島原大変肥後迷惑」と呼ばれた。県内の津波波高：10～20m程度。
 火山	1816（文化13）年 6月12日	阿蘇山噴火により噴石等を連続的に噴出。7月に噴石により1人死亡。
 （地震） 津波	1828（文政11）年 5月26日	長崎でM6.0の地震が発生。出島の周壁が数か所潰裂。天草で激しかったという。天草の海中で噴火に似た現象があったという。県内の津波波高：不明。
 （地震）	1854（安政1）年 12月24日 《安政南海地震》	M8.4の南海トラフ地震の影響で、被害は中部地方から九州地方にかけての広い範囲に及んだ。前日の安政東海地震による被害と区別できないものも多々ある。
 火山	1872（明治5）年 12月30日	阿蘇山噴火により硫黄採掘者が数人死亡。
 地震	1889（明治22）年 7月28日	熊本付近でM6.3の地震発生。飽田郡を中心に熊本県下で被害大、肥後・筑後地方で強震。死者20人・負傷52人、家屋全壊228戸・半壊138戸、地裂880箇所、堤防崩壊45箇所、橋梁壊落22箇所・破損37箇所、道路損壊133箇所。
 風水害	1927（昭和2）年 9月12日～13日	飽託、玉名海岸地域で台風による潮害。死者423人、全半壊1,978戸、浸水334戸の被害。
 （地震）	1941（昭和16）年 11月19日 《日向灘地震》	日向灘でM7.2の地震発生。大分・宮崎・熊本の三県で死者2人・負傷18人、家屋全壊27戸・半壊32戸、その他、石垣崩壊、煙突破損、道路破壊等あり。九州の東岸・四国の西岸に津波襲来し、細島・青島・宿毛で津波波高約1m。
 （地震）	1946（昭和21）年 12月21日 《南海地震》	安政南海地震と同じ地域を震源域として発生したプレート間地震（M7.9）。被害は中部地方から九州地方に及んだ。全体で死者・行方不明者1,443人、負傷者3,842人、住家全壊約9千戸など、その他多数の流失や焼失した家屋があった。
 火山	1953（昭和28）年 4月27日	阿蘇山噴火により死者6人、負傷者90余人。
 風水害	1953（昭和28）年 6月26日～28日 《白川大水害》	県下全域で豪雨による大水害。死者563人、全半壊8,367戸、浸水88,053戸の被害。
 風水害	1957（昭和32）年 7月26日	豪雨による水害。熊本市松尾町や天水町で大きな被害。死者183人、全半壊284戸、浸水10,832戸。
 火山	1958（昭和33）年 6月24日	阿蘇山噴火により死者12人、負傷者28人。



	(地震) 津波	1960 (昭和 35) 年 5 月 24 日	23 日 4 時 11 分 20 秒日本時、南米チリ沖で大地震 (M8 1/4~M8 1/2) 大津波が発生。地震発生後ほぼ一昼夜を経過して日本の東海岸各地に襲来。大分・宮崎・鹿児島各県でかなりの被害を受けた。24 日 8 時頃、熊本県の天草方面も潮位のため若干の被害があった。 本渡市 床上浸水 3 戸、床下浸水 3 戸。県内の津波波高は不明。
	風水害	1972 (昭和 47) 年 7 月 3 日~6 日	豪雨による水害により天草上島を中心に死者 123 人、全半壊 973 戸、浸水 37,583 戸の被害。
	地震	1975 (昭和 50) 年 1 月 23 日	熊本県北東で M6.1 の地震発生。阿蘇郡一の宮手野地区に被害が集中。負傷 10 人、道路損壊 12 箇所、山 (崖) 崩れ 15 箇所。
	火山	1979 (昭和 54) 年 9 月 6 日	阿蘇山噴火により死者 3 人、重傷 2 人、軽傷 9 人。同年 11 月には宮崎県、大分県、熊本市内で降灰観測。
	風水害	1982 (昭和 57) 年 7 月 23 日~25 日	豪雨による水害により県下全域で死者 23 人、全半壊 183 戸、浸水 24,574 戸。
	風水害	1984 (昭和 59) 年 6 月 21 日~7 月 1 日	豪雨による水害により、五木村を中心に死者 16 人、全半壊 6 戸、浸水 578 戸の被害。
	火山	1989 (平成元) 年 2 月 12 日	阿蘇山で火山ガスにより死者 1 人。
	火山	1990 (平成 2) 年 3 月 26 日	阿蘇山で火山ガスにより死者 1 人。
	火山	1990 (平成 2) 年 4 月 18 日	阿蘇山で火山ガスにより死者 1 人。
	風水害	1990 (平成 2) 年 6 月 28 日~7 月 3 日	豪雨による水害により、県下全域で死者 17 人、全半壊 217 戸、浸水 7,563 戸の被害。
	火山	1990 (平成 2) 年 10 月 19 日	阿蘇山で火山ガスにより死者 1 人。
	風水害	1991 (平成 3) 年 9 月 27 日	台風により、県下全域で死者 4 人、全半壊 1,889 戸、浸水 24 戸の被害。
	火山	1994 (平成 6) 年 5 月 29 日	阿蘇山で火山ガスにより死者 1 人。
	火山	1997 (平成 9) 年 11 月 23 日	阿蘇山で火山ガスにより死者 2 人。
	風水害	1999 (平成 11) 年 9 月 23 日~24 日	台風により県下全域で死者 16 人、全半壊 1,818 戸、浸水 1,925 戸の被害。 <b>【不知火高潮災害】</b>
	風水害	2003 (平成 15) 年 7 月 20 日	豪雨による水害により県南部で死者 19 人、全半壊 25 戸、浸水 503 戸の被害。 <b>【県南集中豪雨災害】</b>
	(地震) 津波	2010 (平成 22) 年 2 月 27 日	南米チリで M8.8 の地震発生。県内の津波波高: 20cm (天草市本渡港) 人的被害、家屋等の被害、公共施設等の被害なし。
	(地震) 津波	2011 (平成 23) 年 3 月 11 日	東北地方太平洋沖地震 (M9.0) が発生し、天草市本渡港で津波波高 70cm を観測。人的被害、家屋等の被害、公共施設等の被害なし。
	地震	2011 (平成 23) 年 10 月 5 日	熊本地方で M4.4 の地震が発生。住家の一部破壊 最大震度 5 強 (菊池市旭志)。
	風水害	2012 (平成 24) 年 7 月 12 日	豪雨による水害により県下全域で死者 25 人、全半壊 1,462 戸、浸水 582 戸の被害。 <b>【九州北部豪雨災害: 熊本広域大水害】</b>
	火山	2014 (平成 26) 年 11 月 25 日~27 日	阿蘇山噴火により火口周辺に噴石飛散、火口南側で火山灰が約 7 cm 堆積。熊本県、大分県、宮崎県で降灰。翌年 5 月 21 日まで噴火が継続。
	火山	2015 (平成 27) 年 9 月 14 日	阿蘇山噴火により、火口周辺に大きな噴石が飛散し、小規模な火砕流発生。噴煙は最高 2,000m に達し、熊本県、福岡県の一部の地域で降灰観測。
	地震	2016 (平成 28) 年 4 月 14 日~	熊本地方・阿蘇地方で 4 月 14 日に M6.5 の前震、4 月 16 日に M7.3 の本震が発生。死者 246 人 負傷者 2,718 人 (平成 29 年 10 月 13 日現在)。 <b>【平成 28 年 (2016 年) 熊本地震】</b>
	風水害	2016 (平成 28) 年 6 月 19 日~25 日	豪雨による水害により県下全域で死者 5 人、全半壊 130 戸、浸水 645 戸の被害。
	火山	2016 (平成 28) 年 10 月 8 日	阿蘇山噴火により、海拔高度 11,000m まで噴煙到達。熊本県、大分県、愛媛県、香川県、岡山県で降灰観測。噴石により建築物、車両等に被害。降灰により農作物に被害。

※表内の (地震) は熊本県外を震源としたもの

※災害種の「津波」の表記は、熊本県内で津波の記録があるもの

いつでも、どこでも、将来も、  
自分の命を守りぬく【自助】



# 【幼稚園・小学校低学年】 カードで学ぼう

◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動「カードで学ぼう」



短い時間の指導での活用

◆ねらい 自然災害から身を守るための適切な行動について理解することができる。

◆展 開

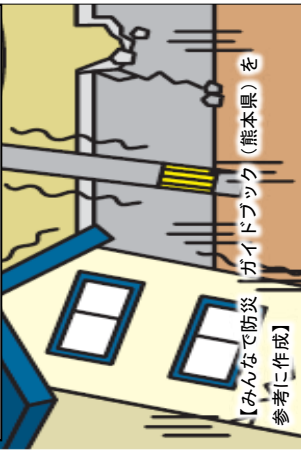
	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導入	<p>1 心のケアを受ける。(本手引P2参照)</p> <p>2 自然災害にはどんなものがあるか発表する。 ★ 自然災害にはどんなものがありますか。</p>	<p>○児童生徒等の心身の状態に十分配慮する。 ○これから学習することは、命を守るために大切なことであることを理解させる。 ○自然災害にはどのようなものがあるか、確認する。</p>
	<p>あんなげんな ひなんのしかたを まなぼう。</p>	
展開	<p>3 カードを使ってそれぞれの自然災害への対処法を理解する。 【地震、津波、風水害、火山】 ★ 災害から命を守るためには、正しい避難の仕方を勉強することが大切です。今日は、カードを使って勉強しましょう。</p> <p>①びっくりカードの提示      ②あんしんカードの説明</p>	<p>◎カードに示されている避難行動に注目させ、それぞれの避難行動について理解させる。 【地震】 ◎机の下など安全な場所に身を隠し、頭を守ること。 ◎身の周りの落ちてきそうなもの、倒れてきそうなもの、移動してきそうなものは、どんなものか。 【津波】 ◎津波が来ると分かったら、大人の指示に従い、高い場所に逃げること。 【風水害】 ◎避難できない状況になる前に、早めに避難（予防的避難）すること。 ◎雨が降ってきたら、川や排水溝が増水するため、水辺から離れること。 ◎雷の音が聞こえたら、近くの建物や車の中に避難すること。</p>
まとめ	<p>4 カードを使って、安全な避難行動について理解を深める。 ★ いまから先生が、びっくりカードを出しますので、どんな避難の仕方をすればよいか教えてください。</p>	<p>○びっくりカードを提示し、どのような行動をとればよいか、あんしんカードで確認する。 ◆自然災害から身を守るための行動が理解できる。 【知識・理解】〈観察〉 ○びっくりカードの提示の順番を変えたり、あんしんカードを提示し、その行動に対応している災害を答えさせたりするなどの工夫を行い、知識の定着を図る。 ○児童生徒等の心身の状態に十分配慮する。</p>
	<p>5 心のケアを受ける。(本手引P2参照)</p>	

活用資料等

・びっくり・あんしんカード（A4版については熊本県教育委員会HPからダウンロード可）[熊本県教育委員会](#)→[学校安全](#)→[学校防災教育指導の手引](#)

びっくりカード

きんきゆうじしんそくほうをきいたら・ゆれをかんじたら



【みんなで防災ガイドブック(熊本県)を参考に作成】

あんしんカード

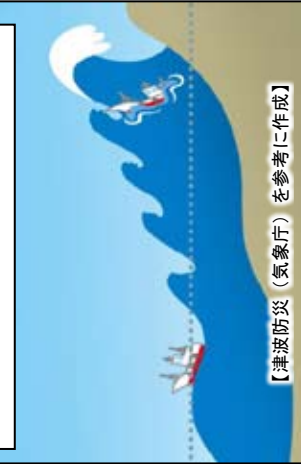
あんぜんなばしよでみまもりましょう



【みんなで防災ガイドブック(熊本県)を参考に作成】

びっくりカード

つなみがくるとわかったら・うみちかくでゆれをかんじたら



【津波防災(気象庁)を参考に作成】

あんしんカード

すぐにたかいばしよににげましょう



【みんなで防災ガイドブック(熊本県)を参考に作成】

あめがひどくなりそうなときは



【みんなで防災ガイドブック(熊本県)を参考に作成】

あめがふってきたら



【急な大雨、雷、竜巻から身を守るう(気象庁)を参考に作成】

みずべからはなれましょう



【急な大雨、雷、竜巻から身を守るう(気象庁)を参考に作成】

そこにいるときかみなりのおとがきこえたら



【急な大雨、雷、竜巻から身を守るう(気象庁)を参考に作成】

とざんとちゆうでかざんがふんかしたら



【みんなで防災ガイドブック(熊本県)を参考に作成】

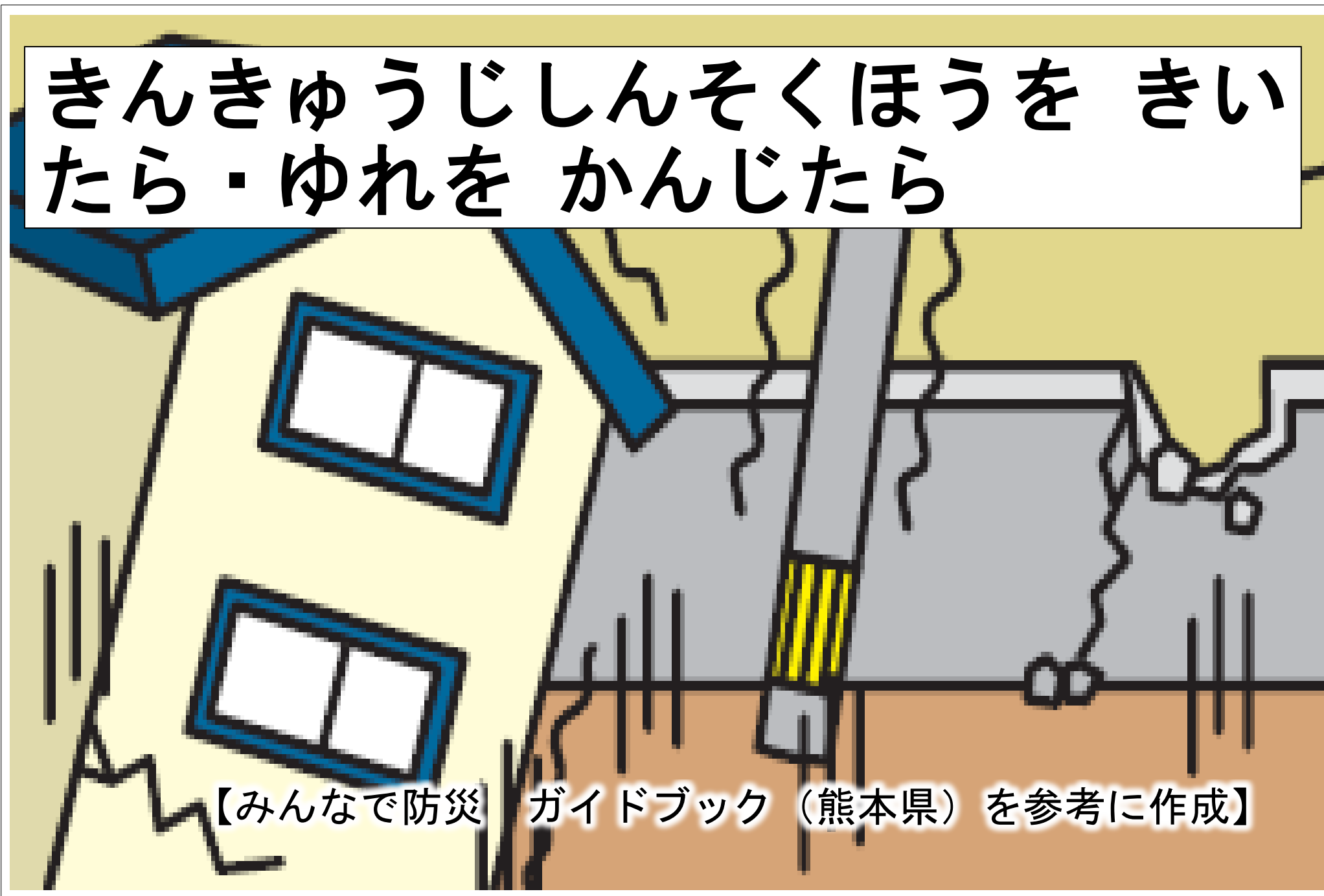
たてものなかにいそいでひなんしましょう



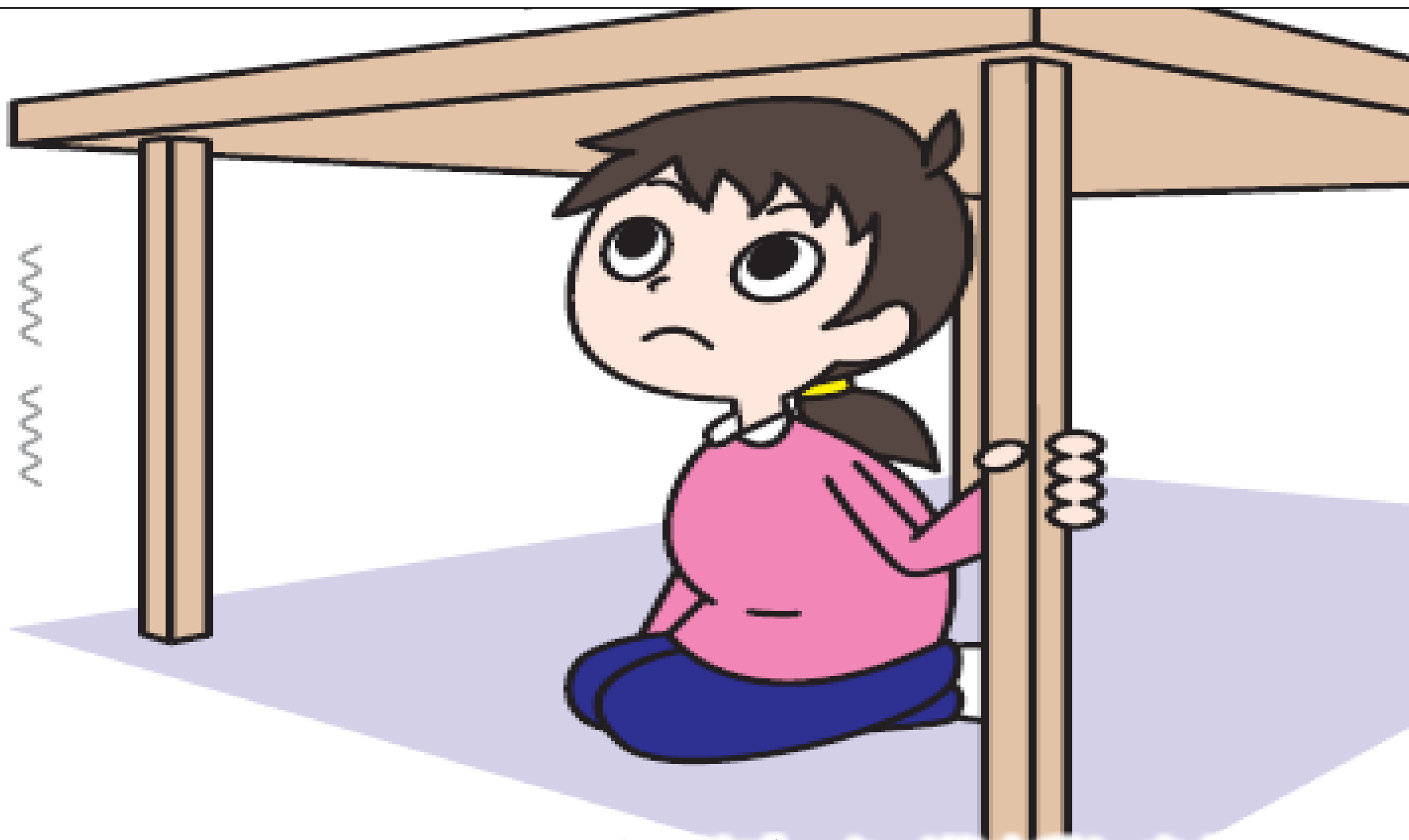
【みんなで防災ガイドブック(熊本県)を参考に作成】

きんきゅうじしんそくほうをきいたら・ゆれをかんじたら

【みんなで防災ガイドブック（熊本県）を参考に作成】



あんぜんなばしよで みをまもりましよう



【みんなで防災 ガイドブック（熊本県）を参考に作成】

あめがひどくなりそうなときは



【みんなで防災 ガイドブック（熊本県）を参考に作成】

おうちのひとと いっしょに、はやめに ひなんじょへ いきましょう



【みんなで防災 ガイドブック（熊本県）を参考に作成】

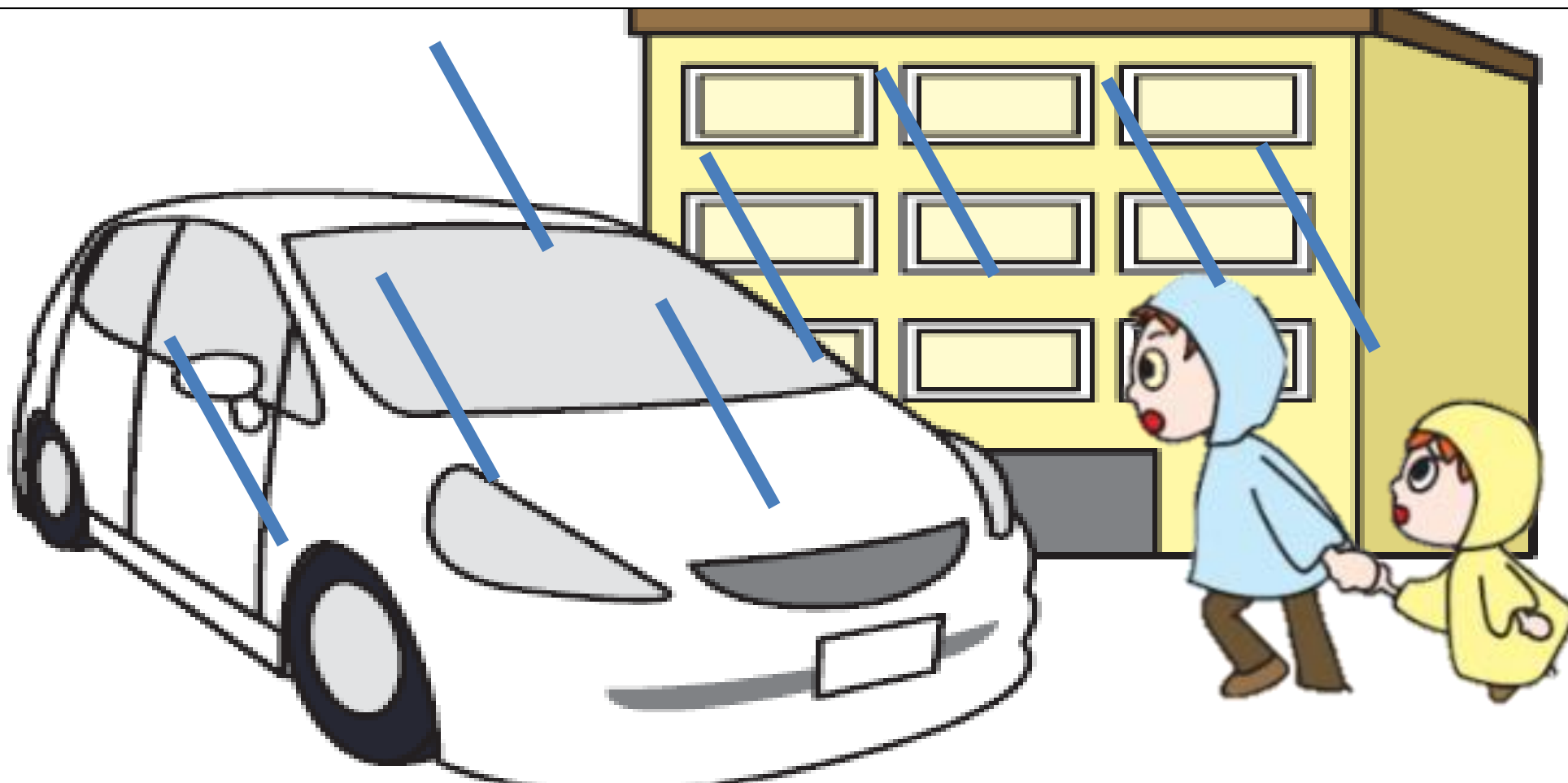


そとにいるとき、かみなりのおとが  
きこえたら



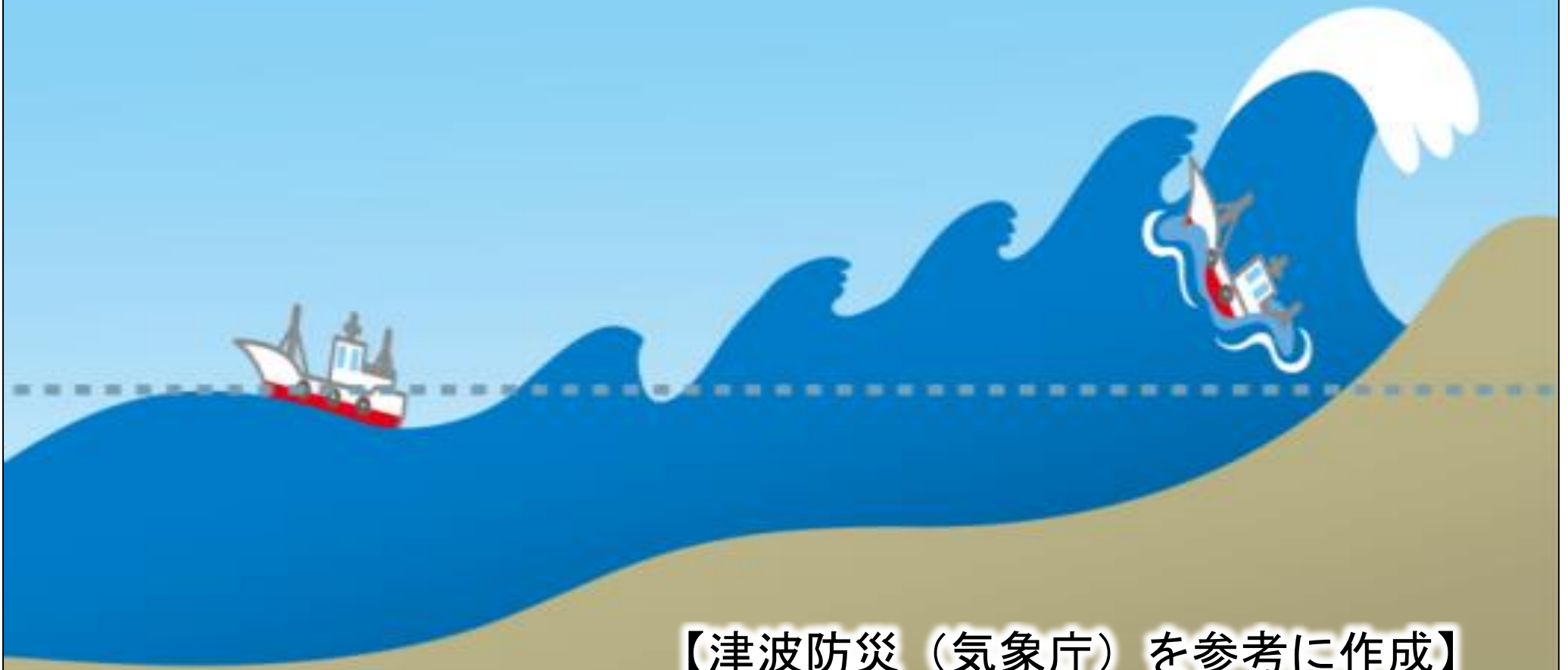
【急な大雨、雷、竜巻から身を守ろう（気象庁）を参考に作成】

# あんぜんなばしよに ひなんしま しょう



【みんなで防災ガイドブック（熊本県）を参考に作成】

つなみがくるとわかったら・うみのちかくでゆれをかんじたら



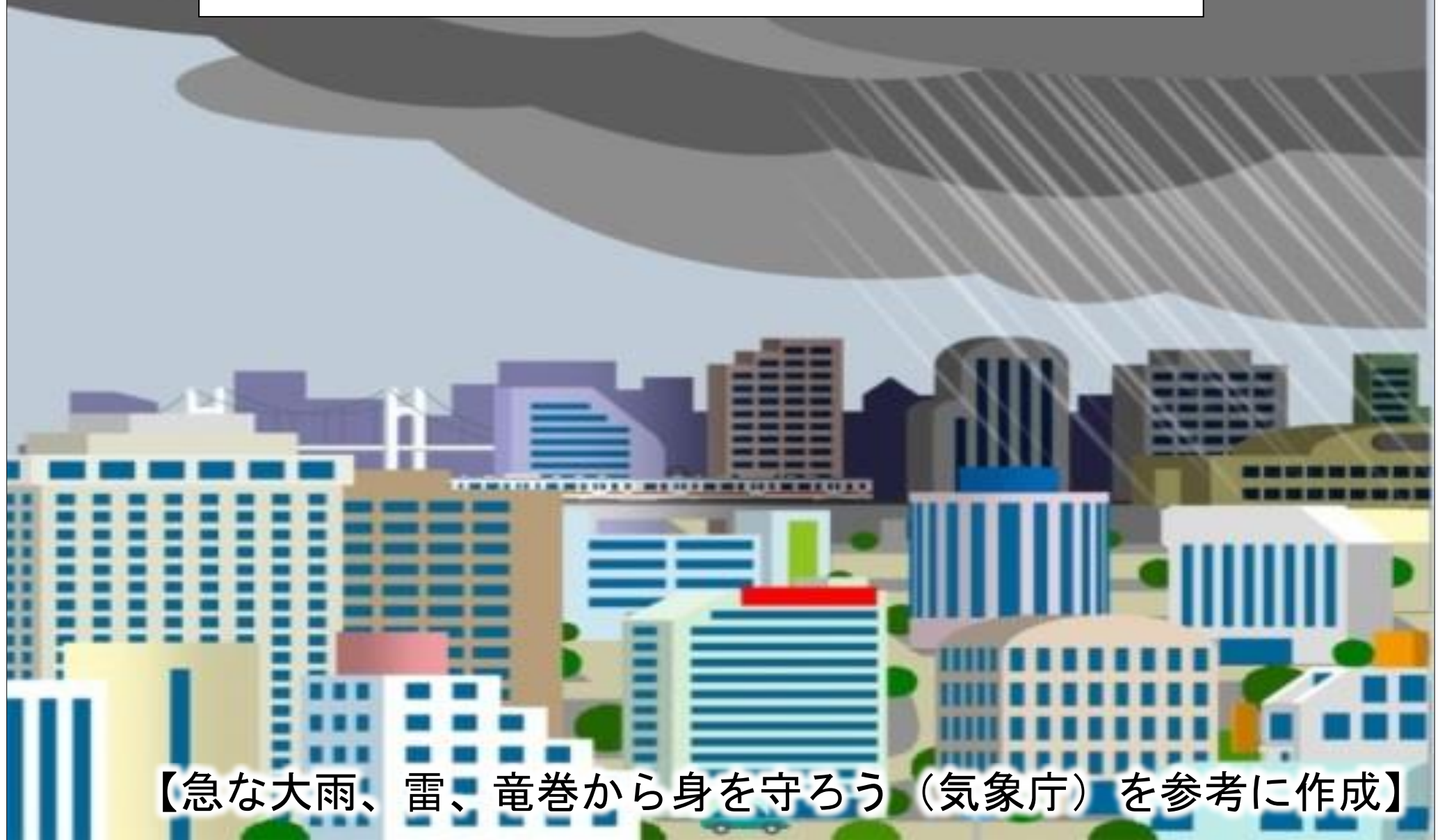
【津波防災（気象庁）を参考に作成】



すぐに たかいばしよに  
にげましよう

【みんなで防災 ガイドブック（熊本県）を参考に作成】

# あめが ふってきたら



【急な大雨、雷、竜巻から身を守ろう（気象庁）を参考に作成】

みずべからはなれましょう



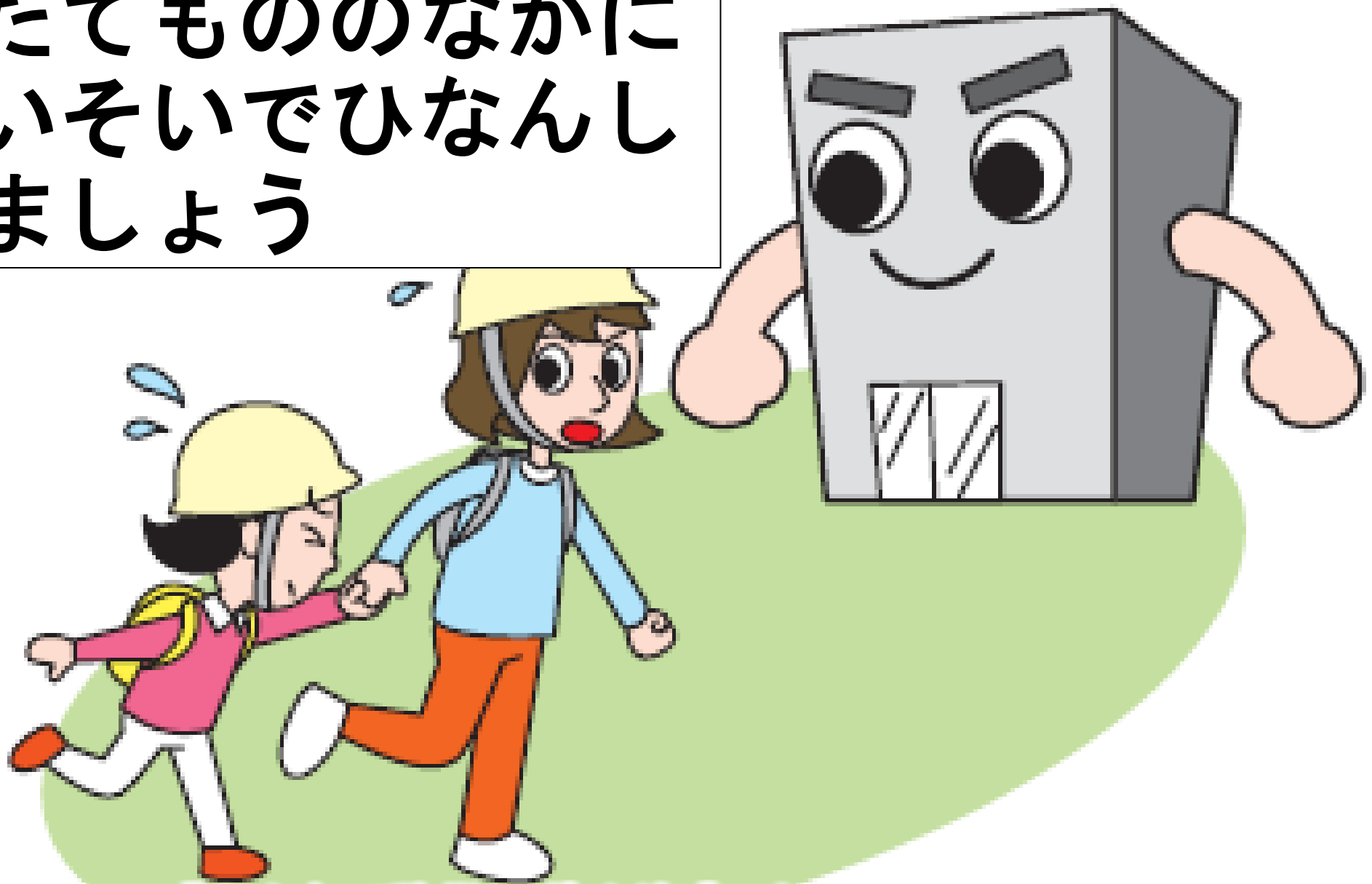
【急な大雨、雷、竜巻から身を守ろう（気象庁）を参考に作成】

# とざんとちゅうで かざんが ふんかしたら



【みんなで防災 ガイドブック（熊本県）を参考に作成】

たてもものなかに  
いそいでひなんし  
ましょう



【みんなで防災 ガイドブック（熊本県）を参考に作成】



# 【小学校1年～3年】 地震災害から身を守る

◆カリキュラム・マネジメントの視点

道徳「生命尊重」



学級活動  
「地震災害から身を守る」



学校行事「避難訓練」

◆ねらい 地震発生時の危険を理解し、安全な避難行動を身に付けることができる。

◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 地震発生時の行動について知っていることを発表する。 ★ 地震が起こったとき、どんな行動をとればよいか、知っていることを教えてください。	○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○過去に起きた地震の写真を提示し、地震発生時の身の守り方について知っていることを発表させる。 ○これから学習することは、安全な避難行動を身に付け、命を守るためのものであることを説明し、学習に対する意欲を高める。
あんぜんな ひなんこうどうを みにつけよう。		
展 開 25 分	3 地震発生時の危険について理解する。 ★ 教室で地震のときに「落ちてくるもの」「たおれてくるもの」「動いてくるもの」はどれですか。 ★ 地震が起こったとき、どんな危険なことがありますか。	○教室のイラストを提示し、地震が発生したときに危険だと思う部分に印を付けさせる。その後、地震後の教室のイラストを提示し、地震発生時の危険について確認する。 ◎イラストを参考にして、 <u>実際の教室を確認しながら、窓ガラスや照明、本棚などの危険について具体的にイメージさせる。</u>
ま と め 10 分	4 地震発生時の身の守り方を知り、実際に訓練を行う。 ★ 地震が起こったとき、身を守るために、どんな行動をとればよいでしょうか。  5 登下校中や家にいたときの身の守り方について知る。 ★ 登下校中や家にいたときには、どんな行動をとればよいでしょうか。  6 地震が起きたときの安全な避難行動をまとめる。	○イラストを参考にして、「落ちてくる」「倒れてくる」「移動してくる」ものから、どのように身を守るのか考えさせる。 ○実際にシェイクアウト訓練を行う。状況に応じて、緊急地震速報を活用する。 ◎ <u>3つのポイント「頭を守ること」「揺れている間は動かないこと」「危険なところからはやく離れること」を確認して訓練を行うことにより、身を守る行動を身に付けさせる。</u> ○登下校中や家の中での避難行動も、3つのポイントは同じであることを確認する。 ◆地震発生時の危険を理解し、安全な避難行動を身に付けようとしている。 【関心・意欲・態度】〈観察・ワークシート〉
	7 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	◎「お・は・し・も」の意味を確認し、「ゆれているとき」「ゆれがおさまった後」と状況に応じた安全な避難行動についてまとめる。また、余震についても説明し、安全な行動を促す。 ○保護者等と地震のときの避難の仕方について話し合っておくように促す。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

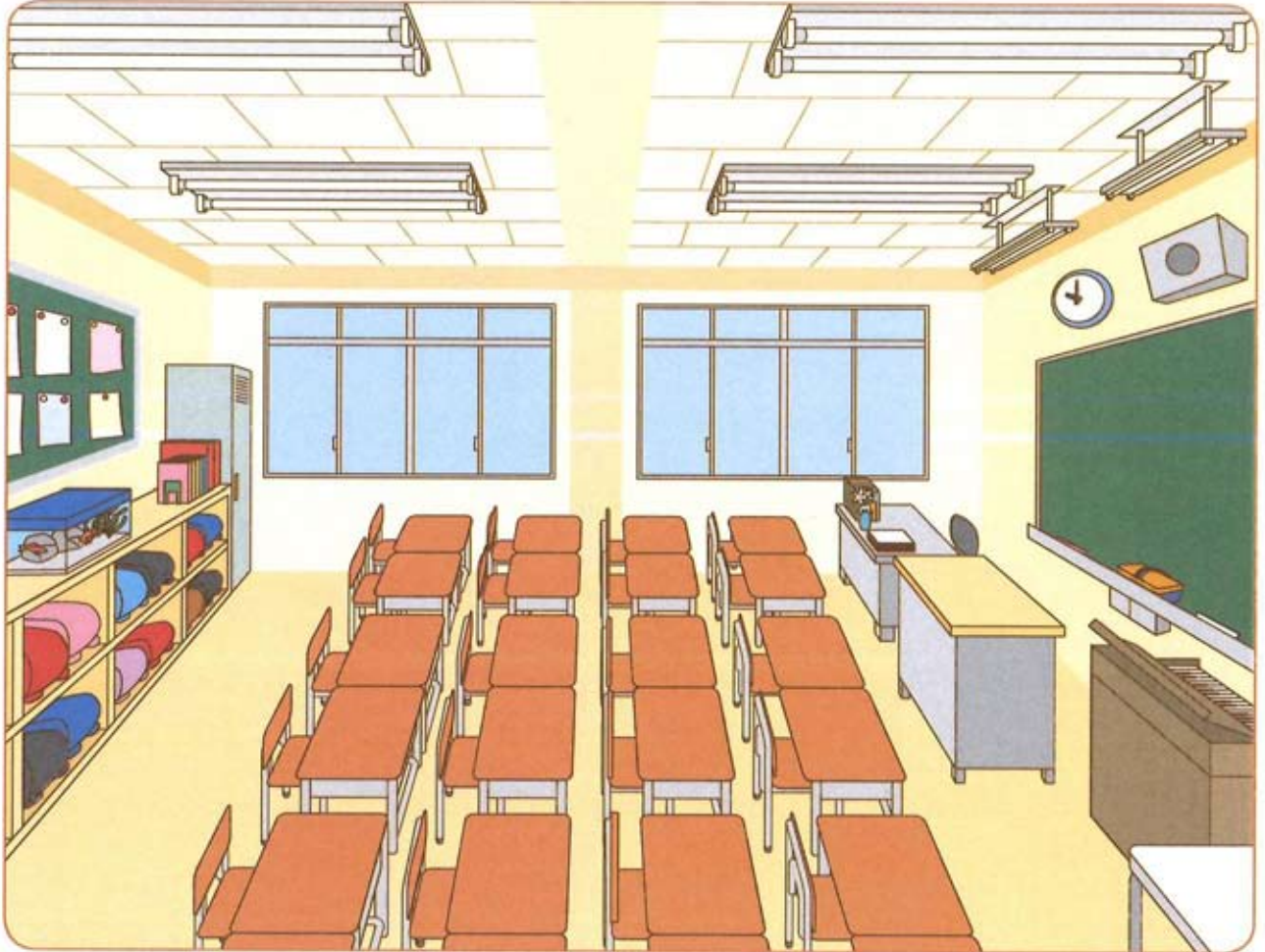
- ・熊本地震に関連する写真や映像「熊本地震デジタルアーカイブ」（熊本県HP）
- ・緊急地震速報の音源CD

# ワークシート

( )ねん( )くみ( )ごう なまえ( )

めあて

1 あぶないところを、○でかこみましょう。



イラスト引用「みやぎ防災教育副読本 未来へのきずな 小学校1・2年」

2 じしんから みをまもる こうどう。

- ①ゆれがきたら ( )  
②ゆれているあいだは ( )  
③ゆれがおさまったら あぶないところから ( )

※ひなんするときのやくそく

お    は     し     も

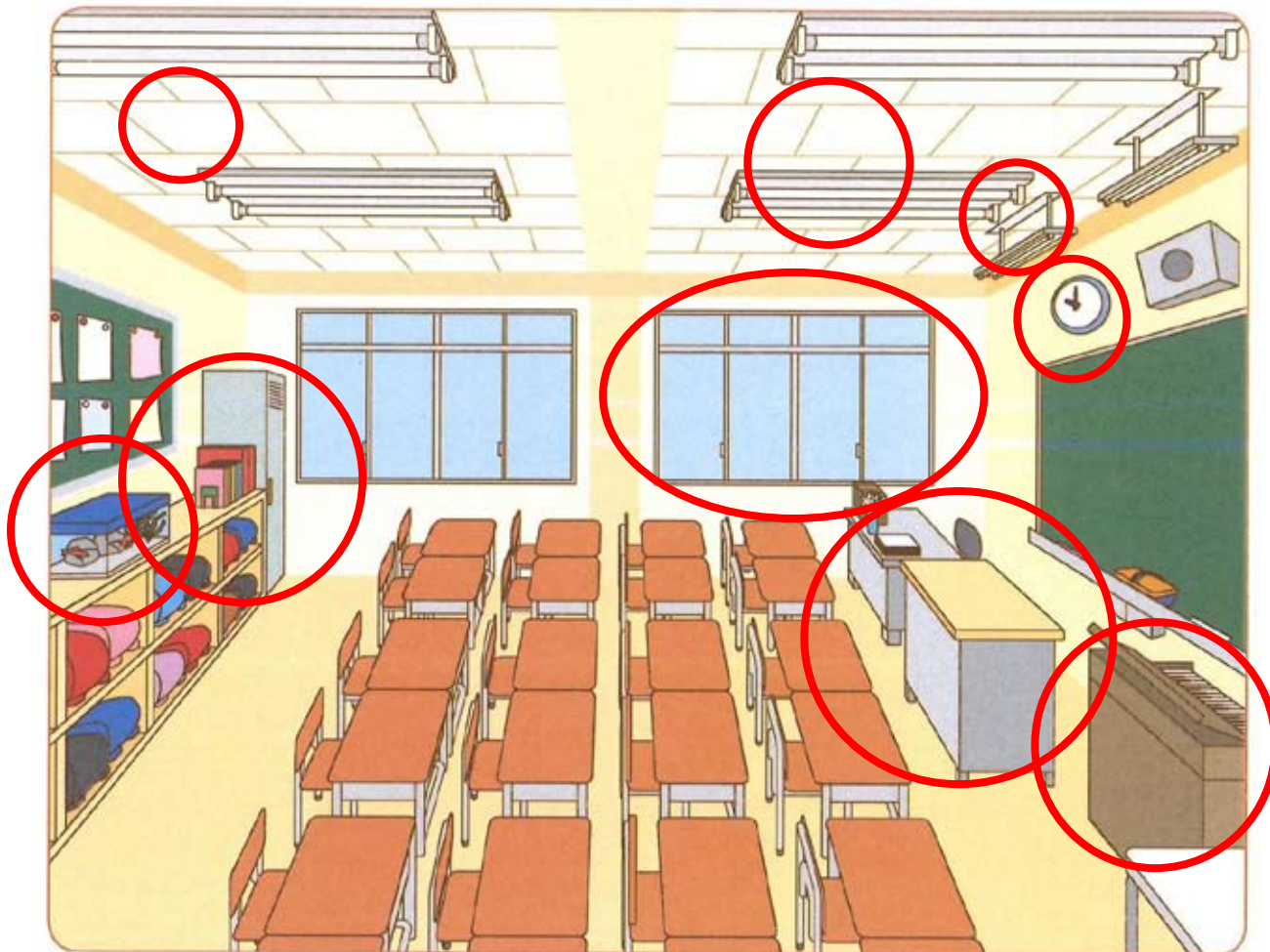
## ワークシート（記入例）

( )ねん( )くみ( )ごう なまえ( )

めあて

あんぜんな ひなんこうどうを みにつけよう。

1 あぶないところを、○でかこみましょう。



イラスト引用「みやぎ防災教育副読本 未来へのきずな 小学校1・2年」

2 じしんから みをまもる こうどう。

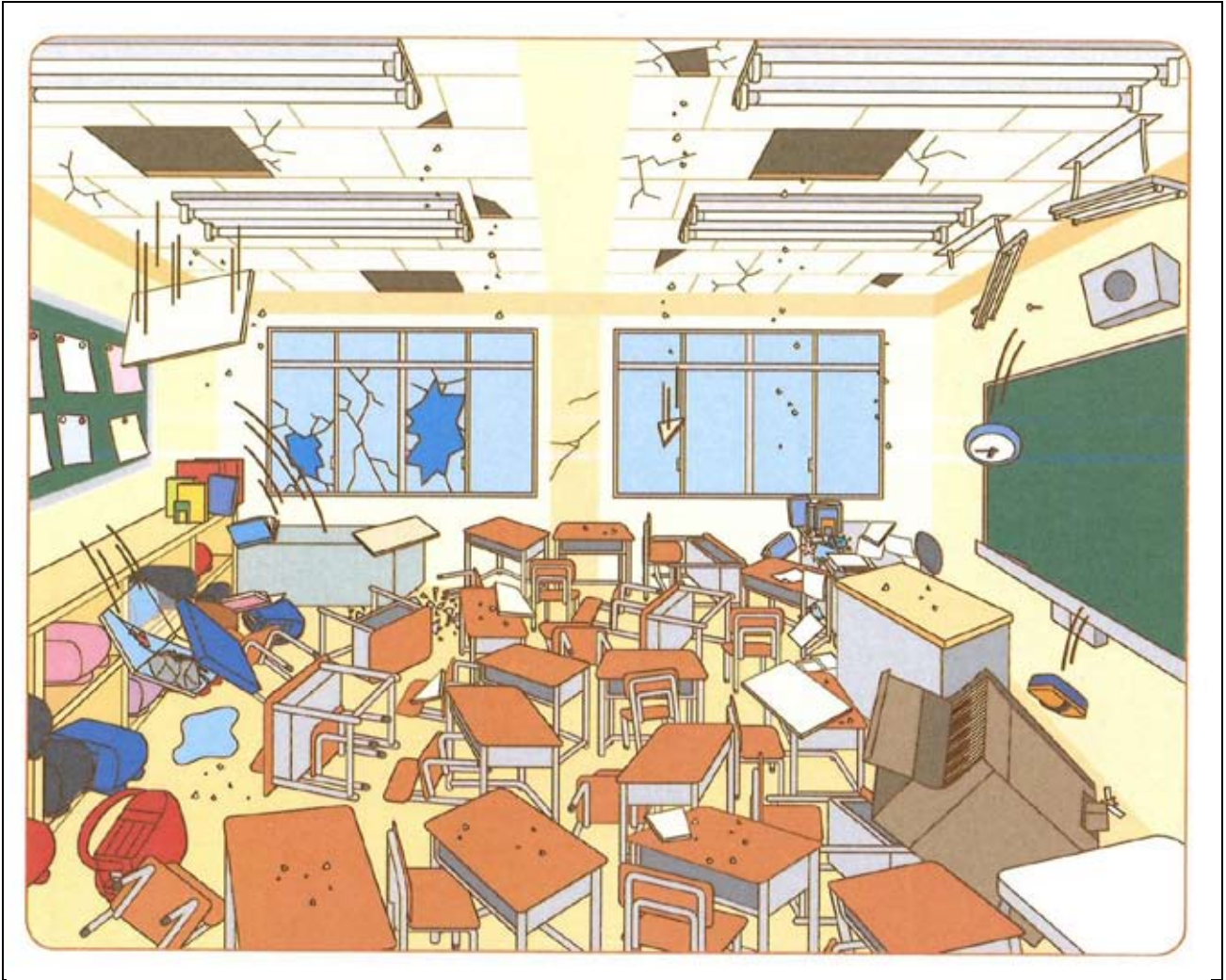
- |             |           |         |         |   |
|-------------|-----------|---------|---------|---|
| ① ゆれがきたら    | (         | あたまをまもる | )       |   |
| ② ゆれているあいだは | (         | うごかない   | )       |   |
| ③ ゆれがおさまったら | あぶないところから | (       | はやくはなれる | ) |

※ひなんするときのやくそく

おさない はしらない しやべらない もどらない

資料

①きょうしつないのイラストから



イラスト引用「みやぎ防災教育副読本 未来へのきずな 小学校1・2年」

②つうがくろ や いえのなかの しゃしんから

いえのなか

そと

つうがくろ



【提供 熊本地震デジタルアーカイブ（熊本県）】

# 【小学校1年～3年】 津波災害から身を守る

◆カリキュラム・マネジメントの視点

道徳「生命尊重」

学級活動「津波災害から身を守る」

学校行事「避難訓練」

◆ねらい 津波の危険について理解し、安全な行動をすることができる。

◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価
導入 10分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 津波について考える。 (1) 津波被害の写真を見て、感じたことを話し合う。 ★ 写真を見て、どう思いましたか。 (2) 津波とはどのようなものか、知っていることを出し合う。 ★ 津波について知っていることがありますか。	○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○津波が想定されない地域に住む児童には、海水浴や釣り、引っ越しなどで、津波災害にあり可能性があることを理解させる。 ○写真等の活用にあたっては、つらいときは見なくてもよいことを伝える。 ○「津波」と聞いて思い浮かぶことを発表させる。 ○熊本県でも過去に津波災害が起きていることを示し、備える意識を持たせる。 【本手引P20、P21参照】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             つなみから いのちをまもるために どうしたらいいか、かんがえよう。           </div>		
展開 30分	3 津波の特徴を知る。 4 避難するときの大事なことについて考える。 ★ 津波から逃げるときに大事なことはどんなことだと思いますか。 ①個人→②グループ→③全体	○特徴として、①速い②高い③繰り返し襲ってくる④川を遡ってくる等を示し、建物を壊したり流したりする強さがあることをおさえる。 ○津波が来そうな時にどのように行動したらよいか考えさせる。 ○津波が想定される地域では具体的な避難場所について考えさせるとともに、日頃から保護者等と確かめ合っておくことを伝える。 ◆津波について理解し、津波が来そうなときにどのように行動すればいいのか考えている。 【思考・判断・表現】〈観察・ワークシート〉
まとめ 5分	5 避難するときのポイントをまとめる。 6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○全体でまとめる際は、以下をおさえる。 ・急いで逃げる ・高いところへ逃げ続ける ・大人の指示を聞く ○「津波標識」についても理解させる。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

- ・気象庁ホームページ「災害から身を守ろう」
- ・地震調査研究推進本部（地震本部）HP

# ワークシート

( ) ねん ( ) くみ ( ) ごう なまえ ( )

めあて

○ つなみの とくちょうを かきましょう。



提供：地震調査研究推進本部

☆ 「つなみ が くる」とわかったら

## ワークシート(記入例)

( ) ねん ( ) くみ ( ) ごう なまえ ( )

めあて

つなみからいのちをまもるためにはどうしたらいいか、かんがえよう。



○ つなみのとくちょうをかきましょう。



提供：地震調査研究推進本部

- ・はやい
- ・たかい
- ・くりかえす
- ・かわを さかのぼってくる

☆ 「つなみがくる」とわかったら

- ・いそいでにげる
- ・たかいところへにげる
- ・おとなのしじをきく 等

資料

つなみ ひがいの ようす



提供：地震調査研究推進本部  
(提供元：宮城県気仙沼市)



提供：地震調査研究推進本部  
(提供元：岩手県宮古市)

つなみが くと わかったら



【提供：気象庁】

つなみ ひょうしき



つなみちゆうい

つなみが くと あぶないばしょ



つなみひなんじょ

つなみが きても あんぜんなばしょ



つなみひなんビル

【気象庁津波防災ハンドブックから引用】



# 【小学校1年～3年】 風水害から身を守る

◆カリキュラム・マネジメントの視点

道徳「生命尊重」

学級活動「風水害から身を守る」

学校行事「避難訓練」

◆ねらい 風水害の危険を理解し、安全な避難行動を身に付けることができる。

◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 風水害について知る。 ★ 大雨や強い風が起こると、それによつてどんなことが起きますか？ ★ それはどんな所で起きやすいですか？	○児童の心身の状態について十分配慮する。 ○「風水害」について、その特徴や地域の歴史、起きやすい場所等について理解させる。 【本手引P11～P15、P20、P21参照】
いのちをまもる あんぜんな ひなんのしかたを みにつけよう。		
展 開 25 分	3 避難について考える。 ★ こういう危険なことが起こりそうなとき、みんなはどうしますか？ 4 ロールプレイで安全な避難行動について理解を深める。 ★ 今確かめた安全な避難の仕方が実際にできるか、やってみましょう。	◎安全に避難するための優先順位「①大人と一緒に行動すること」「②電話等で大人の指示を受けること」「③自分でできること(浸水時における垂直避難等)を行うこと」を理解させる。 ○ロールプレイを行う。(※シナリオは資料参照) 役割演技をする児童を選び、他の児童はそれを見てポイントごとに考え、学ぶようにする。 ◆よりよい避難の仕方について考えたり、意見を言ったりしている。 【関心・意欲・態度】〈観察・ワークシート〉
ま と め 10 分	5 風水害時の安全な避難行動をまとめる。 ★ 一番大切なことは？ ⇒大人と一緒に避難すること。 「風」 か(かぞくといっしょに) ぜ(ぜんいで) 「雨」 あ(あぶなくないうちに) め(めがせ、ひなんじよ) 6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○児童の実態や発達段階に応じて、安全な避難行動についてまとめる。 ◎安全に避難するための優先順位を再確認する。 ◎事前の準備(避難への物品の備え、頼る大人とその連絡方法、避難する場所など)を保護者等と話し合い、練習しておく必要を理解させる。 ○児童の心身の状態について十分配慮する。

活用資料等

・地域の風水害等の記録誌や市町村のHP 等

ワークシート

( )ねん( )くみ( )ごう なまえ( )

ふう すい

# 風水がいからのちをまもろう

めあて

1 いちばん たいせつな ことは？



2 もしもの ときも あわてずに！

風	か	
	ぜ	
雨	あ	
	め	

ワークシート（記入例）

( ) ねん ( ) くみ ( ) ごう なまえ ( )

ふう すい

# 風水がいからいのちをまもろう

めあて

いのちをまもる あんぜんな ひなんの しかたを  
みにつけよう。

## 1 いちばん たいせつな ことは？



- ①おとなといっしょにこうどうする。
- ②おとながちかくにいないときは、でんわでひなんのほうほうをきく。

③でんわがつながらないときは、いえの2か  
いやかわ・がけからはなれたへやにひなん  
する。



## 2 もしもの ときも あわてずに！

風	か	かぞくといっしょに
	ぜ	ぜんいんで
雨	あ	あぶなくないうちに
	め	めざせ、ひなんじょ

## ロールプレシナリオ例① 「大人と行動する」

状況設定：何日も雨の日が続いている日曜日。外に遊びに行けず、保護者等とテレビをみている。

保護者役「〇〇さん、雨がかなりひどくなってきたね。テレビにも早めに避難してくださいって速報が出たよ。もっとひどくなる前に避難所へいくよ。おいで。」

### （判断1：履物）

- 玄関を任意の場所に設定しておき、そこに「長靴・運動靴」を置いておく。どちらかを履くか、代表児童に選ばせる。
- 代表児童が選んだ方でいいか、その理由もあわせてクラスで考えさせる。
- **教師のまとめ「長靴より深く水がたまと、とても歩きにくくなります。濡れるのは気にせず、運動靴を履きましょう。」**

### （判断2：カッパと傘）

- （長靴を選んでいた場合は運動靴に履き替えさせ）玄関で靴を履いたところからロールプレイを再開する。その脇にカッパと傘を置いておき、どちらか（または両方）を代表児童に選ばせる。
- 代表児童が選んだやり方でいいか、その理由もあわせてクラスで考えさせる。
- **教師のまとめ「2つともある時はカッパを着て、傘は杖代わりに使います。水がたまって溝などが見えなくなっているかもしれません。傘で探りながら歩きます。」**

### （判断3：手をつなぐ）

- 玄関で靴を履いたところからロールプレイを再開する。避難所を数メートル離れた所に設定しておき、そこまで2人で移動する。
- 児童が自ら保護者等と手をつないで移動したか。  
【つないだ】保護者等（大人）と離れないで行動ができたことを褒め、他の児童にも確認する。  
【つながなかった】何かが足りなかったことを伝え、考えさせる。
- **教師のまとめ「安全に避難するとき一番大切なのは、大人といっしょに行動することです。これを絶対に忘れないでください。」**

## ロールプレシナリオ例② 「安全に自分だけで行動する」

状況設定：①に同じ。

保護者役「〇〇さん、お仕事でどうしても出かけなければいけないんだ。雨がかなりひどくなってきたから、絶対に外に出てはいけないよ。できるだけ早く帰ってくるからね。」

教師「〇〇さんがテレビを見ていると、テレビが緊急速報画面に変わり、アナウンサーが『早めに避難してください。』と言っています。さあ、どうしますか？」

(判断1：連絡)

- 代表児童にどうするか考えさせ、実際に演技させるか言葉で説明させる。
- 代表児童が考えた方法でいいか、その理由も、クラスで考えさせる。
- 児童が保護者等（大人）と連絡をとろうとしているか。  
【とろうとした】自分（子ども）だけで決めないで、保護者等（大人）にどうすればいいか聞こうとしたことを褒め、他の児童にも確認する。  
【とろうとしなかった】自分（子ども）だけで判断し、行動することの危険性を伝える。
- **教師のまとめ「崖崩れや地滑り、高潮、洪水など、どんな危険が起こるか分かりません。自分だけで行動せず、必ず大人を頼りましょう。」**

(判断2：行動)

- 教師「〇〇さんは、安全に避難しようと保護者等の携帯に電話しました。でも、どうしても連絡が取れません。他の大人にも連絡してみましたが、つながりませんでした。雨の音はどんどんひどくなっています。さあ、どうしますか？」
- 代表児童にどうするか考えさせ、実際に演技させるか言葉で説明させる。
- 代表児童が考えた方法でいいか、その理由も、クラスで考えさせる。
- **教師のまとめ「最初に言われた『絶対に外に出てはいけないよ。』という言葉覚えていますか。これを守りながらできる、安全な行動をとりましょう。2階がある家は崖や川から離れた2階の部屋に移動しましょう。2階が無い家は、崖や川から離れた部屋に移動しましょう。風が強い時は、窓ガラスが割れるかもしれないからカーテンを閉め、窓から離れて身を守りましょう。」**

避難のしかたを身に付ける



土石流が来る前にすばやく避難する



家族との連絡先を決めておく



家族と一緒に避難する



濁った水は深さがわからないから注意する

【提供：土砂災害防止広報センターHP】

# 【小学校1年～3年】 火山災害から身を守る

◆カリキュラム・マネジメントの視点

道徳「生命尊重」



学級活動「火山災害から身を守る」



学校行事「避難訓練」

◆ねらい 火山噴火時に、自分の安全を守るための行動を身に付けることができる。

◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照)  2 写真を見て、火山について考える。 ★ 火山とは、どんな山でしょう。火山について知っていることを教えてください。	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価 ○児童の心身の状態に十分配慮する。  ○何枚かの火山や周辺の様子分かる写真を見せ、噴火の危険性だけでなく、自然の豊かさや恵み、それを生かした人々の営み(農業)などにも触れる。 ○火山噴火は、観光や将来の居住場所等で遭遇する場合があることをおさえる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">                         かざんがふんかしたときに、あんぜんにひなができるようになろう。                     </div>		
展 開 25 分	3 火山噴火やその危険について理解する。 ★ 火山が噴火したとき、どんな危ないことがあるかを考えましょう。  4 火山噴火時に、安全確保のために大事なことを考える。 ★ 火山が噴火したとき、自分の安全を守るためにどんな行動をとればよいかを考えましょう。	○資料(絵)を活用し、火山噴火時のあぶない場面について、ワークシートに記入させる。 ○ <u>火山噴火時には、小さな噴石や火山灰が降ってきたり、場所によっては窓ガラスが割れたりして、けがをしたり避難しにくかったりする場合があることを理解させる。</u> ○資料をもとに、火山噴火から身を守るためには何が大切なのかを考えさせる。 ○ <u>「噴石から頭を守ること」「火山灰から視界や呼吸を確保すること」について、身近な防災用品(防災頭巾や帽子、タオル、マスクなど)を実際に装着して、身を守る行動を身に付ける。</u> ◆火山噴火時の危険を理解し、自分の安全を守るための行動を身に付けようとしている。 【関心・意欲・態度】〈観察〉
ま と め 10 分	5 火山噴火が起きたときの安全な避難行動をまとめる。 例：頭を守って丈夫な建物の中に、逃げる。 マスクをはめて灰を防ぐ。 大人と一緒に行動する。	○児童の実態や発達段階、地域の実情に応じて、安全な避難行動についてまとめる。例えば、 <u>火山情報を大人と確認すること、窓ガラスから離れること、海や湖の近くの火山噴火では津波が起きることがあることにもふれる。</u> ○「大人や先生が君たちの命を守る」というメッセージを伝え、安心感を持たせる。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。
	6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○児童の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

・「保存版 防災ハンドブック」(熊本県危機管理防災課 H28)

# ワークシート

( ) ねん ( ) くみ ( ) ごう なまえ ( )

めあて

1 あぶないところを、○でかこみましょう。



2 かざんが ふんかしたときに、みをまもる こうどうをしましょう。

◎ ( ) であたまを まもって、じょうぶな たてもののなかに にげる。

◎ ( ) で、目や口にはいる はいをふせぐ。

◎ ( ) といっしょに こうどうする。

○かざんについてのじょうほうを ( )。

○まどガラスがわれることもあるので、( )。

○うみやみずうみのちかくのかざんがふんかしたら、

( )。

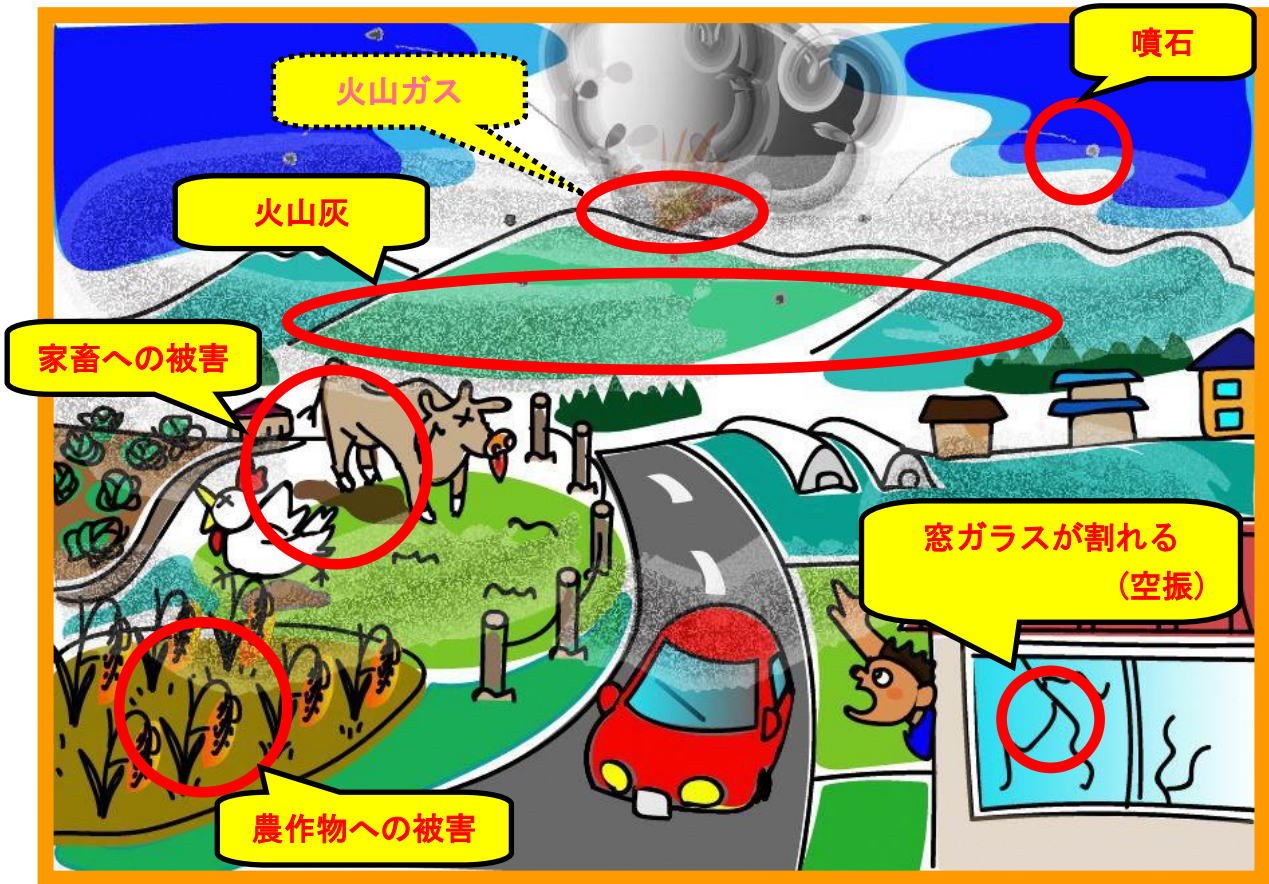
## ワークシート（記入例）

( ) ねん ( ) くみ ( ) ごう なまえ ( )

めあて

かざんが ふんかしたときに、あんぜんに ひなんできるようになるろう。

1 あぶないところを、○でかこみましょう。



2 かざんが ふんかしたときに、みをまもる こうどうをしましょう。

◎ (ぼうさいずきんや ぼうし) であたまをまもって じょうぶな たても  
ののなかに にげる。

◎ (タオルやハンカチ、マスク) で、目や口にはいる はいをふせぐ。

◎ (おとな) といっしょに こうどうする。

○かざんについてのじょうほうを (おとなのひとと たしかめる) 。

○まどガラスがわれることもあるので、(まどのそばから はなれる) 。

○うみやみずうみのちかくのかざんがふんかしたら、

(つなみから みを まもるために たかいところへ にげる) 。



資料

◎ゆたかな しぜんと かざん

くさせんり



提供：熊本県観光サイト

やそう



すいげん



ちねつはつでん



提供：資源エネルギー庁ウェブサイト

◎かざんがふんかしたら

提供：阿蘇山火山防災連絡事務所



かざんガス

提供：阿蘇山火山防災連絡事務所



ふんか

提供：阿蘇山火山防災連絡事務所



ふんえん

提供：阿蘇山火山防災連絡事務所



ふんせき

出典：熊本県防災情報



かざんばい

出典：防災ハンドブック（熊本県）



かさいりゅう

◎うみのちかくのかざんがふんかしたら

【つなみ きょうくんひ】

むかし、うんぜんの ふげんだけが ふんかしました。やまが こわれて、つなみが くまもとまで おしよせました。



提供：道徳教育用郷土資料「熊本の心」中学校「碑に込められた願い」画像資料より

# 【小学校4年～6年】 非常持ち出し袋を作ろう

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動  
「非常持ち出し袋を作ろう」



短い時間の指導  
での活用

◆ねらい 非常持ち出し袋の必要性を理解し、非常時の備えについて考えることができる。

## ◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入 7 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 最近の災害や避難訓練を思い出す。 3 本時のめあてをつかむ。	○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○写真等の資料を見せ、熊本地震等、最近の災害について振り返る。 ○災害時に備えた持ち物の工夫や備蓄及び非常持ち出し品(袋)の準備が重要なことを確認する。
ひなんするときに何がひつようか考え、ひじょう持ち出しぶくろを作ろう。		
展 開 28 分	4 非常持ち出し袋について考える。 ★ 避難することになった時のために、あなたは非常持ち出し袋に何を入れておきますか。 ★ 全てを持って避難することは難しいので、(災害名)が起こることを考えてあなたが袋に入れる物を6つ選んでください。理由も書きましょう。	○児童の自由な意見を引き出す。 ○しばらく考えさせた後、ワークシートで避難時に持ち出す物の例を紹介する。児童が考えた必要な物は追加の枠に記入させる。 ○持てる量にする必要があるため、袋に入れる物を6つ選択させ、その理由も記入させる。(災害種類は地域の実態に合わせる。) ○ペアや班、学級全体で発表させる。 ◎水や携帯食を基本として、メガネや常備薬などそれぞれの状況で持ち出す物が違うこと、また、消費期限のある食べ物など定期的な点検が必要であることを確認する。
ま と め 10 分	5 本時のまとめをする。  6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	◆自分にとって必要な物とその理由を考えようとしている。【関心・意欲・態度】〈観察〉 ◎資料の体験談を読み、備えることが安心につながることを再確認する。また、乳幼児や高齢者がいるなど家族の状況で必要な物が異なることから、非常持ち出し袋の内容を家族などと確認することの大切さを伝える。 ○資料を使い、非常持ち出し袋について家族などと話し合うようにし、事後指導につなげる。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

・熊本県 防災ハンドブック(熊本県)

# ワークシート

( ) 年 ( ) 組 ( ) 号 名前 ( )

めあて



## ○ ひじょう持ち出しぶくろに入れることが考えられる物 【提供：防災ハンドブック（熊本県）】

<input type="checkbox"/> 水	<input type="checkbox"/> 着がえ	<input type="checkbox"/> ひも
<input type="checkbox"/> かんづめ	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> けいたいトイレ
<input type="checkbox"/> アメ・チョコレート	<input type="checkbox"/> 手ぶくろ	<input type="checkbox"/> よく使うくすり
<input type="checkbox"/> お金	<input type="checkbox"/> 毛ふ	<input type="checkbox"/> ケガの手あて道具
<input type="checkbox"/> ほけんしょうのコピー	<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/> カップ・おりたたみかさ
<input type="checkbox"/> かい中でんとう	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ	<input type="checkbox"/> ( )
<input type="checkbox"/> かん電池	<input type="checkbox"/> ライター・マッチ	<input type="checkbox"/> ( )
<input type="checkbox"/> 電池で聞けるラジオ	<input type="checkbox"/> はさみ	<input type="checkbox"/> ( )

## ○ 自分が入れておきたい物とその理由

① ( )	② ( )	③ ( )
④ ( )	⑤ ( )	⑥ ( )
-----		
(理由)		
-----		
-----		

## ○ みんなの発表を聞いて気づいたこと

-----
-----

- このシートを持ち帰って、ひじょう持ち出しぶくろに何を入れるかを保護者などと話し合いましょう。そうすることでさらに安心につながります。ぜひやってみましょう。

## ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

めあて

ひなんするときに何がひつようか考え、ひじょう持ち出しぶくろを作ろう。



### ○ ひじょう持ち出しぶくろに入れることが考えられる物 【提供：防災ハンドブック（熊本県）】

<input type="checkbox"/> 水	<input type="checkbox"/> 着がえ	<input type="checkbox"/> ひも
<input type="checkbox"/> かんづめ	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> けいたいトイレ
<input type="checkbox"/> アメ・チョコレート	<input type="checkbox"/> 手ぶくろ	<input type="checkbox"/> よく使うくすり
<input type="checkbox"/> お金	<input type="checkbox"/> 毛ふ	<input type="checkbox"/> ケガの手あて道具
<input type="checkbox"/> ほけんしょうのコピー	<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/> カップ・おりたたみかさ
<input type="checkbox"/> かい中でんとう	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ	<input type="checkbox"/> ( <b>メガネ</b> )
<input type="checkbox"/> かん電池	<input type="checkbox"/> ライター・マッチ	<input type="checkbox"/> ( <b>ぬいぐるみ</b> )
<input type="checkbox"/> 電池で聞けるラジオ	<input type="checkbox"/> はさみ	<input type="checkbox"/> ( )

### ○ 自分が入れておきたい物とその理由

- ① ( **水** ) ② ( **かんづめ** ) ③ ( **ヘルメット** )  
 ④ ( **手ぶくろ** ) ⑤ ( **電池で聞けるラジオ** ) ⑥ ( **タオル** )

(理由) **水と食べ物は必ずいるとおもったから、水とかんづめをえらびました。**

**ニュースが聞けるようにラジオをえらびました。安全にすごせるようにヘルメットと手ぶくろとタオルも入れます。**

### ○ みんなの発表を聞いて気づいたこと

**みんな水と食べ物をえらんでいるところが同じでした。**

**自分は安全のことを考えてヘルメットとかをえらんだけれど、長くひなんするしたら、着がえもいれた方がよかったかもしれないと思いました。**

- このシートを持ち帰って、ひじょう持ち出しぶくろに何を入れるかを保護者などと話し合いましょう。そうすることでさらに安心つながります。ぜひやってみましょう。

じしん  
地震

つなみ  
津波

すいがい  
水害

どしゃさいがい  
土砂災害

たいふう  
台風

かざんふんか  
火山噴火

いつ起きるかわからない災害に備えて

①いつもの持ち物に災害の時に役立つ物を加えよう

- 自分の住所などの連絡先のメモ
- ハンカチ・ティッシュ・マスク
- いつも飲む薬のことを書いたメモ（お薬手帳のコピー）
- 防犯ブザー

②非常用品（災害が起こったときに必要な物）を準備しよう

備蓄品

災害が起こると、電気やガス、水道がこわれてしまい、それらがストップしてしまうことがあります。そのため、災害があっても数日（3日間くらい）は自分で過ごせるように必要な物を備えておくことが大切です。

- レトルト食品
- 飲料水
- カセットコンロ
- ラップ
- 紙皿・紙コップ
- ビニール袋
- 工具セット
- ガムテープ
- 簡易トイレ

非常持ち出し品

災害のため家を離れる時に持ち出す物です。安全に早く逃げられるよう、両手が自由になるリュックサックなどに持てる量を入れておきます。（非常持ち出し袋）

- お金
- 飲料水
- 缶詰や乾パン
- かい中電灯
- 電池で聞けるラジオ
- ヘルメット
- 着替え
- 歯ブラシ
- 薬のメモ
- タオル

レトルト食品や飲料水などはいつも多めに買って置いて、古いものから使っていくと、いつも新しい物を備えておくことができます。定期的に確認しましょう。

※熊本地震のとき避難生活をした益城町の小学校の子どもたちに聞いてみました

- ・車の中で生活をしていたので、不便でした。食べ物と水は絶対にいると思いました。
- ・家にいつもカップめんを買って置いておくことにしていたので、助かりました。
- ・とにかく情報を知りたかったので、ラジオは準備しておくよかったと思いました。
- ・夜が暗くて不安でした。かい中電灯をつけると安心しました。



【提供：地震調査研究室推進本部】

家族など、一緒に生活しているみんなで何を考えるか考えておくことが安心につながります。高齢者や小さい子どもがいる場合などで中身はかわります。



【提供：地震調査研究室推進本部】

# 【小学校4年～6年】防災マップを見てみよう

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

社会「水害からくらしを守る」  
理科「流れる水のはたらき」



学級活動  
「防災マップを見てみよう」



学校行事  
「水防避難訓練」

◆ねらい 防災マップ（ハザードマップ）の意味と使い方を知り、日ごろからの備えを考えることができる。

## ◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導入 10分	1 心のケアを受ける。（本手引P2参照） 2 これまで学習した川のはたらきや水害について振り返る。 ★ 災害から町を守る対策にはどんなものがありますか。 ★ 私たちの住んでいる地域には、どれくらいの災害の危険性があるか知っていますか。	○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○これまで学習した水害や川の水のはたらきについて振り返る。 ◎ <u>河岸工事やダムの写真を見せ、川から水が溢れないように対策しているが、それを越えることもあることを確認する。</u> ○自分たちの住んでいる地域の河川の状況で知っていることを出し合わせたり、過去の災害を確認したりする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">自分たちが住んでいる地域の防災マップを見て、自然災害への備えについて考えよう。</div>		
展開 25分	3 防災マップの意味と使い方を知る。 ★ 防災マップを見て、どんなことが分かりますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             ① 「自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水や土砂災害の危険性」              ② 「自宅周辺や通学路周辺の避難場所」           </div>	◎ <u>災害について調べる方法に「防災マップ」があることを伝え、入手方法も教える。</u> ◎ <u>防災マップには、災害の想定範囲や浸水の深さ、避難場所等が記載されていることや災害の大きさにより災害想定範囲が大きくなることをおさえる。</u> ○地域の名所やよさなどについても確認する時間を設ける。 （①②を見つけ、マーカーで印をつけさせる。） ◎ <u>非常持ち出し品を用意したり、避難場所や避難経路を確認したりすることの大切さを教える。</u> （避難経路をマーカーで塗りながら確認する。） ◆ <u>防災マップについて理解し、日ごろの備えについて考えようとしている。</u> 【関心・意欲・態度】〈観察・ワークシート〉
まとめ 10分	4 日ごろから、備えておくべきことを考える。 ★ 災害に備えて、日ごろからどんなことを備えておけばよいでしょうか。 5 学習して分かったことを確認する。 6 心のケアを受ける。（本手引P2参照）	◎ <u>家族等と一緒に避難経路や非常持ち出し袋を確認させることで事後指導につなげる。</u> ○「このように備えておくと安心だね。」という声かけを行う。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

## 活用資料等

- ・防災マップ（ハザードマップ）を各市町村HPよりダウンロード
- ・学校防災教育指導の手引P11～P15
- ・非常持ち出し袋の実物
- ・防災ハンドブック（熊本県）P9～、P26～

# ワークシート

( ) 年 ( ) 組 ( ) 号 名前 ( )

めあて

① 防災マップを見て、気付いたことを書きましょう。

② 自然災害に備えて、日ごろからどんなことを備えておけばよいでしょうか。

③ 今日の学習の感想を書きましょう。

④ 家族などと避難経路や非常持ち出し袋などを確認して感想を書きましょう。



【提供：防災ハンドブック（熊本県）】

## ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

めあて

自分たちが住んでいる地域の防災マップを見て、自然災害への備えについて考えよう。

### ① 防災マップを見て、気付いたことを書きましょう。

- 川の近くが氾濫して、洪水になるかもしれない。
- 低い土地では浸水するかもしれない。
- 家の近くのがけが崩れるかもしれない。
- 高潮や津波が起こるかもしれない。
- 火山が噴火したら、火山灰の影響を受けやすい。
- 自分の住んでいる地域では、災害が起こるかもしれない場所がたくさんあった。
- 学校が避難場所になっていることが分かった。

### ② 自然災害に備えて、日ごろからどんなことを備えておけばよいでしょうか。

- 自分の家から避難場所までの道を確認しておく。
- 非常持ち出し袋を準備し、定期的に中身を点検しておく。
- 保護者等との連絡方法や避難方法を話し合っておく。
- 大雨の時は近くの川の水位危険度レベルを確認し、どんな行動をとる必要があるか考えておく。

### ③ 今日の学習の感想を書きましょう。

- 通学路の途中にがけ崩れが起こるかもしれないところがあったので、いつも気を付けておこうと思う。
- 防災マップに書いてある災害は想定だから、それ以外のことにも注意しておこうと思った。

### ④ 家族などと避難経路や非常持ち出し袋を確認して感想を書きましょう。

私の家にはまだ小さい赤ちゃんがいるから、非常持ち出し袋には紙おむつや粉ミルクを入れました。話し合いの中で、避難するときは長靴ではなく、普通の靴の方が歩きやすくなると教わりました。みんなで避難場所を確認できてよかったです。



【提供：防災ハンドブック（熊本県）】



# 【小学校4年～6年】 我が家の防災対策をしよう

◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動「我が家の防災対策をしよう」



道徳「生命尊重」

◆ねらい 災害発生時の危険を想定し、事前の防災対策について考えることができる。

◆展開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価
導入 10分	<p>1 心のケアを受ける。(本手引P2参照)</p> <p>2 自然災害について考える。 ★ みなさんの家の近くではどのような災害が起きる可能性がありますか。</p>	<p>○児童の心身の状態に十分配慮する。</p> <p>○自宅周辺で起こりそうな災害についてワークシートを参考に考えさせる。</p> <p>○自然環境に関係なく、地震や雷、台風等の危険があることにも気付かせる。</p>
我が家の防災対策について考えよう。		
展開 25分	<p>3 自然災害への備えについて考える。</p> <p>(1) 台風及び土砂災害の備えについて知る。</p> <p>(2) 地震発生時の危険について考える。 ★ 地震が起こった時、家の中では、どんな危険があるか考えよう。</p> <p>(3) 自分や家族等でできる地震対策について考える。 ★ 我が家でできる地震対策にはどんなものがあるか考えよう。</p> <p>①一人学び ②グループ学習 ③全体発表</p>	<p>○ワークシートを活用し、台風及び土砂災害の備えについて知るとともに、地震災害対策を考えるためのイメージを持たせる。</p> <p>○<u>自宅にいる時間が1日のうちで最も長い</u>ため、<u>地震に遭う可能性が一番高い場所であることを理解させる。</u></p> <p>○<u>自然災害の被害は、備えておくことで防ぐことができることが多い</u>ことに気付かせる。</p> <p>【危険に備える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家具や家電にストッパーを付けたり、倒れても影響がない場所に移動させる。</li> </ul> <p>【備蓄をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生後3日間分の備えが必要である。</li> <li>・自分用の非常持ち出し袋を用意しておき、すぐに持ち出せる場所に置いておく。</li> </ul> <p>【事前に話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害に応じた避難場所を決めておく。</li> <li>・避難経路上の危険箇所についても話し合っておく。</li> </ul> <p>◆災害発生時の危険を想定した備えを行おうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】〈観察 ワークシート〉</p>
まとめ 10分	<p>4 災害に備えた対策についてまとめる。 ★ 家族等で必要な備蓄品や集合場所を話し合ってみましょう。</p>	<p>○災害への備えの重要性について、まとめるとともに、保護者等と話し合わせることで事後指導につなげる。</p>
	<p>5 心のケアを受ける。(本手引P2参照)</p>	<p>○児童の心身の状態に十分配慮する。</p>

活用資料等

- ・「みんなで防災！ガイドブック」(熊本県危機管理防災課 H24)
- ・保存版「防災ハンドブック」(熊本県危機管理防災課 H28)

# ワークシート

( ) 年 ( ) 組 ( ) 号 名前 ( )

めあて

① あなたの家はどんな場所にありますか。



山・がけのそば



海のそば



川のそば



火山のそば

その他( )

② 台風や土砂災害の備えについて知ろう。

## 【台風】



- ・窓のそばからなるべくはなれる。特に寝るときは注意する。
- ・窓ガラスに飛散防止のフィルムをはる。
- ・雨戸やシャッターがある場合は閉める。
- ・物が飛んでいかないよう家のまわりを普段から片付けておく。

## 【土砂災害】



- ・白ごろから、がけから離れた部屋や2階で過ごす。
- ・危険を感じたら避難する。外に出て避難できない時は、自宅内の山側(斜面)の反対側または2階へ避難する。

③ 地震について考えよう。

どんな危険がありますか	対策を考えよう

④必要<sup>ひつよう</sup>と思う<sup>おも</sup>備蓄品<sup>びちくひん</sup>をチェックして、家族<sup>かぞく</sup>など<sup>かくにん</sup>と確認<sup>かくにん</sup>しよう。

**食料品**

- 飲料水<sup>いんりょうすい</sup>
- カップみそ汁<sup>しる</sup>
- レトルト食品<sup>しよくひん</sup>  
(ごはん・おかゆ<sup>など</sup>)
- インスタントラーメン



**生活用品**

- 給水用ポリタンク<sup>きゆうすいよう</sup>
- カセットコンロ
- ティッシュペーパー
- ラップフィルム
- 紙皿・紙コップ<sup>かみざら かみ</sup>
- 携帯用カイロ<sup>けいたいよう</sup>
- 簡易トイレ<sup>かんい</sup>
- ビニール袋<sup>ぶくろ</sup>
- 水不要のシャンプー<sup>みずふよう</sup>
- 生理用品<sup>せいりようひん</sup>
- 工具セット<sup>こうぐ</sup>
- ほうき・ちりとり
- わりばし ※自分で考<sup>かんが</sup>えてみよう
- ロープ  ( )
- 長靴<sup>ながぐつ</sup>  ( )
- 雨具<sup>あまぐ</sup>  ( )

(きりとして ランドセルなどに入れて もっておきましょう)

⑤家族<sup>かぞく</sup>など<sup>そうだん</sup>と相談<sup>そうだん</sup>して、集<sup>しゅうごう</sup>合<sup>ばしょ</sup>場所<sup>か</sup>を決<sup>か</sup>めて書<sup>か</sup>きましよう。



【地震<sup>じしん</sup>の時<sup>とき</sup>】

【風水害<sup>ふうすいがい</sup>の時<sup>とき</sup>】

【その他<sup>た</sup>の災<sup>さい</sup>害<sup>がい</sup>の時<sup>とき</sup>】

●災<sup>さい</sup>害<sup>がい</sup>の種<sup>しゆるい</sup>類<sup>れい</sup>によつて避<sup>ひ</sup>難<sup>なん</sup>する経<sup>けい</sup>路<sup>ろ</sup>も相<sup>そう</sup>談<sup>だん</sup>しておきましょう。

●避<sup>ひ</sup>難<sup>なん</sup>する経<sup>けい</sup>路<sup>ろ</sup>に危<sup>き</sup>険<sup>けん</sup>な所<sup>ところ</sup>はないか家<sup>か</sup>族<sup>ぞく</sup>など<sup>そうだん</sup>で相<sup>そう</sup>談<sup>だん</sup>しましよう。

【イラスト：防災ハンドブック（熊本県）より】

# ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

めあて

我が家の防災対策について考えよう。

## ①あなたの家はどんな場所にありますか。



山・がけのそば



海のそば



川のそば



火山のそば その他（ ）

## ②台風や土砂災害の備えについて知ろう

### 【台風】



- ・窓のそばからなるべくはなれる。特に寝るときは注意する。
- ・窓ガラスに飛散防止のフィルムをはる。
- ・雨戸やシャッターがある場合は閉める。
- ・物が飛んでいかないよう家のまわりを普段から片付けておく。

### 【土砂災害】



- ・白ごろから、がけから離れた部屋や2階で過ごす。
- ・危険を感じたら避難する。外に出て避難できないときは、自宅内の山側(斜面)の反対側または2階へ避難する。

## ③地震について考えよう

### どんな危険がありますか

- ・ガラスが割れる。
- ・割れたガラスを踏んでけがをする。
- ・家具が倒れてきたり、移動してきたりする。
- ・家のドアが開かなくなって閉じこめられる。
- ・停電する。

### 対策を考えよう

- ・ガラスには飛散防止フィルムをはる。
- ・常にスリッパや靴を室内に準備しておく。
- ・家具が倒れてこないように固定しておく。
- ・寝室には大きな家具をおかないようにしておく。
- ・家具などで出口をふさがないように家具向きや配置を工夫しておく。
- ・懐中電灯などを準備しておく。

④必要<sup>ひつよう</sup>と思う<sup>おも</sup>備蓄品<sup>びちくひん</sup>をチェックして、家族<sup>かぞく</sup>などと確認<sup>かくにん</sup>しよう。

食料品

- 飲料水<sup>いんりょうすい</sup>
- カップみそ汁<sup>しる</sup>
- レトルト食品<sup>しよくひん</sup>  
(ごはん・おかゆ等)
- インスタントラーメン<sup>など</sup>



生活用品

- 給水用ポリタンク<sup>きゆうすいよう</sup>
- カセットコンロ
- ティッシュペーパー
- ラップフィルム
- 紙皿・紙コップ<sup>かみざら かみ</sup>
- 携帯用カイロ<sup>けいたいよう</sup>
- 簡易トイレ<sup>かんい</sup>
- ビニール袋<sup>ぶくろ</sup>
- 水不要のシャンプー<sup>みずふよう</sup>
- 生理用品<sup>せいりようひん</sup>
- 工具セット<sup>こうぐ</sup>
- ほうき・ちりとり
- わりばし ※自分で考えてみよう<sup>じぶんがかんが</sup>
- ロープ  ( )
- 長靴<sup>ながぐつ</sup>  ( )
- 雨具<sup>あまぐ</sup>  ( )

(きりとって ランドセルなどに入れて もっておきましょう)

⑤家族<sup>かぞく</sup>などと相談<sup>そうだん</sup>して、集合場所<sup>しゅうごうばしょ</sup>を決めて書きましよう。



【地震<sup>じしん</sup>の時<sup>とき</sup>】

- ・ 近くの小学校の体育館

【風水害<sup>ふうすいがい</sup>の時<sup>とき</sup>】

- ・ 高台にある公民館

【その他の災害<sup>たさいがい</sup>の時<sup>とき</sup>】

- ・ 津波等が考えられる。

●災害<sup>さいがい</sup>の種類<sup>しゆるい</sup>によって避難<sup>ひなん</sup>する経路<sup>けいろ</sup>も相談<sup>そうだん</sup>しておきましょう。

- ・ 地震の後には余震に備えて、ブロック塀のない〇〇道路を<sup>〇〇</sup>通<sup>〇〇</sup>って避難するようにする。
- ・ 地震の後には津波が来るかもしれないから、〇〇山方面<sup>〇〇</sup>に向<sup>〇〇</sup>かって避難するようにする。
- ・ 大雨の時(川が増水したとき)は、〇〇川<sup>〇〇</sup>が氾濫するかもしれないから、〇〇方面<sup>〇〇</sup>の道路<sup>〇〇</sup>を通<sup>〇〇</sup>るようにする。

等

●避難<sup>ひなん</sup>する経路<sup>けいろ</sup>に危険<sup>きけん</sup>な所<sup>ところ</sup>はないか家族<sup>かぞく</sup>などで相談<sup>そうだん</sup>しましょう。

- ・ ●●には崖崩れの可能性がある斜面がある。
- ・ ○○には、用水路が多いから危険。
- ・ ◆◆は川の近くで危ない。
- ・ □□は崩れてきそうなブロック塀や建物がある。

等

【イラスト：防災ハンドブック（熊本県）より】

# 【中学校・高等学校】 地震・津波災害に備える

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

保健体育「傷害の防止」

学級活動・ホームルーム活動  
「地震・津波災害に備える」

学校行事「避難訓練」

◆ねらい 地震・津波災害について理解し、災害時の行動について考えることができる。

◆展開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価
導入 10分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 地震・津波災害の歴史や被害について知る。 ★ 過去にどのような場所で、どのような規模の災害が起こったでしょうか。 ・東日本大震災(DVD視聴) ・熊本地震(資料活用)	○生徒の心身の状態に十分配慮する。 ○過去におきた地震・津波災害の被害や歴史についてDVD映像や本手引P3～P10、P20、P21を活用し、理解する。また、地震によってどのような危険が起こるのかを資料で確認する。
地震・津波災害発生時の行動について考えよう。		
展開 35分	3 地震・津波災害からの身の守り方を理解する。 ★ 地震・津波災害発生時に起こりうる危険を予測し、身の守り方を考えよう。 ・グループで考える。	○グループワークでキーワードを引き出し、意見を共有させる。 ◎ <u>地震・津波災害発生時の身の守り方や避難行動についてキーワードをもとに具体的に理解させる。</u>
キーワード【地震】・姿勢を低くする。頭や身体を守る。揺れがおさまるまで動かない。 ・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を隠す。 ・大きな地震の後にも同規模程度の地震が起こることがある。等 【津波】・速い、高い、繰り返す。 ・迷わず高いところへ避難する。・避難したら戻らない。等		
まとめ 5分	4 地震発生時の行動について考える。 ★ 次の場所で地震が起きた時、どのような行動をとればよいか、事例をもとに考えよう。 ①通学中 ②家の中 ③海水浴場 ④ショッピングモール (1)各グループで担当場面を決め、その場面について考える。 (2)全体で発表する。 ※実施する学年や地域の実態に応じてその他の事例を取り扱ってもよい。	○学校にいる時だけでなく、家にいる時や通学中など、自然災害は、いつ・どこで起こるか分からないことを確認する。 ◎ <u>身を守る行動として正しい知識が身に付いているか確認する。誤りがある場合には正しい行動を理解できるようにする。</u> ◎ <u>自らが率先して避難行動を行うことで他者の避難行動も促すことができることを理解させる。(率先避難の視点)</u> ◆地震・津波災害発生時にとるべき行動について考えている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉 ○本時の学習を保護者等とも共有し、日ごろからの備えが安心につながることをおさえる。
	5 まとめの話を聞く。	
	6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○生徒の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

・青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」  
映像教材・データ集

# ワークシート

( )年( )組( )号 氏名( )

めあて

- 1 地震・津波災害の歴史や被害（過去の災害状況や被害状況）について学んだことを書きましょう。

- 2 地震・津波災害発生時の危険予測と身の守り方について考えましょう。

考えられる危険

身を守る行動

- 3 地震発生時の行動について、考えたことを書きましょう。

(①通学中 ②家の中 ③海水浴場 ④ショッピングモール)

- 4 今日の学習で学んだこと、分かったことを書きましょう。

# ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 氏名（ ）

めあて

地震・津波災害発生時の行動について考えよう。

1 地震・津波災害の歴史や被害（過去の災害状況や被害状況）について学んだことを書きましょう。

- ・熊本地震 平成 28 年 4 月 14 日に M6.5 の前震、4 月 16 日に M7.3 の本震が発生。  
死者 246 人、負傷者 2,718 人（平成 29 年 10 月 13 日現在）
- ・東日本大震災 M9.0 9.3m 以上の津波を観測 死者・行方不明者 22,152 人
- ・阪神淡路大震災 M7.3 死者・行方不明者 6,437 人

2 地震・津波災害発生時の危険予測と身の守り方について考えましょう。

## 考えられる危険

家具の転倒、建物の損壊・倒壊、津波、液状化現象、地割れ、火災、土砂災害など  
大きな地震の後には、同規模程度の地震が起こることがある。

## 身を守る行動

- ・姿勢を低くする。頭や身体を守る。揺れがおさまるまで動かない。
- ・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を隠す。
- ・津波は、速く、高く、繰り返すので迷わず高いところへ避難し、避難したら戻らない。など

3 地震発生時の行動について、考えたことを書きましょう。

①通学中 ②家の中 ③海水浴場 ④ショッピングモール

### ①通学中

- ・頭を鞆で守る。ブロック塀から離れる。小学生にも身を守る行動の指示を出す。
- ・地震終息後は、余震に備えブロック塀や電柱、電線等に気を付けながら小学生と一緒に安全な場所へ避難する。等

### ②家の中

- ・丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠す。揺れがおさまったらあわてずに火の始末をする。
- ・周囲の状況を確認してから落ち着いて行動する。
- ・余震に備え、近くの避難所に避難する。隣の家の高齢者にも避難を呼びかけ、一緒に避難する。等

### ③海水浴場

- ・津波が発生する可能性があるため高台を目指して避難するとともに正しい情報を入手する。
- ・周囲に避難を呼びかけたり、自らが率先して避難行動を行ったりすることで、周囲の人の避難行動も促す。等

### ④ショッピングモール

- ・この後、強い揺れが起こる可能性があるため、周囲にも声をかけながら、自らが率先して避難行動をとる。
- ・商品が落下してくる可能性があることも考えて避難行動をとる。
- ・揺れがおさまっても、同規模程度の地震が起こる可能性があるため、店の係員の指示に従い、落ち着いて避難する。等



## 資料

### 1 地震発生時に起こりうる危険



### 2 地震発生時の行動（各場面の事例）

#### ①通学中



【提供 気象庁】

あなたは、ブロック塀に囲まれた路地を友だちと自転車で登校しています。周りには、集団登校をしている小学生もいます。その時、スマートフォンから「緊急地震速報」が聞こえました。

#### ②家の中



【提供 気象庁】

あなたは、家でみんなと一緒にテレビを見ながらゆっくりしていました。その時、激しい揺れがおこり、棚にある食器類や本などが落ちてきました。あなたの家の隣には一人暮らしの高齢者が住んでいます。

#### ③海水浴場



【提供 気象庁】

あなたは、みんなで海水浴に出かけていました。海で泳いでいるとき、地震の揺れを感じました。他の海水浴客も揺れを感じたようですが、そのまま海水浴を楽しんでいます。

#### ④ショッピングモール



【提供 気象庁】

あなたは、友だちとショッピングモールに買い物に出かけていました。買い物中、スマートフォンから「緊急地震速報」が聞こえました。ほとんどの人がどうすればいいかわからずにいます。

# 【中学校・高等学校】 風水害に備える

◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動・ホームルーム活動  
「風水害に備える」



社会科「日本の地理」

◆ねらい 風水害が予想される場合の具体的な行動、避難の仕方について考えることができる。

◆展開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導入 7分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 風水害について知る。 ★ 風水害のDVDを見て、どんな感想を持ちましたか。	○生徒の心身の状態に十分配慮する。 ○DVD映像を見せ、感想を発表させる。 ◎熊本県内でも様々な風水害が起きていることを補足説明する。(本手引P20、21参照) <u>不知火高潮災害(H11)、県南集中豪雨(H15)、九州北部豪雨：熊本広域大水害(H24)等</u> ○高潮災害の発生メカニズムにも触れる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             風水害が予想される場合の具体的な行動、避難の仕方を考えよう。           </div>		
展開 36分	3 熊本県の雨の特徴を知る。 ★ 資料を見て、熊本県の雨の特徴を考えよう。  4 避難情報が発令されたときの避難行動について考える。 ★ 市町村が発令する避難情報にはどんな情報がありますか。  ★ 避難情報が発令された場合の具体的な行動について考えよう。 (1) 個人で考える。 (2) 小集団で深める。 (3) 全体で交流する。	○本手引P11、12を活用し、熊本県の雨の特徴について考えさせる。 ◎熊本県は6月中旬から7月中旬までの梅雨時に雨がまとまって降り、7月の初め頃大雨になりやすい傾向がある。 ◎寝ている時間帯に大雨が発生する傾向にある。 ○風水害は、発生前に情報を得ることができる災害で、市町村が発令する避難情報があることを理解させる。 ≪市町村が発令する避難情報≫ ・避難準備・高齢者等避難開始 ・避難勧告 ・避難指示(緊急)【本手引P14参照】 ○資料を参考に具体的な行動について考えさせる。 ◆風水害が予想される場合の具体的な行動、避難の仕方について考えている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉 ◎自らが率先して避難することが、周囲の避難行動を促すことにつながることを理解させる。
まとめ 7分	5 本時のまとめをする。  6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○本時の学習を振り返り、学習内容を深める。  ○生徒の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等 『青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」DVD(A-7)』

# ワークシート

( ) 年 ( ) 組 ( ) 号 氏名 ( )

めあて

○風水害について感じたことを書こう。

--

私たちの住む地域で風水害が予想される場合の具体的な対処方法を考えよう。

◎熊本県の雨の特徴について考えてみよう。

--

◎避難情報が出された時の具体的な行動について考えよう。

○大雨の可能性が高くなる

○避難準備・高齢者等避難開始（水位レベル3）

○避難勧告（水位レベル4）

○避難指示（緊急）（水位レベル5）

◎学習して学んだこと、分かったことをまとめよう。

--

## ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 氏名（ ）

めあて

風水害が予想される場合の具体的な行動・避難の仕方を考えよう。

○風水害について感じたことを書こう。

○集中豪雨による被害

- ・堤防決壊や堤防越水による河川の氾濫、床上・床下浸水、鉄砲水、土石流、崖崩れ

○台風による被害

- ・暴風による家屋損壊 ・大雨による被害 ・沿岸部の高潮 など

私たちの住む地域で風水害が予想される場合の具体的な対処方法を考えよう。

◎熊本県の雨の特徴について考えてみよう。

○熊本県は6月中旬から7月中旬までの梅雨時に雨がまとまって降り、7月の初め頃、大雨になりやすい傾向がある。

○三方を山で囲まれているため雨が降りやすく、特に梅雨前線の南側で大雨になりやすい。

○寝ている時間帯に大雨が発生する傾向にある。など

◎避難情報が出された時の具体的な行動について考えよう。

○大雨の可能性が高くなる

- ・大雨や川の水位などの情報収集（テレビ、ラジオ、インターネット等）
- ・排水溝や窓、雨戸などの点検
- ・避難所や避難経路の再確認 など

○避難準備・高齢者等避難開始（水位レベル3）

- ・非常持ち出し袋の確認・準備
- ・避難所の開設状況の確認
- ・要配慮者への避難呼びかけ、避難の援助 など

○避難勧告（水位レベル4）

- ・隣近所への避難呼びかけ
- ・避難開始 など

○避難指示（緊急）（水位レベル5）

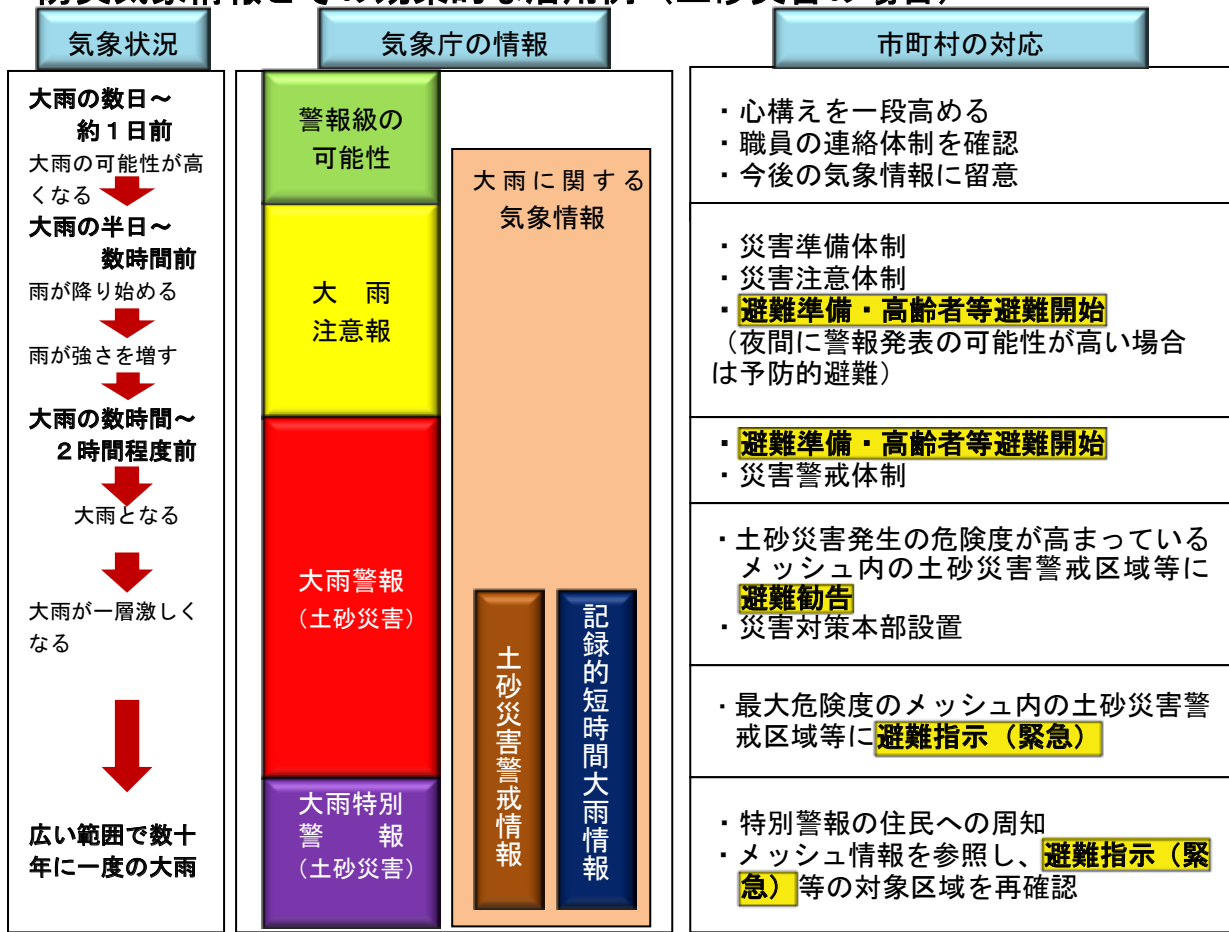
- ・避難していない場合は、直ちに避難行動をとる。
- ・外出などの避難行動をとることで命に危険が及ぶようであれば、自宅2階などより安全な場所に避難する。（垂直避難等） など

◎学習して学んだこと、分かったことをまとめよう。

○風水害は突然起きる災害ではなく、大雨や、台風などの要因がある。被害に遭わないためには、気象庁や市町村から出される情報に留意して、その避難情報に応じた行動（避難）がとれるように備えることが必要である。また、沿岸部では高潮による被害も発生するため、自分が住んでいる地域の浸水想定区域等を理解しておく必要がある。

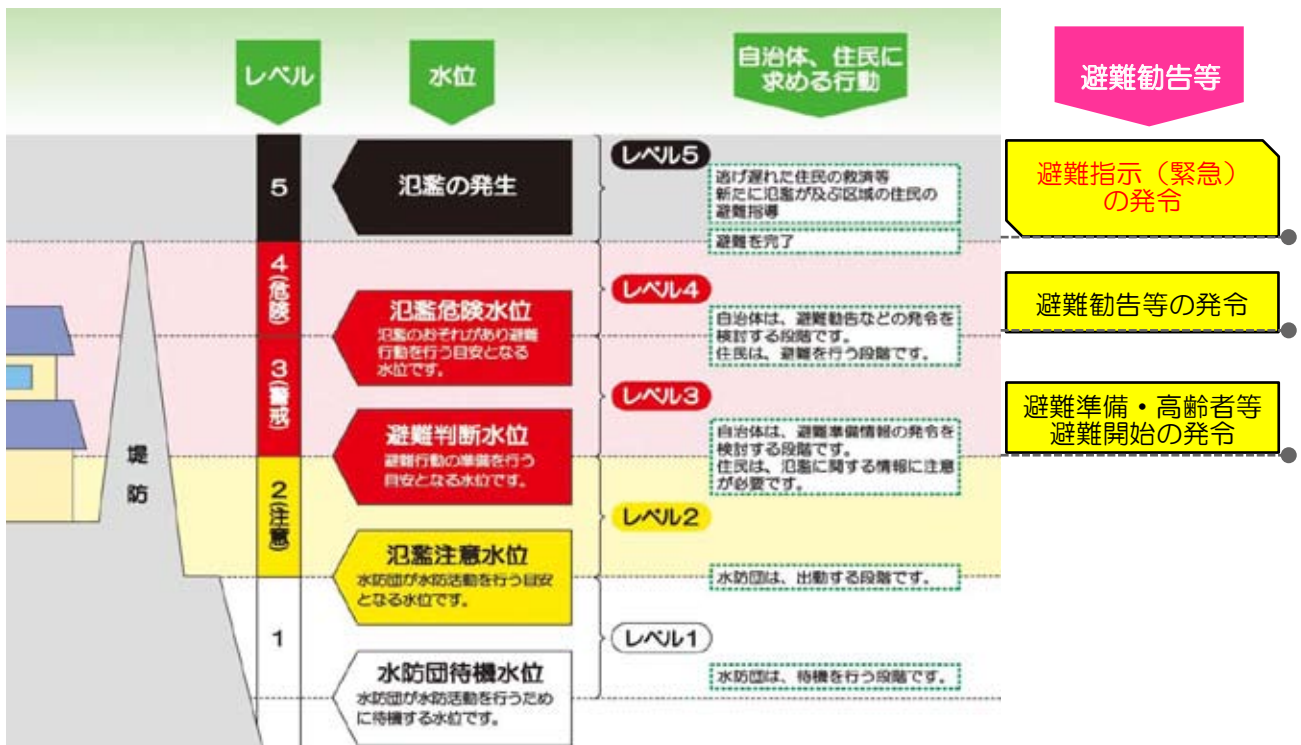
資料

1 防災気象情報とその効果的な活用例（土砂災害の場合）



2 水位危険度レベルと自治体、住民に求める行動等

【提供：気象庁】



【提供：熊本国道河川事務所】

# 【中学校・高等学校】 火山災害に備える

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

理科・地学「火山」

学級活動・ホームルーム活動  
「火山災害に備える」

学校行事「避難訓練」

## ◆ねらい 火山災害に備え、望ましい対応行動について考える。

## ◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価			
導入 10分	<p>1 心のケアを受ける。(本手引P2参照)</p> <p>2 火山があることよさや、火山の噴火による災害を考える。 ★ 阿蘇山(火山)があることで、私たちはどのような恩恵を受けることができますか。 ★ 火山が噴火すると、どのような災害が起こると思いますか。(DVD視聴)</p>	<p>○生徒の心身の状態に十分配慮する。 ○自分たちの命を守るための大切な授業であることをおさえる。 ◎火山によって私たちは多くの恩恵を受けていることに気付かせる。(写真等の提示) ・豊かな自然・地形、農業、観光、温泉、地熱、湧水 等 ・火山灰、噴石、火砕流、溶岩流、火山ガス 等</p>			
<p>火山災害に備え、どのような行動をとればよいか考えよう。</p>					
展開 35分	<p>3 阿蘇山の噴火と被害について知る。 ★ 阿蘇山の噴火によるこれまでの被害を見てみよう。</p> <p>4 望ましい対応行動について考える。 ★ 火山災害に備え、どのような行動をとればよいか、次の3点について考えよう。</p>	<p>○本手引P16～P21を活用する。 ◎県内でも火山の噴火による大きな被害が起きていることを知るとともに、<u>火山災害が身近な災害であることに気付かせる。</u> ○個人思考に入る前に、②③の場面でどのような危険が予想されるのかを確認し、考える視点を持たせる。</p>			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <p>① 普段から心がけておくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火山災害の知識とその対応</li> <li>○ハザードマップの確認</li> <li>○情報収集(噴火警報)の方法</li> <li>○避難場所の決定(家族等との話し合い)</li> </ul> </td> <td style="width: 33%;"> <p>② 登山中に噴火した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○荷物などで頭を守る</li> <li>○シェルターや岩陰に逃げ込む</li> <li>○ハンカチ・タオルなどで鼻や口をふさぐ</li> <li>○直ちに下山(率先避難)</li> </ul> </td> <td style="width: 33%;"> <p>③ 少し離れた場所にいる時に噴火した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○噴火警戒レベルに従い行動(情報収集)</li> <li>○マスクの着用 ○頑丈な建物内に避難</li> <li>○ガラスから離れる</li> <li>○立入規制内に入らない</li> </ul> </td> </tr> </table>			<p>① 普段から心がけておくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火山災害の知識とその対応</li> <li>○ハザードマップの確認</li> <li>○情報収集(噴火警報)の方法</li> <li>○避難場所の決定(家族等との話し合い)</li> </ul>	<p>② 登山中に噴火した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○荷物などで頭を守る</li> <li>○シェルターや岩陰に逃げ込む</li> <li>○ハンカチ・タオルなどで鼻や口をふさぐ</li> <li>○直ちに下山(率先避難)</li> </ul>	<p>③ 少し離れた場所にいる時に噴火した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○噴火警戒レベルに従い行動(情報収集)</li> <li>○マスクの着用 ○頑丈な建物内に避難</li> <li>○ガラスから離れる</li> <li>○立入規制内に入らない</li> </ul>
<p>① 普段から心がけておくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火山災害の知識とその対応</li> <li>○ハザードマップの確認</li> <li>○情報収集(噴火警報)の方法</li> <li>○避難場所の決定(家族等との話し合い)</li> </ul>	<p>② 登山中に噴火した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○荷物などで頭を守る</li> <li>○シェルターや岩陰に逃げ込む</li> <li>○ハンカチ・タオルなどで鼻や口をふさぐ</li> <li>○直ちに下山(率先避難)</li> </ul>	<p>③ 少し離れた場所にいる時に噴火した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○噴火警戒レベルに従い行動(情報収集)</li> <li>○マスクの着用 ○頑丈な建物内に避難</li> <li>○ガラスから離れる</li> <li>○立入規制内に入らない</li> </ul>			
まとめ 5分	<p>(1) 個人で考える。 (2) 小集団で深める。 (3) 全体で交流する。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>②の場面で予想される危険 噴石、火山灰、火山ガス、火砕サージ・火砕流、溶岩流 ③の場面で予想される危険 噴石、降灰、火山ガス、ガラス破損(衝撃波)、降灰後の土石流</p> <p>◆火山災害に備え、望ましい対応行動を考えている。【思考・判断・表現】〈ワークシート〉 ◎災害時に「自分は大丈夫だろう」という心理(正常性バイアス)が働いてしまうが、まずは避難することが大切であることをおさえる。 ◎自らが率先して避難行動をとることが周囲の避難行動にもつながることをおさえる。 ○生徒の心身の状態に十分配慮する。</p>			
6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)					

## 活用資料等

・青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」DVD教材(A-13)  
・「防災ハンドブック」(熊本県)

# ワークシート

( )年( )組( )号 名前( )

めあて

火山災害に備え、どのような行動をとればよいだろうか。

(1) 普段から心がけておくべきことはどんなことですか。

(2) 登山中に噴火した場合

①予想される危険

②考えられる行動

(3) 少し離れている場所にいる時に噴火した場合、どのような行動をとればよいか。

①予想される危険

②考えられる行動

◎今日の学習で学んだこと・わかったこと

# ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

めあて

火山災害に備え、どのような行動をとればよいか考えよう。

火山災害に備え、どのような行動をとればよいだろうか。

（１）普段から心がけておくべきことはどんなことですか。

- 火山が噴火すると、どのような災害が起こるのか知識を身に付け、いざという時に自分で考えて行動できるようにする。
- ハザードマップを活用して、危険な地域を把握し、いざという時に適切な避難ができるようにする。
- 避難の際は自らが率先して行動し（まずは避難）、周囲の避難行動につなげる。
- 火山活動が活発になると噴火警報が出されるので、テレビやラジオからの最新情報の入手方法を確認するとともに、活用できるようにする。デマやうわさに惑わされない。
- 噴火した場合の避難場所について家族などで話し合っておく。
- 火山から遠い地域に住む生徒も、旅行や引越し等により、火山災害とは無関係ではないことを理解する。

（２）登山中に噴火した場合

①予想される危険

- 噴石
- 火山灰
- 火山ガス
- 火砕サージ・火砕流
- 溶岩流

②考えられる行動

- 荷物などで頭を守る。
- シェルターや岩陰に逃げ込む。
- ハンカチ・タオルなどで鼻や口をふさぐ。
- 直ちに下山し、火口から遠ざかる。（率先避難）

（３）少し離れている場所にいる時に噴火した場合、どのような行動をとればよいか。

①予想される危険

- 噴石
- 降灰
- 火山ガス
- 衝撃波でガラスが割れる
- 降灰後の土石流

②考えられる行動

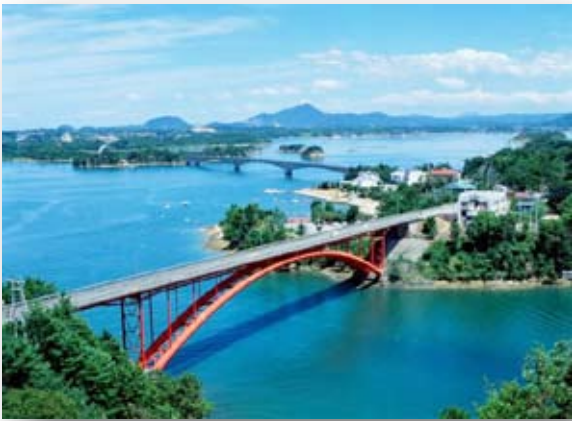
- できるだけ遠くへ移動する。（噴火警戒レベルに従う）
- マスクを着用する。
- 頑丈な建物内に避難する。
- ガラスから離れる。
- 立入規制内に入らないようにする。
- 火山（噴火）の最新情報を、テレビやラジオで確認する。

◎今日の学習で学んだこと・わかったこと

- ・火山が噴火した時の危険やとるべき行動について学ぶことができた。これから登山に行く時は、最新の情報を確認しておこうと思う。
- ・火山についてもっと詳しく理解しておく必要があると思った。
- ・火山噴火の最新情報の取得方法を知ることができて良かった。
- ・登山に行く時は、事前に避難場所を確認しておく必要があることが分かった。



助けあい、励ましあい、  
志高く【共助】



# 【小学校1年～3年】 避難所生活で大切なこと

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動「避難所生活で大切なこと」



道徳「思いやり」

◆ねらい 避難所生活を送る被災者の気持ちを理解し、相手の視点に立った行動を考えることができる。

## ◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照)  2 熊本地震における避難所の写真を見て、避難所生活について考える。 ★ 避難所で生活する人々の様子について、気付いたことを教えてください。	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価 ○児童の心身の状態に十分配慮する。  ○何枚かの避難所の写真や絵を見せ、避難所生活を送る人々の様子から気付いたことを発表させる。
ひなんじょせいかつで、たいせつなことを かんがえよう。		
展 開 25 分	3 身を寄せ合って生活する人々や列を作って並んで待つ人々の気持ちについて考える。 ★ 避難所の人たちは、どんな気持ちで生活しているか考えましょう。	○いろいろな人と一緒に生活する避難所では、自分の家で生活するのとは違うため、つらさや不安があることに気付かせる。 ◎ <u>避難所での人々の様子から、思いやりの心を持ち、お互いに助け合い、ルールを守っている姿に共感させる。</u>
ま と め 10 分	4 避難所生活で自分にできることについて話し合う。 ★ 避難所では、みんなが気持ちよく生活するためにどんなことができるかを考えましょう。	○実際に避難所生活を経験した児童がいる場合は、自分たちががんばったことを発表させる。 ◎ <u>あいさつ、声の大きさ、高齢者への親切など周囲への気配りや思いやりのある行動の大切さを、日常生活とも関連させながら理解させる。</u> ○避難所にはいろいろな人(妊婦、幼児、高齢者や外国人など)がいることをおさえ、自分にできることを考えさせる。 ◆避難所生活で、お互いを尊重し生活するために大切なことを考えている。 【思考・判断・表現】〈観察・ワークシート〉 ◎ <u>児童の実態や発達段階に応じて、ふだんの生活でもルールを守ることや自分にできることを進んで行うことの大切さをおさえる。</u>
	5 避難所生活で大切なことをまとめる。	
	6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○児童の心身の状態に十分配慮する。

## 活用資料等

- ・熊本地震に係る避難所の画像等
- ・保存版「防災ハンドブック」(熊本県危機管理防災課H28)

# ワークシート

( ) ねん ( ) くみ ( ) ごう なまえ ( )

めあて

1 ひなんじょで せいかつする ひとたちの きもちを かんがえましょう。



2 ひなんじょで じぶんに できそうなことを はなしあいましょう。

## ワークシート（記入例）

（ ）ねん（ ）くみ（ ）ごう なまえ（ ）

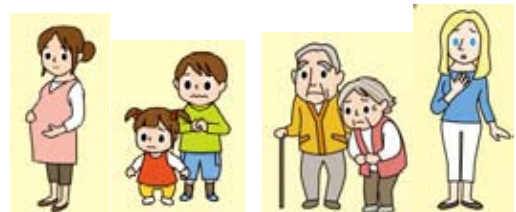
めあて

ひなんじょせいかつで、たいせつなことを かんがえよう。

1 ひなんじょで せいかつする ひとたちの きもちを かんがえましょう。

- 知らない ひとが たくさんいて、ゆっくり できないよ。
- にもつが いっぱい あって せまいよ。
- いつまで このひなんじょで せいかつするのかな。
- はやく いえに かえりたいよ。
- しょくじの おせわなどを してくれる ひとが いるから、うれしいね。
- きもちよく しょくじが できるように れつの じゅんばんを まもろう。
- みんなで たすけあって せいかつしよう。

など



2 ひなんじょで じぶんに できそうなことを はなしあいましょう。

- みんなが げんきになるように、あかるい あいさつをしたい。
- ちいさい この めんどうを みると、おとなの ひとも たすかるよ。
- おとしよりや こまっている ひとに やさしくしたい。
- がいこくじんが こまっていたら、おとなの ひとを よんであげよう。
- こえの おおきさに きを つけよう。
- はしりまわらずに、しずかに すごしたほうが いい。
- じぶんたちが つかったものは もとの ばしょに きちんと かたづけよう。
- そうじの てつだいが できるよ。
- てあらいや うがいなど けんこうにも きを つけたい。
- みんなのことを かんがえて、おもいやりの ところで たすけあいたい。

など

※実際に避難所生活を経験した児童がいる場合は、自分たちががんばったことをもとにして話し合いを進める。

資料

◎へいせい28ねん くまもとじしん ひなんじょの ようす



ひなんじょには、いろいろなひとがあつまっています。  
みんながきもちよくせいかつするために、どんなことができそうですか。

にんぷ



ちいさいこども



おとしより



がいこくじん



提供：防災ハンドブック（熊本県）

# 【小学校4年～6年】避難所生活で私たちができること

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動  
「避難所生活で私たちができること」



道徳  
「勤労、公共の精神」

◆ねらい 周りの人のために自分たちができることを考え、共助について理解することができる。

## ◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導のポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 学校の体育館に避難者が集まったイメージをもつ。 ★ 避難所で気を付けなければならないことは、どんなことでしょうか。 3 避難所での仕事や役割を考える。 ★ 避難所ではどんな仕事や役割がありますか。(資料①) 4 自分たちにできることについて考える。	○教師の支援 ◎指導のポイント ◆評価 ○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○本手引P3～P6を活用し、熊本地震の経験を振り返る。 ○学校生活にも様々な仕事や役割があることを思い出させる。 ○避難所経験のある児童には、頑張ったことを振り返らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             避難所で、自分たちにできることを考えよう。           </div>		
展 開 25 分	(1) 避難所で自分たちができること・できそうなことを考える。 (2) グループでどんなことができそうか、自分の考えやその仕事を考えた理由を話し合う。 (3) グループの代表者が、全体発表をする。 5 新聞記事を読む。(資料②)	○家庭や学校でやっていることを思い出しながら、できそうなことを考える。 ○友だちの意見を尊重し、たずねたいことがあれば質問する。
ま と め 10 分	6 実際に避難所を運営された方の話を聞く。(資料③) (1) インタビュー記事を通して、小学生に期待する行動や役割を紹介する。 (2) 学習のまとめや感想を記入する。 7 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○新聞記事(日本経済新聞H28.4.22)を読み、避難所での子どもの行動を知る。 ◎無理に仕事をしなくても、子どもにできることがあることを伝える。 ◆避難所での役割や心がけるべきことを理解することができる。また、お互いに助け合う心の和＝「共助」ということを理解している。 【知識・理解】〈ワークシート〉 ◎日頃からの心掛けが災害時の行動につながることをおさえる。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

## 活用資料等

- ・避難所生活がイメージできる資料(写真や新聞記事など)
- ・避難所を運営された方のインタビュー記事など

## ワークシート

( )年 ( )組 ( )号 名前 ( )

めあて

- 1 ひなんじょ避難所で気を付けなければいけないことは、どんなことがありますか。

- 2 ひなんじょ避難所では、どんな仕事や役割があるでしょう。

- 3 自分たちでできること・できそうなことは、どんなことがありますか。

できること、できそうなこと

- ・
- ・
- ・
- ・

- 4 友だちの考えや<sup>ひなんじょ</sup>避難所を運営された方の話を聞いて、また新聞記事を読んで思ったことを書きましょう。

キーワード：お互いに助け合う心の和 = 「                    」

## ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

### めあて

避難所で、自分たちにできることを考えよう。

- 1 <sup>ひなんじょ</sup>避難所で気を付けなければいけないことは、どんなことがありますか。

周りの人にめいわくをかけない。

（大きな声を出したり、走り回ったりしない。など）

避難所での約束やルール、きまりを守る。など

- 2 <sup>ひなんじょ</sup>避難所では、どんな仕事や役割があるでしょう。

食事のお世話    ごみの仕分け（分別）    避難所内のそうじ

支援物資の運搬・整理・配付（布）    市役所や自衛隊等との連絡

避難者の健康管理    ボランティアの方との打ち合わせ    など

- 3 自分たちでできること・できそうなことは、どんなことがありますか。

できること、できそうなこと

- ・ ※自分たちにもできそうなことを自由に考えさせたい。

避難所で過ごすから必ず何かをしなくてはいけない、ということではない。

- ・
- ・
- ・

- 4 友だちの考えや<sup>ひなんじょ</sup>避難所を運営された方の話を聞いて、また新聞記事を読んで思ったことを書きましょう。

- ・ 友だちの考えを聞いて、自分にもできそうなことがあることに気付いた。
- ・ 日ごろからあいさつをきちんとする、校内のルールを守るなど心がけたい。
- ・ 地域の行事にあまり参加していないので、地域の方をあまり知らない。  
これから、できるだけ地域の行事に参加したい。など

キーワード：お互いに助け合う心の和 = 「共助(きょうじょ)」



資料

① 「避難所での様々な仕事の一部」



トイレそうじ



体育館のござのごみを落とす



支援物資を運ぶ



ごみの片付け



避難者への健康診断  
や聞き取り



食事のお世話

② 「熊本地震後の新聞記事より」

熊本市東区にある小学校に避難した  
ひなん  
七十代の女性は避難所のトイレの前で、  
ひなんじよ  
男の子に会った。  
小学三年生ぐらいだろうか。両手で  
ヤカンを持っている。何をしているのか  
たず 尋ねると「避難している人に手を洗っ  
あ  
てもらおうと思って」との答え。  
「こんな小さな子が皆の役に立と  
みな やく  
うと、精一杯がんばっている・・・。」  
せいっぱい  
水をかけてもらいながら、涙がこぼれ  
たという。  
平成二十八年四月二十二日（金）  
日本経済新聞（春秋）より一部抜粋  
ばっすい

③ 「熊本地震で避難所を運営された人の話」

「避難所を運営された人の話」

学校の体育館などに避難したときは、小学生の皆さんは次のようなことに気を付けて過ごしてほしいです。

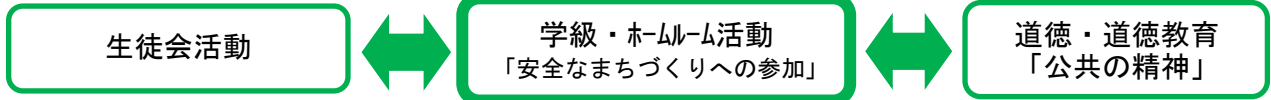
- 体育館に避難するのが初めての方に、トイレや水道の場所を案内するなど、自分にできることを見付けてほしい。
- 「人にめいわくをかけない」「あいさつをする」など、日ごろからやっていることをきちんとしてほしい。
- 子どもたちの笑顔や元気が避難している人たちを元気にすることを覚えてほしい。

地域の人へあいさつをしたり、地域の行事に参加したりして、大人の人たちとも日ごろから顔見知りになっておくことも大切です。



# 【中学校・高等学校】安全なまちづくりへの参加

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点



◆ねらい 地域防災の現状について理解し、安全なまちづくりへ向けた取組について考えることができる。

◆展 開（1～2時間）

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入	1 心のケアを受ける。（本手引P2参照） 2 安全なまちについて考える。 ★ 災害に強い、安全なまちとはどのようなまちだと思いますか。	○生徒の心身の状態に十分配慮する。 ○地域の現状を把握するために、事前にフィールドワーク等を実施しておくことも考えられる。 ○自分たちの住む地域や学校周辺等の状況から、安全なまちとはどのようなまちかを考えさせる。
	自分たちが住む地域を知り、安全なまちづくりのため、自分たちができることを考えよう。	
展 開	3 地域の防災について考える。 ★ ハザードマップと防災チェックリスト（資料）等を活用し、地域の防災について考えましょう。	○地域の自然環境、ハード面の整備状況、ソフト面の定着状況それぞれについて現状が把握できやすいように、ハザードマップや防災チェックリストなどの資料を活用する。 ◎自然環境やハード面の状況についてハザードマップの見方に関する視点を示す。 ◎ソフト面においては、熊本地震の経験からも、 <u>普段から地域の人とのかかわりについての視点を</u> 持たせる。
	4 安全なまちづくりのために自分たちができることについて考える。 ★ 自分たちの住む地域の状況を踏まえ、安全なまちづくりのために自分たちができることについて考えましょう。 (1) 個人で考える (2) グループで深める (3) 全体で交流する	○自分たちが地域の安全のためにできることについて考えられるよう、他県の中高生の取組等を紹介する。 ○ハード面等の課題については、関係機関等に提案することもできることを伝える。 ◆地域の状況から、安全なまちづくりのために自分たちができることについて考えている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉
ま と め	5 本時のまとめをする。	◎今日考えたことを意識して生活することが、 <u>防災意識を高めるとともに、共助や公助の意識にもつながることを理解させる。</u>
	6 心のケアを受ける。（本手引P2参照）	○生徒の心身の状態に十分配慮する。

### 活用資料等

- ・各市町村のハザードマップ（各市町村HP）
- ・学校防災教育指導の手引P7～P21

# ワークシート

( )年( )組( )号 氏名( )

めあて

- 1 災害に強い、安全なまちとはどのようなまちでしょう。

(自然環境、ハード面、ソフト面の観点から)

- 2 自分たちが住んでいる地域の防災について考えよう。

(自然環境、ハード面、ソフト面の観点から)

- 3 安全なまちづくりのために、自分たちができることについて考えよう。

## ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 氏名（ ）

### めあて

自分たちが住む地域を知り、安全なまちづくりのため、自分たちができることを考えよう。

#### 1 災害に強い、安全なまちとはどのようなまちでしょう。

（自然環境、ハード面、ソフト面の観点から）

- 防災に関する施設が充実している。
- 過去の災害について多くの人が理解している。
- 防災訓練に多くの人が参加している。
- 地域住民の交流が深く、様々な行事に積極的に参加している。

#### 2 自分たちが住んでいる地域の防災について考えよう。

（自然環境、ハード面、ソフト面の観点から）

- 私が住んでいる町では、過去に大きな津波の被害が起こっており、その他にも土砂災害や高潮災害が発生しやすい環境にある。
- 主要道路が、土砂災害などで通れなくなると支援物資が届きにくくなる。
- 防災倉庫や備蓄倉庫などの整備があまり進んでいない。
- 防災訓練は定期的実施されているが、参加する人が固定化している現状がある。
- 自主防災組織率が高く、防災について積極的な取組がなされている。

#### 3 安全なまちづくりのために、自分たちができることについて考えよう。

- 大きな災害が発生した場合、主要道路が寸断されるかもしれないため、食料などを備蓄しておく必要があると思った。このことを地域に呼びかけ、備蓄を推進する活動を考えていきたい。
- 地域の防災意識を高めるためにも、積極的に地域の防災訓練に参加するようになりたい。
- 地域の現状について、もっと詳しく調べ、防災倉庫や備蓄倉庫の設置について関係機関に提案していきたい。
- 今までは、地域の行事に参加することはほとんどなかった。地域の方々と日頃から交流を深めておくことが、災害時に大きな力となることが分かったので、地域の方々との触れ合いを大切にしたい。

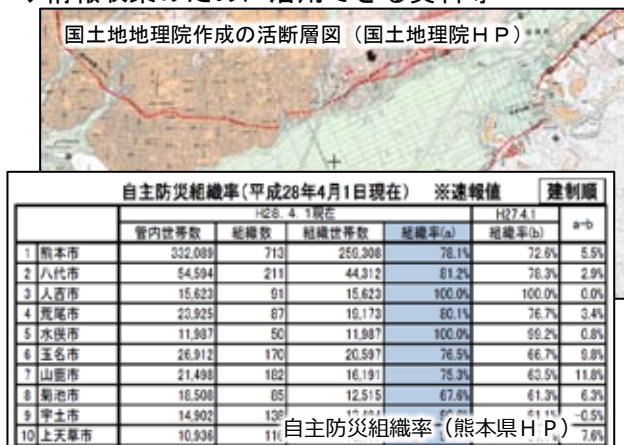
資料

◆住む地域や学校周辺、通学路の防災チェックリスト例

★災害の地域特性や生徒の実態に応じた項目をいくつか設定しましょう。

	項目	確認事項	活用資料等
自然環境	1 過去の自然災害	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )	本手引
	2 地震の震度想定	震度想定 ( )	
	3 津波災害の想定	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (津波波高 m)	
	4 火山災害の想定	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (被害 )	
	5 液状化の想定	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (場所 周辺)	
	6 土砂災害の想定	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (場所 )	
	7 洪水災害の想定	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (河川名 )	
	8 高潮災害の想定	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (地域 )	
	9 その他の自然災害	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (災害名 )	
	10 自然の恵み	(具体的に )	
ハード面	1 避難所	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (箇所 )	地域の防災マップ等
	2 消防署	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (箇所 )	
	3 警察署	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (箇所 )	
	4 医療機関	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (箇所 )	
	5 防災備蓄倉庫	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (箇所 )	
	6 防災設備 (無線、非常用発電)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (箇所 )	
	7 避難経路 (道路や橋)	リスク <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )	
	8 主要道路	リスク <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (場所 )	
	9 地震による建物被害危険度	リスク <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (場所 )	
	10 その他		
ソフト面	1 地域のハザードマップ	<input type="checkbox"/> 災害種 ( )	関係機関等HP
	2 自主防災組織	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (組織率 )	
	3 防災訓練の実施	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( 回/年)	
	4 地域行事の実施	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( 回/年)	
	5 地域住民同士の交流	<input type="checkbox"/> 活発でない <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 活発	
	6 防災啓発活動	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (具体的に )	
	7 ボランティア活動	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (具体的に )	
	8 住民による清掃活動	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( 回/年)	
	9 地域住民と関わる機会	<input type="checkbox"/> 少ない <input type="checkbox"/> 多い	
	10 その他		

◆情報収集のために活用できる資料等



# 【中学校・高等学校】 避難所ケース学習

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」

学級・ホームルーム活動  
「避難所ケース学習」

道徳・道徳教育  
「思いやり」

◆ねらい 人には様々な意見や価値観があることに気付き、多様な人々の視点に立って考え、判断する力を身に付ける。

◆展 開（1時間）

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導入 5分	<p>1 心のケアを受ける。（本手引P 2 参照）</p> <p>2 避難所について理解する。</p> <p>★ 熊本地震の際、避難所ではどのような課題があったと思いますか。</p> <p>★ 避難者が安心して過ごせる避難所にするにはどのような配慮が必要かを考えていきましょう。</p>	<p>○生徒の心身の状態に十分配慮する。</p> <p>○避難所は、ストレスを抱える様々な人々が、限られた生活物資の中で共同生活を送る場であるために、様々な課題が生じやすいことを理解させる。</p> <p>○避難所の写真を見せ、多様な人々の存在に気付せるとともに、熊本地震ではどんな問題が起こったか想像させる。</p> <p>◎誰でも支援が必要となる時がある（来る）ことを理解させ、様々な人々に配慮した対応が、自分を含め、誰にとってもより過ごしやすい避難所生活につながることに気付かせる。</p>
<p>避難所で起こった事例をもとに、様々な人々に配慮した対応を考えよう。</p>		
展開 40分	<p>3 場面ごとに対応を考え、発表する。</p> <p>（1）個人で、登場人物の気持ちを考え、その後グループ内で話し合う。</p> <p>（2）指定された人物の視点に立って、対応についてを話し合う。</p> <p>（3）グループの代表者が、全体に向けて話し合った対応を発表する。</p>	<p>○生徒の実態に合わせて、取り扱う場面及びワークシートの内容、時間配分などを調整する。</p> <p>◎様々な人々に配慮した対応策になっているか、必要に応じて声かけを行う。</p> <p>◎意見が異なった時は、なぜお互いが違う意見を持つに至ったかを共に探る「協力者」として促えるよう助言する。</p>
まとめ 5分	<p>4 学習の振り返りを行う。</p> <p>5 心のケアを受ける。（本手引P 2 参照）</p>	<p>◆様々な人々に配慮した、対応を考えている。 【思考・判断・表現】〈観察・ワークシート〉</p> <p>○他のグループの発表やグループ内での話し合いを振り返り、感じたりしたことを発表させる。</p> <p>◎発表の良かった点を挙げ、様々な人々への配慮が、避難所生活だけでなく、誰にとっても過ごしやすい社会生活につながることを理解させる。</p> <p>○生徒の心身の状態に十分配慮する。</p>

活用資料等

・熊本地震に係る避難所の画像

# ワークシート

( )年 ( )組 ( )号 氏名( )

めあて

## 【 場面 ( ) 】

### 1 登場人物の気持ちを考えよう

① 「	」
② 「	」
③ 「その他のあなたが気になる人」 = 「	」

### 2 その時、あなたならどうする？

もしあなたが「

」だったら・・・

--

### 3 振り返りをしよう

--

資料

場面 1			
状況	ある避難所では、地震後しばらくして、支援団体から女性専用トイレを寄付したいという申し出がありました。設置したところ、数日後に女性だけ特別扱いをするのはおかしいというクレームが寄せられました。		
人物	登場人物①	登場人物②	もしあなたが「〇〇」だったら
	女性の避難者	男性の避難者	避難所の責任者
場面 2			
状況	地震後、ある避難所では備蓄していた食料が底をつき、テント前には配給を何時間も待つ避難者が長蛇の列を作っています。翌日、ようやくパンが届きましたが、数が足りず、避難者全員に配ることができません。その避難所のマニュアルには、物資が足りない場合は、要配慮者（子どもや妊婦、高齢者、障がいのある人、外国人観光客等）から配付することとなっています。		
人物	登場人物①	登場人物②	もしあなたが「〇〇」だったら
	何時間も列に並んでいる人	事情で列に並べない人	避難所の責任者
場面 3			
状況	深夜に起こった地震の直後、ある避難所には沢山の人が詰めかけ、建物内に入れず駐車場で多くの人が野宿しています。しばらくして避難所内には、「近くの動物園からライオンが逃げたらしい。」という噂が広まり、駐車場にいた大勢の人々が建物の中に入ろうとして、入り口は大変危険な状態になっています。		
人物	登場人物①	登場人物②	もしあなたが「〇〇」だったら
	建物内に避難している人	駐車場に避難している人	避難所の責任者
場面 4			
状況	ある避難所では、食料提供の情報が放送でしか知らされず、聴覚障がいのある避難者の中には、今まで一度も食料を受け取ることができていない人がいます。たまらず避難所の運営責任者に、張り紙による情報提供を依頼しましたが、「今は2、3人のための対応できない。」と断られてしまいました。避難所には大変多くの避難者が詰めかけ、職員にも全く余裕がない様子です。		
人物	登場人物①	登場人物②	もしあなたが「〇〇」だったら
	不眠不休の運営責任者	健常者である避難者	聴覚障がい者
場面 5			
状況	ある晩、避難所の体育館に、ペット連れの高齢者が避難してきました。係の人が事情を尋ねたところ、その高齢者がこれまで家族同然のペットと車中泊を余儀なくされてきたこと、昨日から足が腫れて痛むなど、エコノミー症候群のような症状が出ていること、自宅も全壊して他に身を寄せる場所もないことが分かりました。		
人物	登場人物①	登場人物②	もしあなたが「〇〇」だったら
	ペット連れの高齢者	動物アレルギーのある避難者	避難所の責任者
場面 6			
状況	地震後、Aさんが入居した仮設住宅では、県外からボランティアが訪れ、炊き出しや子どもの心のケアなど様々な活動が行われています。Aさんも先週カウンセリングを受けており、今日も同ような支援の申し出がありました。		
人物	登場人物①	登場人物②	もしあなたが「〇〇」だったら
	県外からのボランティア	Aさん	仮設住宅ボランティア対応の担当者



## 指導上の留意事項

### 場面 1

話し合いを通して、「平等」、「不平等」という言葉を誤解なく使うためには、「何を等しくするのか」について共通に理解しておく必要があることに気付かせたい。この状況では、「男性と女性のトイレの数」を等しくするのか、「(混雑時に)男性と女性がトイレを使用できる機会・回数」を等しくするのかを共通理解するよう声掛けする。あるいは、平等な支援が必ずしも平等な機会をもたらさないことを理解した上で、話し合いが進むようにする。発達段階に応じて、平等(equality)と公平(equity)の違いについて考えさせてもよい。

### 場面 2

ある避難所では、避難者数よりも少ない物資しかない場合、マニュアルでは子どもや高齢者にといいうことになっているが、実際は数人で1つを分けるといった対応をした。一方、同様のケースで、並んだ順に配付した避難所もあったが、この場合は後から配れなくなった。生徒たちには、どのような対応をしたらよいかを話し合わせたい。

### 場面 3

時間が限られた中で難しい判断をしなければならない場面を想像させ、避難所運営の難しさを実感させたい。なお熊本地震では、前震発生直後に「動植物園からライオンが逃げた。」という誤報がインターネットに流れた。インターネット上に限らず、私たちが見聞きする情報の中には不正確なものが含まれている。話し合いを通して、日頃からより信頼できる情報源を確保したり、正しい情報を見極めたりすることの大切さについても気付かせたい。

### 場面 4

話し合いを通して、生徒たちには要配慮者(①心身障がい者(肢体不自由者、知的障がい者、内部障がい者、視覚・聴覚障がい者) ②認知症や体力的に衰えのある高齢者 ③日常的には健常者であっても理解力や判断力の乏しい乳幼児 ④日本語の理解が十分でない外国人 ⑤一時的な行動支障を負っている妊産婦や傷病者など)の存在に気付かせる。そして、そうした人々に配慮することが、今もしくは将来の自分も含めて、誰にとっても過ごしやすい生活につながっていくことを理解させたい。また、避難所では、避難者による自治的な避難所運営や協力が求められることがあり、その中には自分たちにもできることがあることにも気付かせたい。

### 場面 5

熊本地震では、避難所におけるペット同行避難者の受入れ態勢が不十分で、ペット同行避難者が車中泊などを余儀なくされるケースが発生した。また、車中泊していた避難者がエコノミークラス症候群のために亡くなった事例もあった。このような問題が絡んだ難しい状況であるが、生徒たちからは、様々な立場の人が歩み寄って納得できるような改善策を引き出したい。

### 場面 6

ある仮設住宅では、入居者がボランティアに気を遣いすぎて、疲れてしまうという事例があった。相手を大切にせず自分で自分の気持ちを抑えてしまうのではなく、断る選択肢があることや相手も自分も大切に自己表現の大切さを理解させたい。また、ボランティアを地域で受け入れる環境・知恵などを意味する「受援力」という言葉を紹介し、ボランティアの力をうまく引き出すためには、被災地側からの働き掛けも大切であることにも気付かせたい。

# 【中学校・高等学校】 避難所運営ラーニング

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

総合的な学習の時間  
「自己の在り方生き方を考える」



学級・ホームルーム活動  
「避難所運営ラーニング」



道徳・道徳教育  
「思いやり」

◆ねらい 避難者の視点に立った学習を通して、日頃から地域に関心を持っておくことの重要性に気付くとともに地域社会に貢献していこうとする態度を身に付けることができる。

## ◆展 開（2時間）

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入	1 心のケアを受ける。（本手引P2参照） 2 平成28年熊本地震を振り返る。	○生徒の心身の状態に十分配慮する。 ○平成28年熊本地震について「知っていること」を記入させるとともに本手引P3からを活用し、避難所運営の重要性について確認する。
	どのような配慮をすれば、避難者が安心して過ごせるか考えよう。	
展 開	3 避難所運営ラーニングに取り組む。  (1) 避難所に最低限必要な機能（場所）の配置を考える。  (2) 提示された「避難者カード（避難者の情報が書かれたもの）」、「ライフカード（食料・物資が書かれたもの）」の内容を確認しながら、適切な支援になるよう、カードを配置・配付していく。 （カード全てを使う必要はありません）	○避難所運営ラーニングの概要を説明し、2つの約束を確認する。 ・友だちの意見を否定しないこと。 ・考えの違いを認めること。 （避難所運営ラーニングの進め方参照） ○受付、通路（避難者の動線確保）、必要なスペースを体育館のどこに設置するか考えさせる。 ○各班のアイデアを共有させることで、思考が広げられるよう支援する。 ○カードの配置について、スムーズな話し合いができていないグループには、避難者スペースを地区や要配慮者で分ける等の視点を与える。 ○食料・物資の配付の仕方について考えさせる。 ◎対応に正解はなく、避難所の状況を想像し、話し合いながら、よりよいアイデアを生み出していくことが大切であることを伝える。
ま と め	4 避難所運営ラーニングを振り返る。  5 心のケアを受ける。（本手引P2参照）	◆日頃から地域に関心を持ち、つながりをつくっておくことの重要性について考えている。 【思考・判断・表現】＜観察 ワークシート＞ ○生徒の心身の状態に十分配慮する。

## 活用資料等

- ・避難者カード及びライフカード  
（班の数コピーし、1枚ずつに切り分ける。その後、番号順に重ねておく。）
- ・広用紙
- ・通路作成のためのマスキングテープ（鉛筆で書きこませてもよい）
- ・縦横5cm程度の付箋（色付きがよい）

※うつくしまふくしま未来支援センターこども支援部門の教育手法を参考に作成

# ワークシート

( ) 年 ( ) 組 ( ) 号 氏名 ( )

めあて

平成 28 年熊本地震を振り返ろう。



- ◎ 避難所運営ラーニングを通して、あなたが気付いたことや、日頃から心がけたいことを書きましょう。

## 【避難所運営ラーニング】の進め方

### 1 【はじめに】



避難所運営ラーニングとは、避難所で避難者が安心して過ごすためには、どのような配慮が必要かを話し合いながら、様々なことを学んでいく学習です。

話し合いに関しては、次の2つを心掛けましょう。①友だちの意見を否定しないこと  
②考えの違いを認めること 【板書する】



それでは始めます。大災害が発生しました。たくさんの人々が学校の体育館に避難し始めています。部活動で登校していた皆さんは、避難してきた人を体育館に案内する必要があります。

避難してきた人をよりよい場所に案内するために、どうしたらよいか班で話し合いながら進めていきます。

### 2 【体育館の配置図を作る】（広用紙、マスキングテープ、付箋紙を使用）



配っている広用紙を開いてください。これが体育館です。皆さんがまずやることは、「出入口」と「受付」を作ることです。

まず、「出入口」を作ってください。次に、付箋紙に「受付」と書いて、受付をするのに適した場所を話し合っ決めて、広用紙に貼ってください。それでは始めてください。



#### 【班での話し合いへの指導】

机間支援をしながら、各班に受付を配置した理由を聞きながら、根拠をもつことの大切さや違った考え方があることに気付かせます。

例：この班は「受付」を体育館の真ん中に作りました。どうしてですか。この班は「受付」を2つ作りました。どうしてですか。等



「受付」だけでもいろいろなアイデアがありますね。次に、マスキングテープで「通路」を作ります。（テープが無ければ鉛筆でも可）また、受付以外に「必要なスペース」があると判断したら、付箋紙に書いて体育館に設置してください。（例えばトイレ等）



より良い方法を見つけていくためには、グループで意見を出し合いながら、伝え合うことが大切であることに気付かせます。このことを、避難者カードを配置する学習にもつなげていきます。

### 3 【避難所運営ラーニング】（避難者カード、ライフカードを使用 ※切ったものを配付）



いよいよ避難者を受け入れます。【避難者カード】と【ライフカード】の2種類のカードを使います。

【避難者カード】には、名前、住所、年齢等、その人の情報が書かれています。

また、【ライフカード】には、おにぎり、粉ミルク等の支援物資が書かれています。

先生が順番にカードの情報を読み上げていきますので、班で話し合いながらより良い場所に避難者を案内してください。



避難者カードに示されている情報について、話し合いの視点を与えながら進めていきます。避難者カードは番号順に提示していきます。

(例) まず、カード①～③のネギさん3人家族をどこに案内するか話し合ってください。

ネギさんの娘さんには、食物アレルギーがありますね。

さあ、体育館のどこに案内しますか。これからいろいろな人が避難所にやってくることを想像しながら話し合ってください。

……次は④レンコンさんです。レンコンさんは、防災型コミュニティ・スクール住民代表です。何かお願いできそうですね。どこに案内しますか。

等

生徒が、避難者の状況をイメージできない場合には、避難者が抱える「困り感」を伝えます。



ライフカードには支援物資の情報を掲載しています。カタカナの記号で示しています。

(例1) 【ライフカード㊦】はおにぎり10個です。

誰に渡しますか。渡す相手と話し合っ、避難者カードの下に㊦と鉛筆で書いてください。

(例2) 【ライフカード㊩】には、ミルク5缶と書かれてあります。避難者のだれに渡すか、話し合ってください。(いくつかの考えを引き出します。)



※本学習は、「生徒が考えを出し合い、よりよい方法を見付けていくこと」が大きな目的となりますので、話し合う時間を十分確保することが大切です。そのため全てのカードを使い切る必要はありません。

#### 4 【まとめ】



















今日は、色々なことについて話し合いましたが、「こうしなければならない」といった正解はありません。皆さんがそれぞれの立場で考え、学んだことを今後の生活に生かしていただくことが大切です。



避難所は、地域そのものでもあります。日頃から地域の人々と関わりを持ち、地域の人を理解しておくことが災害発生時にも大きな力となります。

#### ワークシート記入例【生徒の感想】

- ・避難所の支援をする際、事前にルールの徹底をしておく必要があると感じた。
- ・いろいろな町から避難者は来るかもしれないので、まずは、近所の人と一緒にいられるように避難者を案内すればよかった。
- ・もし、本当に避難所の支援を行う場合は、避難者の状況をしっかりと把握し、避難者が安心してもらえる場所に案内できるようにしたい。
- ・日頃から、誰に対しても公平に対応できるようにしておきたい。
- ・地域の一員として、日頃から近所付き合いを大切にしたい。
- ・日頃から地域の人々との関わりを持ち、理解しておくことが、災害時に大きな力になると思った。これから地域との関わりを積極的につくっていこうと思う。

< 避難者・ライフカード >

<p>ネギさん 住所：北町 世帯主・男／27歳</p> <p>①</p> 	<p>ネギさん 住所：北町 妻／25歳</p> <p>②</p> 	<p>ネギさん 住所：北町 長女／5歳 食物アレルギー</p> <p>③</p> 	<p>レンコンさん 住所：南町 男／54歳 防災型コミュニティ・ スクール住民代表</p> <p>④</p> 
<p>リンドウさん 住所：東町 世帯主・女／67歳 民生委員</p> <p>⑤</p> 	<p>カスミさん 住所：帰宅困難者 女／38歳 出張のため土地勘が ない</p> <p>⑥</p> 	<p>ピーマンさん 住所：西町 世帯主・女／73歳 車いす生活</p> <p>⑦</p> 	<p>イグサさん 住所：南町 世帯主・男／56歳 動物に対してアレル ギーがある</p> <p>⑧</p> 
<p>カキさん 住所：北町 世帯主・男／76歳 腰が痛い</p> <p>⑨</p> 	<p>デンガクさん 住所：東町 世帯主・女／27歳 長女／生後8か月 安心して授乳できるス ペースがほしい</p> <p>⑩</p> 	<p>バンペイユさん 住所：南町 男／10歳 地震当時両親は仕事で 不在、1人で避難して きた</p> <p>⑪</p> 	<p>ユズさん 住所：西町 女／47歳 介護施設のスタッフ</p> <p>⑫</p> 
<p>クルマエビさん 住所：北町 世帯主・男／57歳 猫を連れてきている</p> <p>⑬</p> 	<p>キュウリさん 住所：東町 男／46歳 インフルエンザの疑い あり</p> <p>⑭</p> 	<p>マダイさん 住所：北町 世帯主・女／67歳 着替えをする場所がほ しい</p> <p>⑮</p> 	<p>ダイコンさん 住所：南町 女／31歳 妊婦</p> <p>⑯</p> 

<p>おにぎり 10食分</p> 	<p>ア Ms. ライムさん ①7 海外旅行者 外国人・女／32歳 日本語が話せない</p> 	<p>①8 クリさん 住所：西町 女／37歳 薬剤師</p> 	<p>①9 トウフさん 住所：北町 世帯主・男／57歳 目が不自由で盲導犬 と一緒に避難</p> 
<p>②0 デコポンさん 住所：北町 男／26歳 仕事現場から直接避難 家族の安否を気にしている</p> 	<p>②1 アゲさん 住所：東町 世帯主・男／33歳 救急救命士の資格あり</p> 	<p>②2 ワタリガニさん 住所：西町 世帯主・男／42歳 脚を骨折している</p> 	<p>②3 トマトさん 住所：西町 世帯主・女／55歳 コミュニケーションをとる のが苦手</p> 
<p>②4 オチャさん 住所：南町 世帯主・男／87歳 頻尿</p> 	<p>②5 コチョウランさん 住所：西町 女／49歳 介護施設のスタッフ</p> 	<p>②6 タカナさん 住所：東町 世帯主・男／63歳 持病の薬が家の倒壊 でなくなった</p> 	<p>②7 アジさん 住所：南町 男／51歳 猫を連れてきている</p> 
<p>②8 イ 粉ミルク5缶</p> 	<p>②8 ヒゴギクさん 住所：南町 世帯主・女／43歳 (長男は自閉症のある子ども、 車で避難してきた)</p> 	<p>②9 ヒゴギクさん 住所：南町 長男／15歳</p> 	<p>③0 アオノリさん 住所：南町 世帯主・女／45歳 通訳</p> 

オクラさん  
住所：東町  
男／14歳  
家が全壊し1人で避難してきた（両親は県外出張中のため不在）



③1

介護用紙おむつ6袋



ウ

トウモロコシさん  
住所：西町  
男／83歳  
介護施設からの避難者  
足が不自由



③2

サラタマさん  
住所：北町  
女／48歳  
防災士



③3

バサシさん  
住所：東町  
世帯主・男／54歳



③4

バサシさん  
住所：東町  
妻／55歳



③5

バサシさん  
住所：東町  
長男／16歳  
流動食が必要な特別支援学校に通う生徒



③6

ニンジンさん  
住所：南町  
女／20歳  
医療系の専門学校生



③7

アイリスさん  
住所：西町  
女／42歳  
地震により精神的に落ち着かない



③8

歯ブラシとマスク10セット



エ

高校のバレーボールチーム  
高校生・男メンバー1



③9

高校のバレーボールチーム  
高校生・男メンバー2



④0

高校のバレーボールチーム  
高校生・男メンバー3



④1

高校のバレーボールチーム  
高校生・男メンバー4



④2

キャベツさん  
住所：西町  
男／13歳  
避難する際に足裏にけが

















④3

コンブさん  
住所：東町  
世帯主・男／27歳  
犬を連れてきている



④4



<p>コンブさん 住所：東町 妻／34歳</p> 	<p>コンブさん 住所：東町 長男／8歳 腹が痛い</p> 	<p>コンブさん 住所：東町 次男／4歳 余震におびえている</p> 	<p>イルカさん 住所：西町 世帯主・女／48歳 特別支援学校教師</p> 
<p>イチゴさん 住所：東町 世帯主・女／67歳 薬は持参しているが飲み 合わせが分からない</p> 	<p>トビウオさん 住所：東町 女／19歳学生 足が不自由</p> 	<p>ブルーベリーさん 住所：北町 女／8歳 親とはぐれ泣き止まない</p> 	<p>ジャガイモさん 住所：北町 世帯主・男／87歳 要介護者</p> 
<p>ジャガイモさん 住所：北町 妻／80歳</p> 	<p>チクワさん 住所：東町 女／31歳 インシュリンの自己注射が 毎日必要（持参している）</p> 	<p>スイカさん 住所：北町 世帯主・女／79歳 静かなところにいたい</p> 	<p>タイピーエンさん 住所：北町 世帯主・女／30歳 外国人</p> 
<p>タイピーエンさん 住所：北町 長男／6歳 ケガをしている</p> 	<p>ソーメンさん 住所：南町 男／72歳 歯が弱く固いものが食べ られない</p> 		

※空欄のカードはライフカードの予備です。必要と思われる物資名を記入して活用してください。

# 實踐的避難訓練計畫例



# 緊急地震速報を活用した避難訓練計画例

## 1 目的

- (1) 地震発生時に、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に素早く身を寄せて、安全を確保することができるようにする。
- (2) 教職員の指示を待たずに、自ら判断し行動できるようにする。

## 2 想定

休み時間に緊急地震速報発報。震度5弱の地震が発生、〇〇秒後に大きな揺れが到達する。

## 3 展開

### 【事前指導】

「地震から身を守る行動」について指導を行う。緊急地震速報の仕組みについて理解させる。児童生徒等の実態によっては混乱が想定されるため、事前に十分な対策をとっておく。

全体指揮者の動き	担任の動き	他の教職員の動き	児童生徒等の動き
<b>緊急地震速報発報 震度5弱の地震想定 〇〇秒後に大きな揺れが到達</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集のもと第一次避難場所に避難を指示する。</li> <li>※情報収集の手段は、複数確保しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気をつけながら教室に向かい、避難体制をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気をつけながら避難経路及び避難場所の安全を確認する。</li> <li>【安全点検班】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を寄せて、姿勢を低くして頭を守る。避難行動の指示が出るまで、身の安全を確保する。</li> </ul>

地震がおさまりましたが、余震の心配があります。落ち着いて〇〇〇へ避難してください。



※避難誘導は、停電等により放送設備が使用できないことを想定し、ハンドマイク等で行うこともよい。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の動きが掌握できる位置に立ち、避難の様子を掌握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員を確認し、避難場所に誘導する。</li> <li>・教室の近くにいる児童生徒等も併せて誘導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ等に取り残された児童生徒等がいないか確認をする。</li> <li>・児童生徒等の避難誘導を行う。【安否確認・避難誘導班】</li> <li>・救急用品を持ち、避難場所へ向かう。【救護班】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室近くにいる児童生徒等は、教室にいる児童生徒等の避難に合流する。</li> <li>・学級以外の場所にいる児童生徒等は、近くの出口から避難場所へ向かう。</li> </ul>
---	---	--	--



※負傷者が発生した場合や避難経路が倒壊により利用できない場合、行方不明者が発生した場合などの想定を変えて行うことでより実践的な避難訓練となる（避難訓練実施上の工夫参照）。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の人数及び負傷等の有無を掌握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次避難場所で人員の確認を行い、全体指揮者等へ報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの有無を確認する。</li> <li>・避難してきた児童生徒等を落ち着かせるよう声かけを行う。</li> <li>・人員確認の支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で避難してきた児童生徒等は、自分の学級に合流する。</li> </ul>
--	---	--	--

### 【事後指導】

- ①防災主任の話聞く（自分で判断して行動することの大切さや安全な場所等について理解させる）。
- ②教室へ移動し、訓練の反省をする。

## 4 評価

- 【児童生徒等】
- 物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に素早く身を寄せて頭を守る等、安全を確保することができたか。
  - 自ら判断し安全な行動をとることができたか。

## 「地震から身を守る行動」

場 所		児 童 生 徒 等 の 行 動
校 内	教 室	近くの窓、壁と反対側に頭を向けて机の下にもぐり、机の足をしっかり持つ。 机のない場所では、椅子等の落下物を防げるものの下に隠れ、頭部を保護する。
	特別教室	初期行動は教室と同じ。 実験中であれば、危険物（実験器具棚、調理用棚、工具棚、実験器具、工具、アイロン等）から離れる。
	体育館	体育器具や窓ガラス等から離れ、中央部に集まる。頭部を保護し姿勢を低くする。（建物の構造などにより、柱や壁に寄り添う場合がよい場合もある）
	プール	プールのふちに移動し、プールのふちをつかむ。
	廊下階段	窓ガラス、蛍光灯の落下を避け、中央部で姿勢を低くする。 近くの教室の机の下にもぐる。
	トイレ	出口を確保し、頭部を保護する。
	運動場	校舎等からガラスの飛散や外壁の崩壊、フェンスや体育器具等の倒壊の危険性のあるものから離れる。
校外活動場所	室内での初期行動は、校内と同じ。 電車、バス等乗車中は、乗務員の指示に従う。	
通学路等	ブロック塀や瓦屋根、自動販売機などの危険物から離れ、頭部を保護し安全な場所に身を寄せる。	

### 避難訓練実施上の工夫

- 災害が休み時間に発生したという想定にし、あらかじめ行方不明となる児童生徒等を配置しておく、安全確認（点呼・人員確認）が正確にできるかを訓練する。
- 廊下等に落下物や転倒物に見立てた段ボール等を置き、危険を避けて避難経路を選択できるか訓練する。
- 防火扉が閉じている状況を想定して避難訓練を行う。
- 津波の被害が予想される学校は、地域住民や近隣の学校等と合同で高台等への避難訓練を行う。
- けがをした児童生徒等の搬送訓練（ロープを用いておんぶ、担架）を取り入れる。
- 訓練実施日は予告しておくが、想定災害の発生時刻は児童生徒等のもとより、教職員にも伏せておく。その際、心のケアの観点から配慮が必要な児童生徒等に対しては事前に十分な対応を行っておく（◎訓練の目的を伝える：「命を守るために大切な訓練であること」、◎参加の有無：「無理をして参加する必要がないこと。◎避難経路の確認：この経路を通れば安全であること。等）
- 訓練の様子を動画で記録し、相互評価に活用する。
- 数名の教職員を避難経路に配置し、避難誘導がスムーズに行えるかを評価する。
- 障がいのある児童生徒等については、障がいの状況に応じて避難を支援する教職員をあらかじめ決め、対応の仕方を共通理解するとともに、以下のような配慮を行う。
  - ◆訓練前に安全行動、避難行動について練習を行う。
  - ◆安全行動、避難行動の手順を視覚的に示したカードなどをあらかじめ提示しておく。
  - ◆校内の安全な場所をセーフゾーンとして定め、テープ等で印をつけるなど、視覚的に示しておく。
  - ◆報知音に抵抗がある場合は、イヤーマフを着用させたり、地震発生を旗や鈴で知らせたりするなど音の刺激をコントロールする。
  - ◆支援が必要な児童生徒等の場合は、「避難を手伝ってください」「防災ずきんをとってください」など支援を求める練習も行う。

# 引き渡し訓練計画例

## 1 目的

大規模地震等発生時、児童生徒等の安全を確保し、速やかに児童生徒等を保護者等に引き渡すことができるようにする。

## 2 想定

震度5弱の地震が発生。学校防災マニュアルの引き渡し基準に基づき、引き渡しを決定した。

## 3 展開

### 【事前指導】

- 引き渡し訓練の目的や行動の仕方を確実に理解させる。
- 避難訓練と併せて実施することで、より実践的な訓練とする。

全体指揮者の動き	担任等の動き	他の教職員の動き	児童生徒等の動き
<b>大規模地震等発生を想定した避難訓練の実施 避難場所へ到着 全員の避難確認</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の引き渡し基準に基づき、引き渡しを決定し、教職員に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ提出された引き渡しカードの準備を行う。</li> <li>・引き渡しまで、静かに待つように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉メール（第一報）で児童生徒等の安全が確保されていることを連絡する。</li> <li>・一斉メール（第二報）引き渡しを決定したことを保護者等に連絡する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き取りがあるまで、担任等の指示を聞き、静かに待つ。</li> </ul>
<b>保護者等への引き渡し開始</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体が把握できる位置に立ち、引き渡しの様子を掌握する。</li> <li>・引き渡し状況の報告を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き渡しカードをもとに、引き取り者を確認し、一人ずつ確実に引き渡す。</li> <li>・引き渡しカードに引き渡した時刻を記録する。</li> <li>・引き渡しが終了した担任は、本部に終了時間を報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校門等に立つ教職員は引き取り者の確認を行い、不審者が紛れ込まないようにする。</li> <li>・引き取り者の動線が交わらないように誘導する。</li> <li>・引き渡しの支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を呼ばれたら引き取り者の所へ移動し、担任と一緒に引き取り者の確認をする。</li> <li>・引き渡し後は、引き取り者と通学路の危険箇所等を確認しながら下校する。</li> </ul>
<h3>【事後指導】</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>○引き渡し後は、引き取り者と一緒に通学路の危険箇所を確認しながら下校する。</li> <li>○把握した危険箇所については、学校にも報告する。</li> </ul>			

## 4 評価

【児童生徒等】 引き渡し訓練の意義を理解し、指示を守って行動することができたか。

【教職員】 教職員が連携行動し、スムーズかつ安全に引き渡しを行うことができたか。

# 登下校時の避難訓練計画例

## 1 目的

登下校中の災害を想定した訓練を実施することで、児童生徒の「自助」の意識を高めるとともに保護者・地域・学校が連携して、登下校中の児童生徒の安全を確保する体制を構築する。

## 2 想定

児童生徒の下校中に震度5弱の地震が発生し、校舎・地域家屋の倒壊の恐れもある。全ての児童生徒の安全を確認できていない。

## 3 展開

### 【事前指導】

- ①通学路上の安全な場所や危険な場所について理解させる。
- ②二次避難で向かう場所や安全な場所について保護者等と事前に話し合い、予め決めておく。

学校・教職員の動き	児童生徒の動き	保護者・地域住民の動き
○時○分 震度5弱の地震が発生		
<b>【安全行動】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路上の各ポイントに立ち、ホイッスルや大声で地震発生を知らせる。(防災無線等も活用)</li> <li>・保護者や地域住民に児童生徒の安全確保をメールや放送で依頼する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生を知り、1次避難行動をとる(落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を隠す、頭部の保護等)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で、近くの児童生徒に地震発生を知らせる。</li> <li>・安全行動がとれていない児童生徒に声をかけ、できる範囲で一緒に行動する。</li> </ul>
<b>【放送・メール】訓練。地震が発生しました。下校中の児童生徒の安全確保をお願いします。</b>		
<b>【避難行動】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下校中の児童生徒について、保護者や地域住民に避難誘導を依頼する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール及び放送を確認し、児童生徒の安全確保を行う。</li> </ul>
<b>【放送・メール】訓練。地震がおさまりました。下校中並びに自宅に戻ってきた児童生徒の安全確保をお願いします。</b>		
<b>【災害対策本部の設置】</b> <u>避難誘導班</u> : 学校にいる児童生徒数の確認をする。 <u>安全点検班</u> : 校内の被災状況を確認する。 <u>安否確認班</u> : 保護者に安否確認のメールを発信し、返信を依頼する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等との取り決めのとおり、安全な場所に向かう。その際、できるだけ集団で移動する。 ※安全な場所に向かう経路に危険な場所はないか確認する。</li> <li>・保護者等と取り決めた安全な場所で待機しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な範囲で外に出て、自分の子どもや近隣の児童生徒の安全確認・誘導をする。 【地域住民等】</li> <li>・保護者等と取り決めた場所で、児童生徒の安全を確認する。 【保護者等】</li> </ul>
<b>【メール】訓練。児童生徒の安否確認を行います。以下の3つのいずれかを選び、速やかに返信してください。1「安全な場所」・・・予め決めておいた場所におり、安全である。2「保護者と一緒」・・・現在、保護者と一緒で安全である。3「不明」・・・現在、子どもがどこにいるのかわからない。</b>		

<p><b>安否確認班</b>: 児童生徒名簿にチェックして、災害対策本部に連絡する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区を巡回し、迷っている児童生徒がいたら、安全な場所に誘導する。</li> </ul>
<p><b>災害対策本部</b>: 不明児童生徒の確認を行い、捜索開始を指示する。</p>		<p>【地域住民等】</p>
<p><b>学校</b>: (安否不明児童生徒がいたら) 通学路や保護者等と取り決めておいた場所を捜索する。 安否確認が取れたら学校に連絡する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から児童生徒の不明連絡がきたら、心当たりを捜索する。</li> <li>・安否確認ができたら学校に連絡する。 【保護者等】</li> </ul>
<p><b>学校</b>: 全員の安否確認が完了したら保護者・地域住民に全員の安否確認完了と訓練終了を連絡する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等と一緒に帰宅する。</li> </ul>	
<p>【放送・メール】訓練。全員の安否が確認されました。訓練終了とさせていただきます。本日は、御協力ありがとうございました。</p>		
<p><b>【事後指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○後日、参加した地域住民や保護者等、通学路のポイントに立った教職員の反省をもとに、安全行動、避難行動について指導を行う。</li> <li>○備えとして、「マスク、軍手、連絡先を書いた紙や防犯笛」などを携行しておくことの重要性について理解させる。</li> </ul>		

#### 4 評価

- 【児童生徒】 通学路の状況に応じた適切な避難行動をとることができたか。  
保護者等と取り決めた安全な場所に行くまでに、危険な場所はなかったか。
- 【教職員】 児童生徒の安全確保、安否確認のための情報収集・情報提供をスムーズに行うことができたか。
- 【保護者・地域住民】 学校と連携を図り、児童生徒の安全確保、安否確認のための情報提供をスムーズに行うことができたか。

# 地域と連携した避難訓練計画例

## 1 目的

地域と連携した避難訓練を行うことで、災害発生時における「自助」「共助」のための連携・協働体制の構築を図る。

## 2 事前の準備

### (1) 協議会の設定・参加者

学校関係者、関係機関（教育委員会、市町村防災部局、消防署、警察署等）、自治会、自主防災組織、保護者代表者等との協議の場を設定する。

### (2) 協議内容

- ・ 日程：保護者や地域住民の参加を促すためには、既存の学校行事や地域行事に併せて実施するなどの工夫が考えられる。
- ・ 想定：市町村防災部局と協議し、地域で想定される災害を想定して実施する。
- ・ 内容：児童生徒、教職員、保護者、地域住民と一緒に参加できるように工夫する。  
（学校避難後に、避難所開設訓練、心肺蘇生法実技講習会、炊き出し訓練、防災講演会等を実施する。）  
訓練開始の周知方法や避難経路の設定、避難中の安全確保について協議をする。
- ・ 準備：保護者等の参加呼びかけや訓練に使用する消火器等の機材等の準備は、学校が行い、地域住民への参加の働きかけや、学校で準備が困難な資機材の準備は自治会に依頼する等、協力して行う。  
配慮を要する児童生徒等のため、訓練で使用する教材等を準備する。

### (3) 地域住民等への協力依頼を行う。

## 3 展開

【事前指導】			
熊本地震を例に、大規模災害発生時は、地域住民と協力し合い、助け合うことの重要性を理解させる。			
全体指揮者の動き	教職員の動き	児童生徒の動き	地域住民等の動き
緊急地震速報を活用した避難訓練を実施			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の動きが把握できる位置に立ち、避難の様子を掌握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難場所での児童生徒等の指導を行う。 【安否確認・避難誘導班】</li> <li>・ 校舎等の安全点検を行う。 【安全点検班】</li> <li>・ 学校に避難してきた地域住民の誘導を行う。【避難誘導班】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の指示を守り、静かに避難場所で待機をする。</li> <li>・ 必要に応じて、学校に避難してくる地域住民の支援を行うことも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災無線等の合図を聞き、学校等に避難を開始する。</li> </ul>
【学校避難後に行う地域と連携した訓練内容等の例】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難所開設訓練                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難者受付及び名簿の作成</li> <li>・ 開放区域及び開放優先順位の説明</li> <li>・ 避難所生活のルール説明</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆心肺蘇生法実技講習会</li> <li>◆炊き出し訓練</li> <li>◆災害図上訓練（DIG）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆消火訓練</li> <li>◆引き渡し訓練</li> <li>◆防災講話</li> </ul>	
【事後指導】			
地域住民と協力して、自分たちができることに主体的に取り組むことや、日頃から地域住民との交流を積極的に行っておくことの重要性について確認する。			

## 4 評価

○参加者からの反省を集め、次年度の計画に反映させる。



## 「学校防災教育指導の手引」作成委員

竹内裕希子	熊本大学大学院先端科学研究部准教授
松下 光広	熊本地方気象台防災管理官
末吉 仙英	九州地方整備局熊本河川国道事務所調査第一課長
大村 克行	熊本県危機管理防災課主幹
山本 定	御船町立小坂小学校長
坂梨 正文	南阿蘇村立南阿蘇中学校長
平岡 馨	宇城市立豊野中学校副校長
大谷 誠	南阿蘇村立南阿蘇西小学校主幹教諭
柏 晃司	益城町立益城中央小学校主幹教諭
安本 賢治	荒尾市立荒尾第一小学校主幹教諭
堀下 欣也	熊本市立健軍小学校主幹教諭
原口 淳一	山鹿市立中富小学校教諭
本田 幹雄	西原村立山西小学校教諭
豊暉原智声	八代市立郡築小学校教諭
溝部竜太郎	水俣市立水俣第一小学校教諭
本田 圭一	益城町立津森小学校教諭
関 嘉晋	菊池市立泗水小学校教諭
藤ノ木隆洋	上天草市立維和中学校教諭
中武 修	人吉市立第三中学校教諭
木村 誠希	宇城市立松橋中学校教諭
山本 昌宏	熊本県立熊本工業高等学校教諭
清水健太郎	熊本県立松橋支援学校教諭
米田 拓二	熊本県立熊本西高等学校教諭
塩村 勝正	熊本県立教育センター指導主事

なお、熊本県教育庁教育指導局体育保健課においては、次の者が本書の編集に当たった。

西村 浩二	熊本県教育庁教育指導局体育保健課長
大嶋 康裕	熊本県教育庁審議員兼教育指導局体育保健課課長補佐
江藤 潤	熊本県教育庁教育指導局体育保健課主幹兼学校安全係長
淀川 一哉	熊本県教育庁教育指導局体育保健課学校安全係指導主事
宮本 昌嗣	熊本県教育庁教育指導局体育保健課学校安全係指導主事
黒川 雅弘	熊本県教育庁教育指導局体育保健課学校安全係指導主事

